

総合戦略の策定に向けた アンケート結果

1 アンケート調査の実施概要

1-1 調査の目的

本調査は、大和市の「地方創生」に係わる取組みを積極的に推し進めていくための長期的な指針とする「(仮称)大和市人口ビジョン」の策定に先立ち、今後目指すべき人口に関する将来の方向や展望を検討するための基礎資料として活用することを主な目的とし、市民を対象とした意向調査を行うものである。

なお、人口ビジョンを踏まえて今後5ヶ年の目標や施策等をまとめる「(仮称)大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略」への活用も視野に入れ、子育て支援や定住促進に関する施策に関する意向も把握可能な調査とした。

1-2 調査の内容と対象

		独身者 アンケート	夫婦世帯 アンケート	定住意向 アンケート
調査内容	概要	独身者の交際や結婚、 出産に対する意識を把握する	夫婦の結婚過程や出産 の実態、子育て支援へ の要望を把握する	市民の定住の実態や意向、 大和市の魅力を把握する
	調査事項	<ul style="list-style-type: none"> •結婚・独身生活 •異性との交際 •結婚に対する希望 •その他(属性、自由意見) 	<ul style="list-style-type: none"> •結婚までの過程 •子どもの数 •不妊について •結婚等の価値観 •子育てに関する施策 •その他(属性、自由意見) 	<ul style="list-style-type: none"> •定住意向について •定住促進に向けた取り組み •大和市の魅力や愛着 •その他(属性、自由意見)
調査対象		18歳以上50歳未満の 未婚の男女2,000人	50歳未満の 既婚の男女2,000人	16歳以上の 男女2,000人

1-3 調査方法

郵送により配布・回収

1-4 調査実施日

2015年6月18日(木)～同年7月3日(木)

1-5 回収結果

	独身者 アンケート	夫婦世帯 アンケート	定住意向 アンケート	全 体
配布数	2,000	2,000	2,000	6,000
回収数	392	854	951	2,197
回収率	19.6%	42.7%	47.6%	36.6%

2 アンケート調査の結果

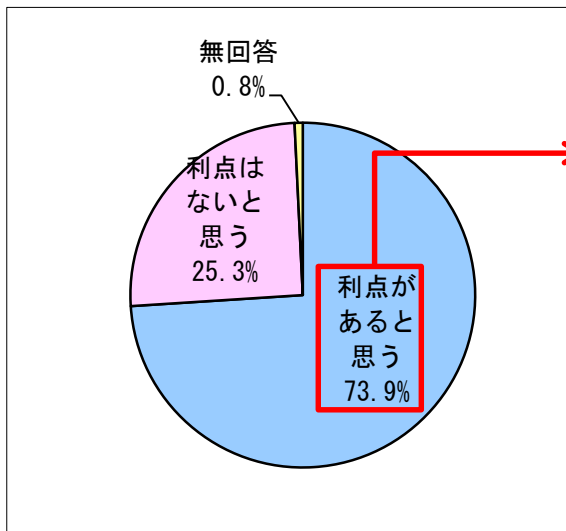
2-1 独身者アンケート

2-1-1 結婚・独身生活について

(1) 結婚の利点

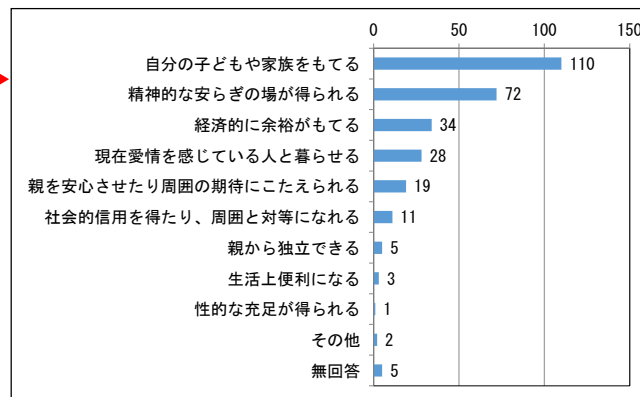
- 結婚には「利点があると思う」が73.9%、「利点はないと思う」が25.3%となった。
- 具体的な利点(最大)は「自分の子どもや家族をもてる」(37.9%)が最も多く、次いで「精神的な安らぎの場が得られる」(24.8%)、「経済的に余裕がもてる」(11.7%)となった。
- 具体的な利点(第二)は「自分の子どもや家族をもてる」(20.0%)が最も多く、次いで「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる」(19.7%)、「精神的な安らぎの場が得られる」(18.3%)となった。

利点の有無 (N=392)

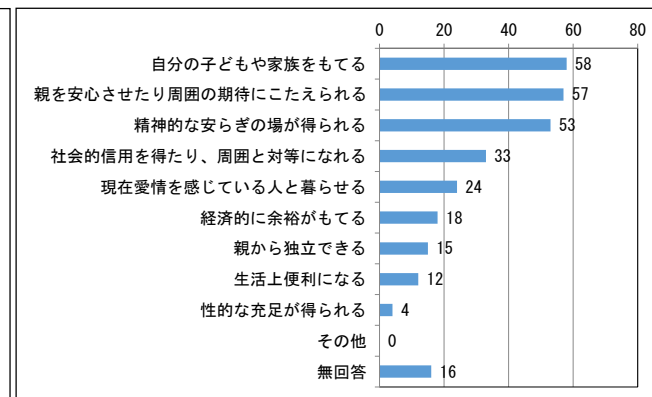


具体的な利点 (N=290)

【最大の利点】



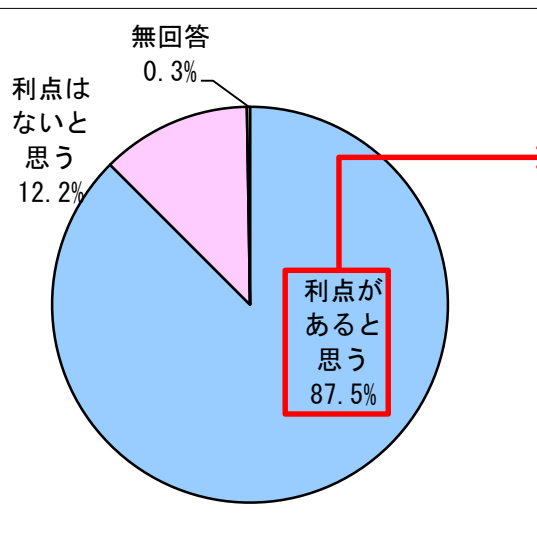
【第二の利点】



(2) 独身生活の利点

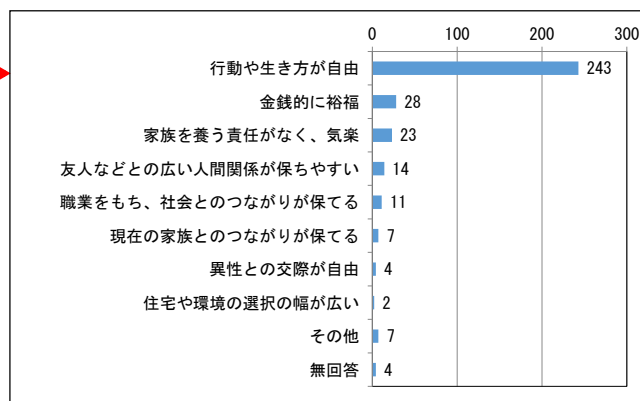
- 独身生活には「利点があると思う」が 87.5%、「利点はないと思う」が12.2%となった。
- 具体的な利点(最大)は「行動や生き方が自由」(70.8%)が最も多く、次いで「金銭的に裕福」(8.2%)、「家族を養う責任がなく、気楽」(6.7%)となった。
- 具体的な利点(第二)は「家族を養う責任がなく、気楽」(23.0%)が最も多く、次いで「金銭的に裕福」(16.0%)、「行動や生き方が自由」(15.2%)となった。

利点の有無 (N=392)

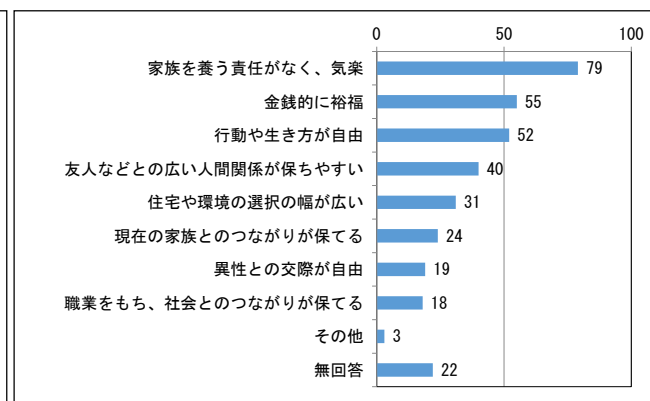


具体的な利点 (N=343)

【最大の利点】

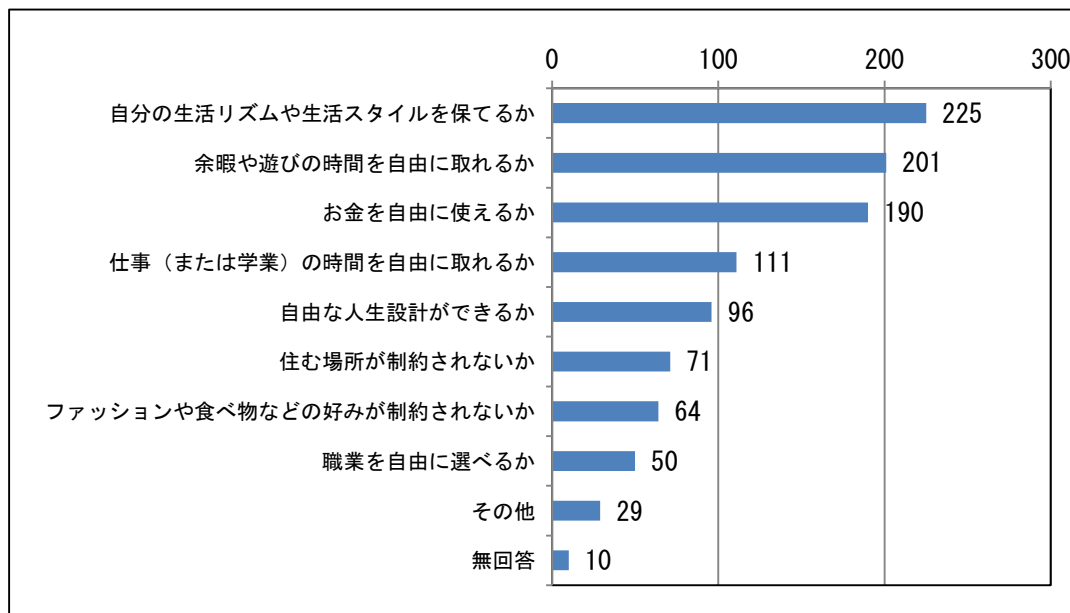


【第二の利点】



(3) 結婚を考えた時の気になること (N=392)

- 結婚を考えた時の気になることは「自分の生活リズムや生活スタイルを保てるか」(57.4%)が最も多く、次いで「余暇や遊びの時間を自由に取れるか」(51.3%)、「お金を自由に使えるか」(48.5%)となった。

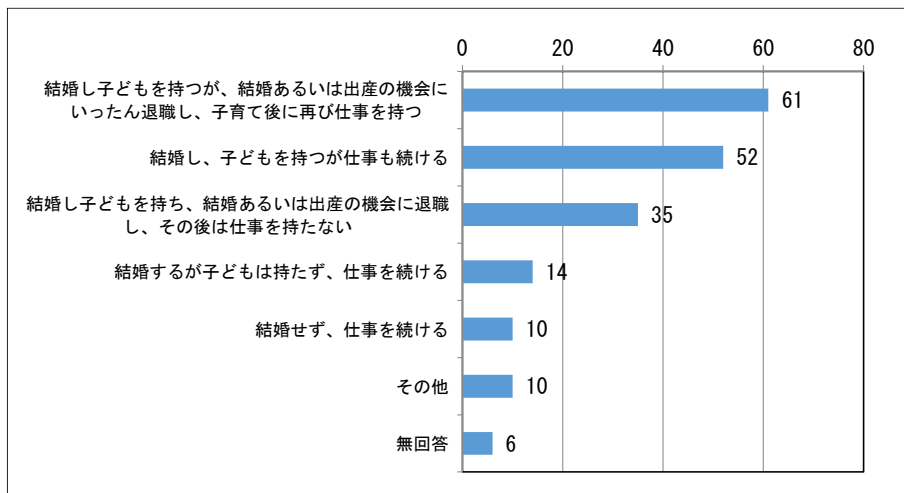


(4) 女性の生き方のタイプ(女性の考え)

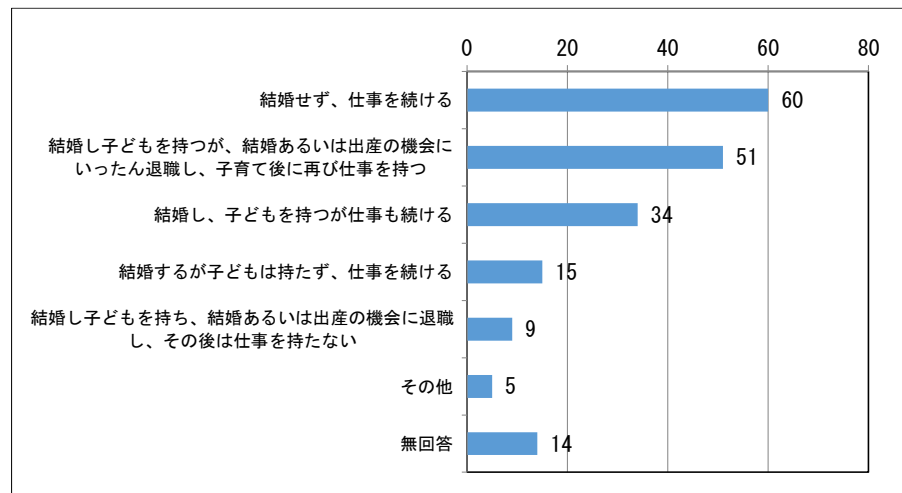
- 女性の理想の人生は「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」(32.4%)が最も多く、次いで「結婚し、子どもを持つが仕事も続ける」(27.7%)、「結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない」(18.6%)となった。
- 女性の実際の人生は「結婚せず、仕事を続ける」(31.9%)が最も多く、次いで「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」(27.1%)、「結婚し、子どもを持つが仕事も続ける」(18.1%)となった。

【女性】 (N=188)

理想の人生



実際の人生

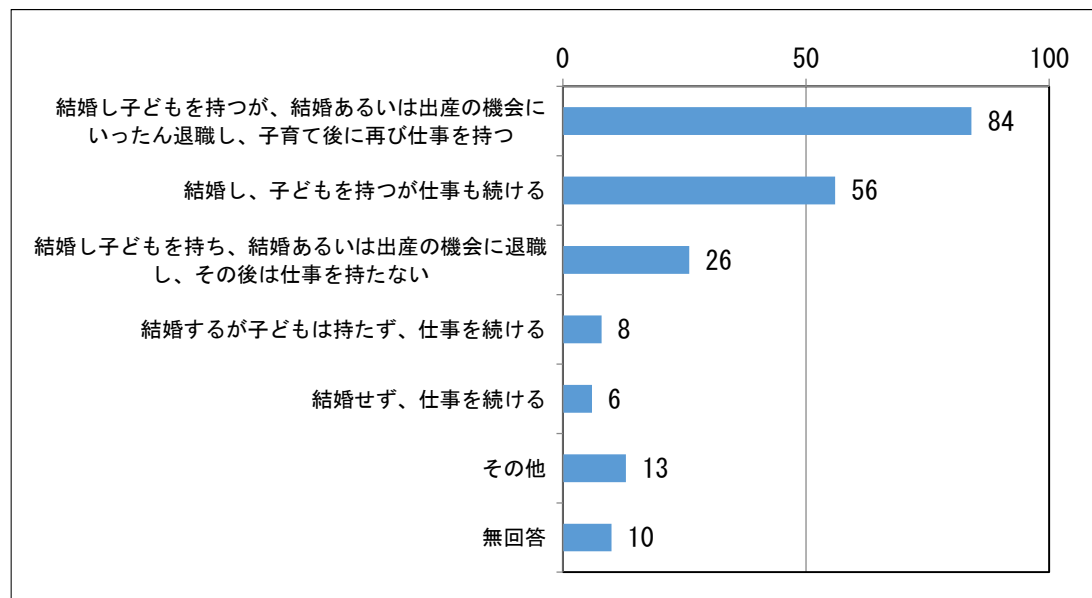


(4) 女性の生き方のタイプ(男性の考え)

- 男性の女性に望む人生は「結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」(41.4%)が最も多く、次いで「結婚し、子どもを持つが仕事も続ける」(27.6%)、「結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない」(12.8%)となった。

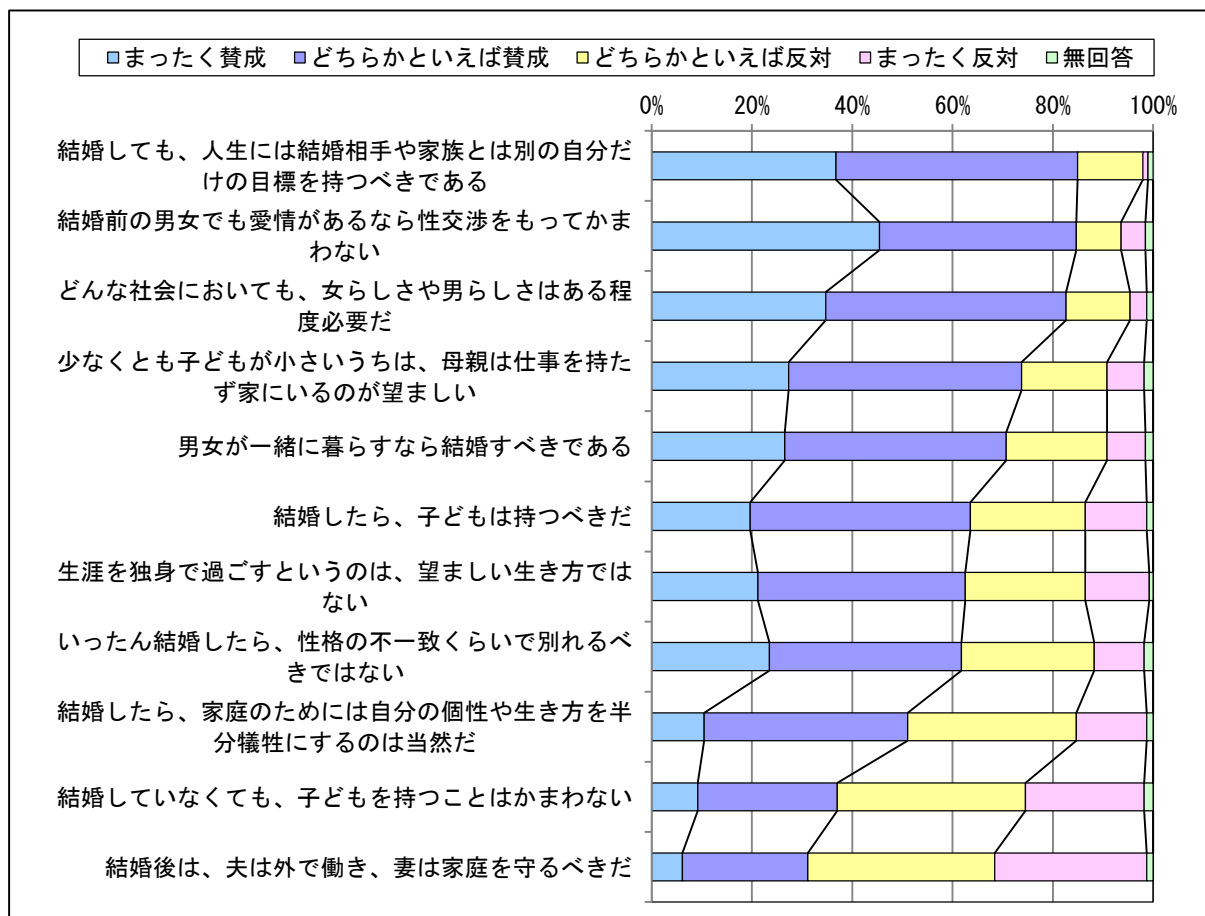
【男性】(N=203)

女性に望む人生



(5) 結婚、男女関係、家庭、子どもを持つことの方 (N=392)

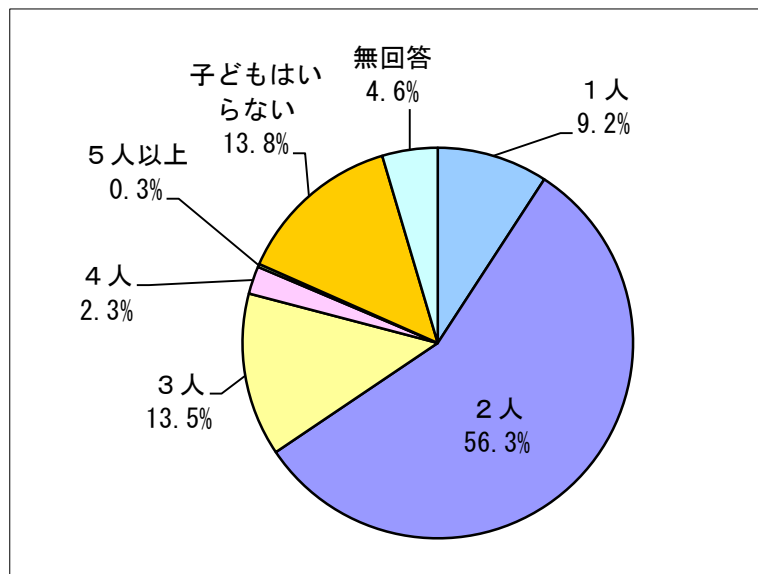
- 結婚等の考え方で賛成(「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」)なことは「結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべき」(84.9%)が最も多く、次いで「結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉をもってかまわない」(84.6%)、「どんな社会においても、女らしさや男らしさはある程度必要だ」(82.7%)となった。



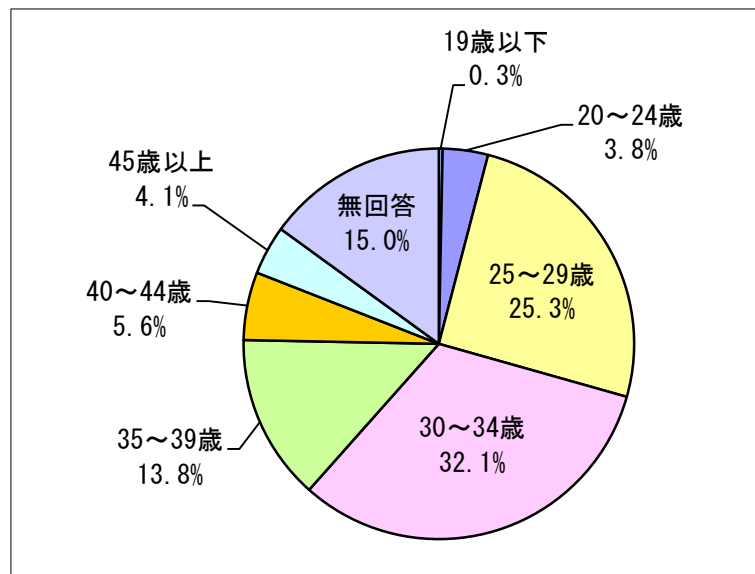
(6) 子どもの希望について

- 希望する子どもの人数は「2人」(56.3%)が最も多く、次いで「3人」(13.5%)、「1人」(9.2%)となった。
- 子どもを持ちたい年齢は「30～34歳」(32.1%)が最も多く、次いで「25～29歳」(25.3%)、「35～39歳」(13.8%)となった。

希望する子どもの人数 (N=392)

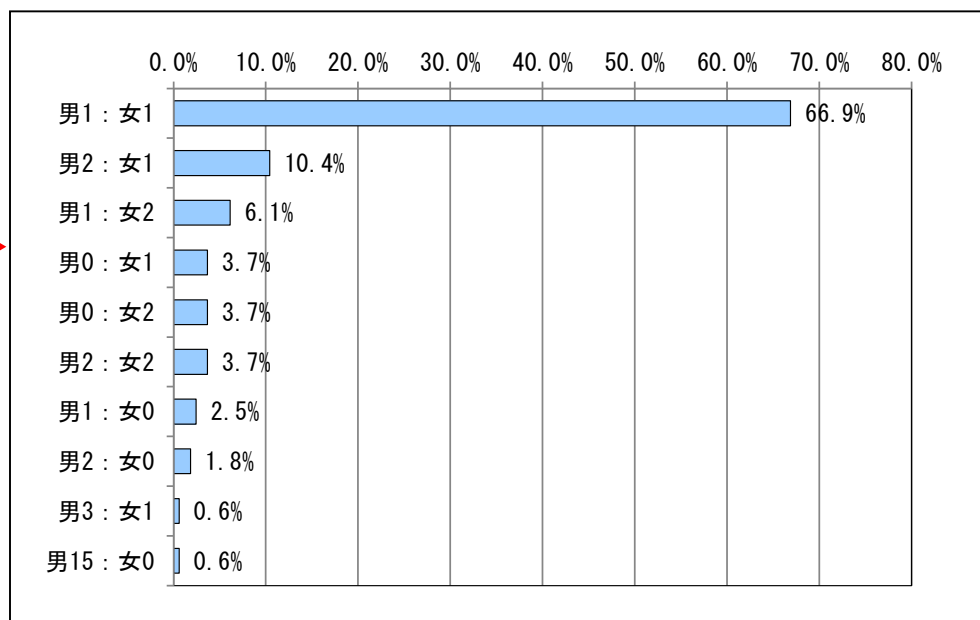
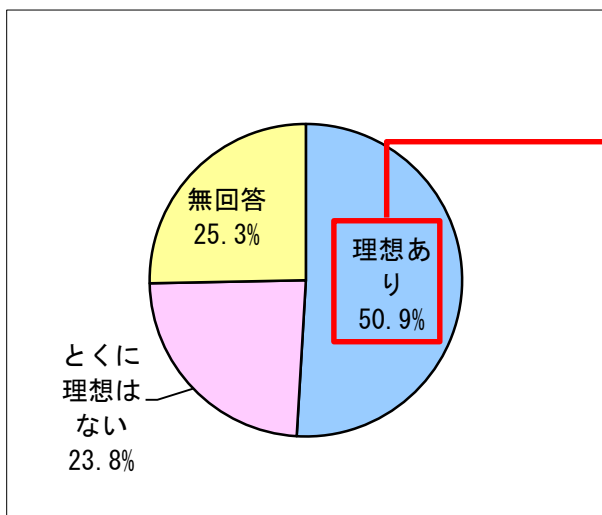


子どもを持ちたい年齢 (N=320)



- 子どもの男女の組合せは「理想あり」が 50.9%、「とくに理想はない」が23.8%となった。

子どもの男女の組合せ (N=320)

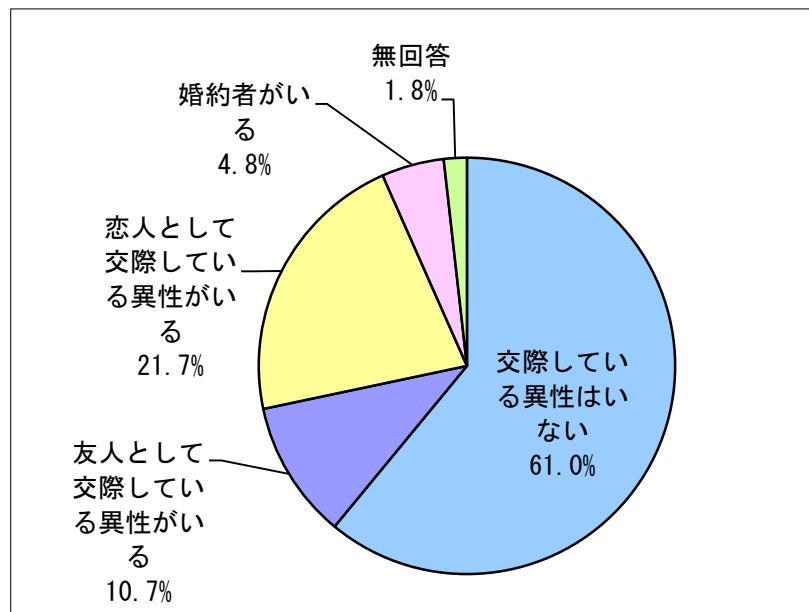


2-1-2 異性との交際について

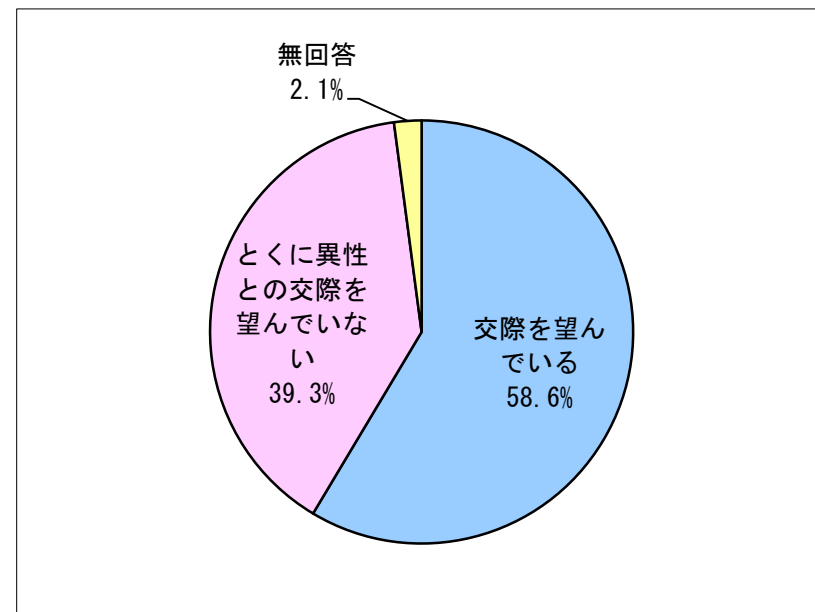
(1) 異性との交際について

- 異性との交際の状況は「交際している異性はいない」(61.0%)が最も多く、次いで「恋人として交際している異性がいる」(21.7%)、「友人として交際している異性がいる」(10.7%)となった。
- 交際の希望は「交際を望んでいる」が58.6%、「とくに異性との交際を望んでいない」が39.3%となった。

異性との交際の状況 (N=392)

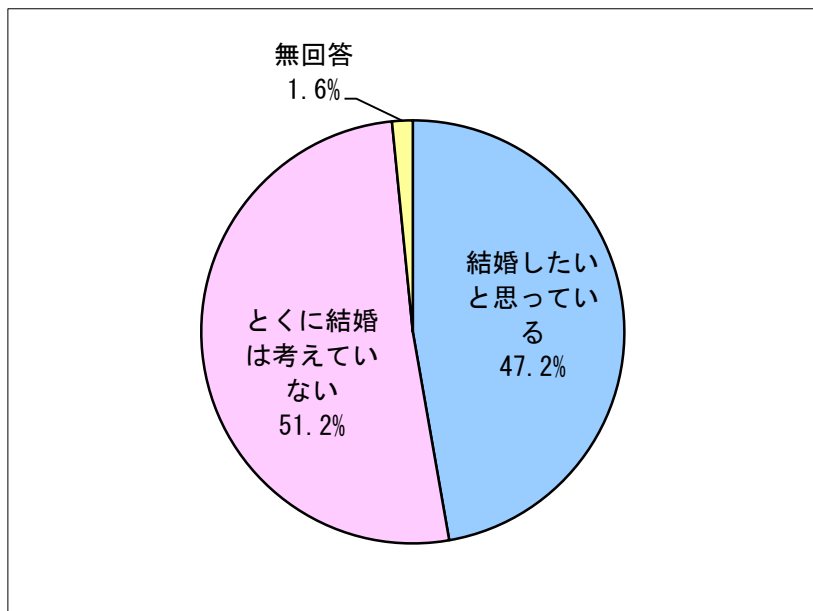


交際の希望 (N=239)

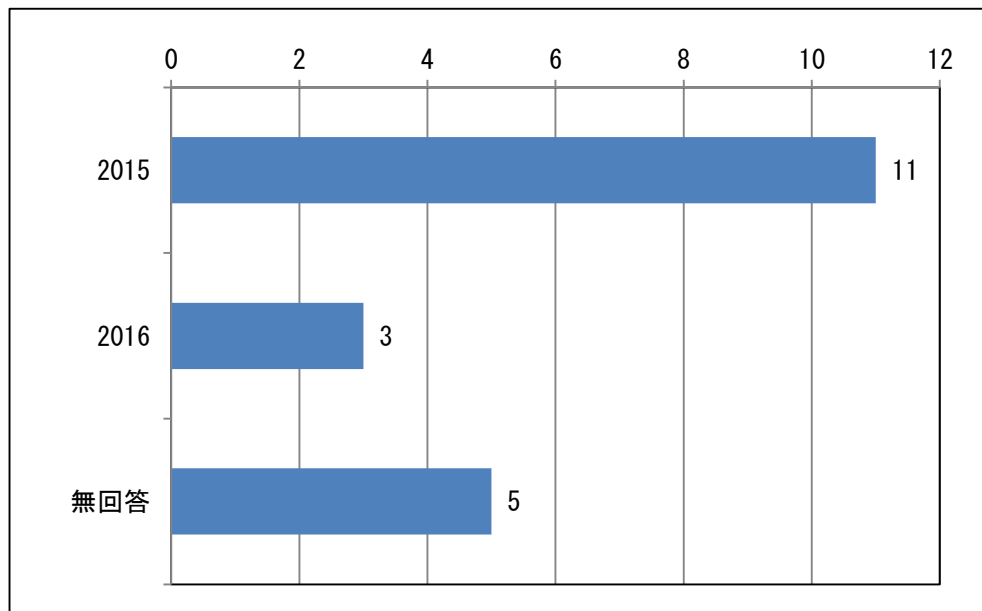


- 交際相手との結婚希望は「結婚したいと思っている」が47.2%、「とくに結婚は考えていない」が51.2%となった。
- 結婚の予定は「2015年」(57.9%)が最も多く、次いで「2016年」(15.8%)となった。

交際相手との結婚希望 (N=127)



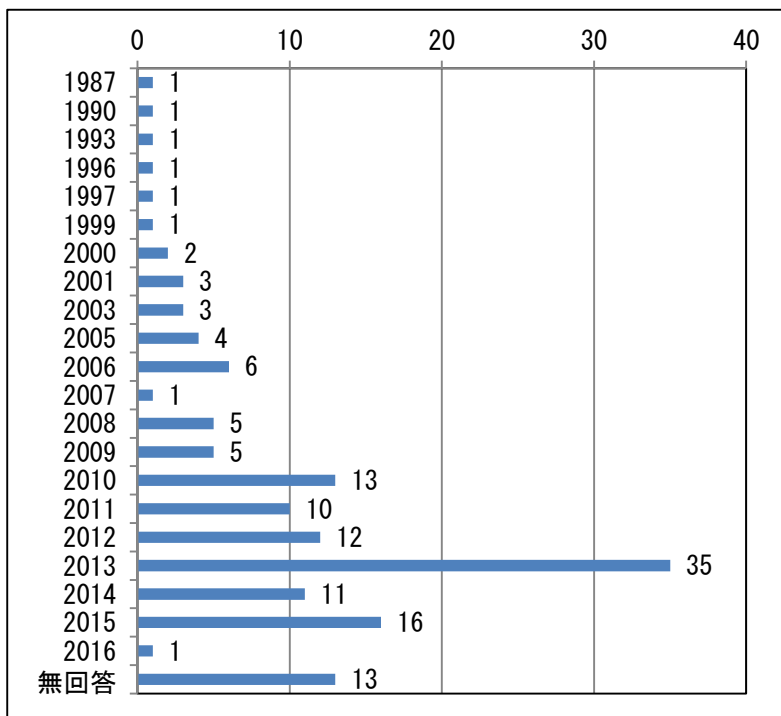
結婚の予定 (N=19)



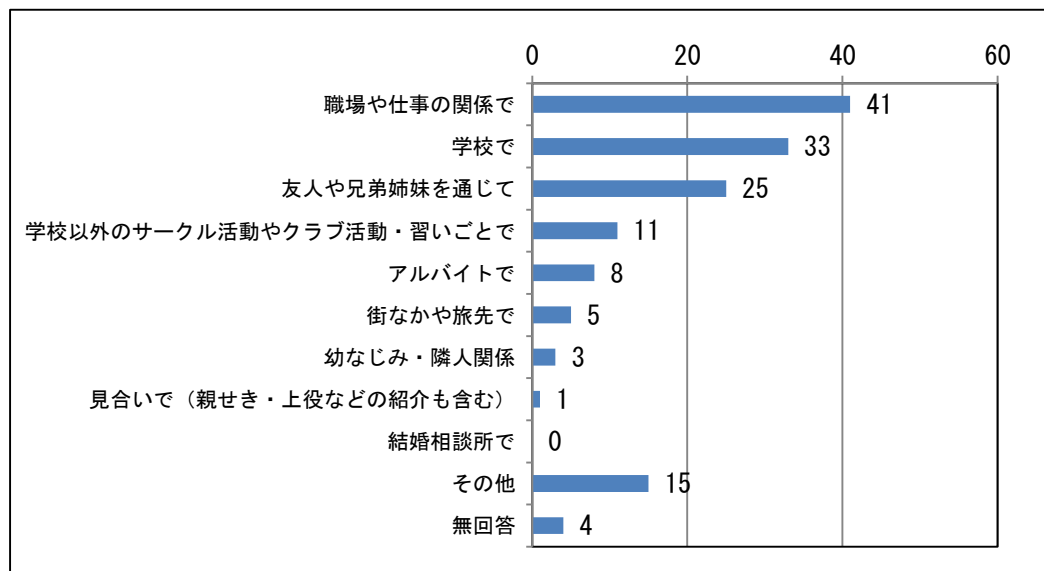
(2) 交際相手について

- 知り合った年は「2013年」(24.0%)が最も多く、次いで「2015年」(11.0%)、「2010」(8.9%)となった。
- 知り合ったきっかけは「職場や仕事の関係で」(28.1%)が最も多く、次いで「学校で」(22.6%)、「友人や兄弟姉妹を通じて」(17.1%)となった。

知り合った年 (N=146)

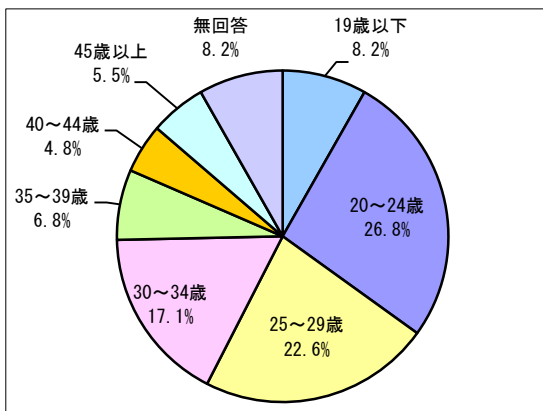


知り合ったきっかけ (N=146)

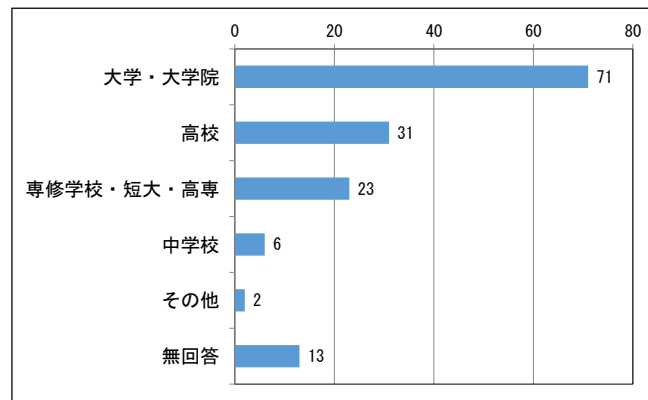


- 交際相手の年齢は「20～24歳」(26.8%)が最も多く、次いで「25～29歳」(22.6%)、「30～34歳」(17.1%)となった。
- 交際相手の最終学歴は「大学・大学院」(48.6%)が最も多く、次いで「高校」(21.2%)、「専修学校・短大・高専」(15.8%)となった。
- 就業形態は「正社員・正職員」(48.6%)が最も多く、次いで「自営業主・家族従業者」(17.8%)、「学生」(11.6%)となった。

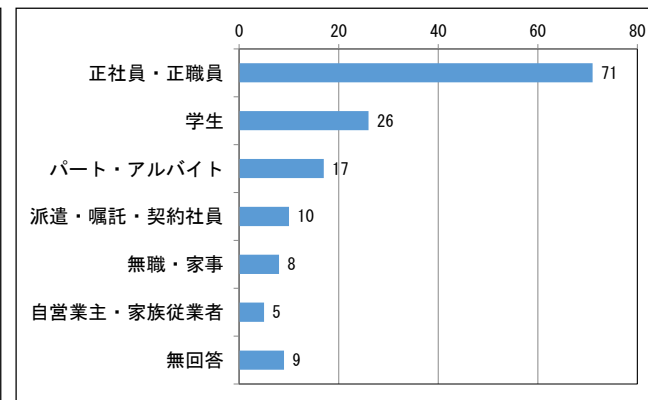
年齢 (N=146)



最終学歴 (N=146)

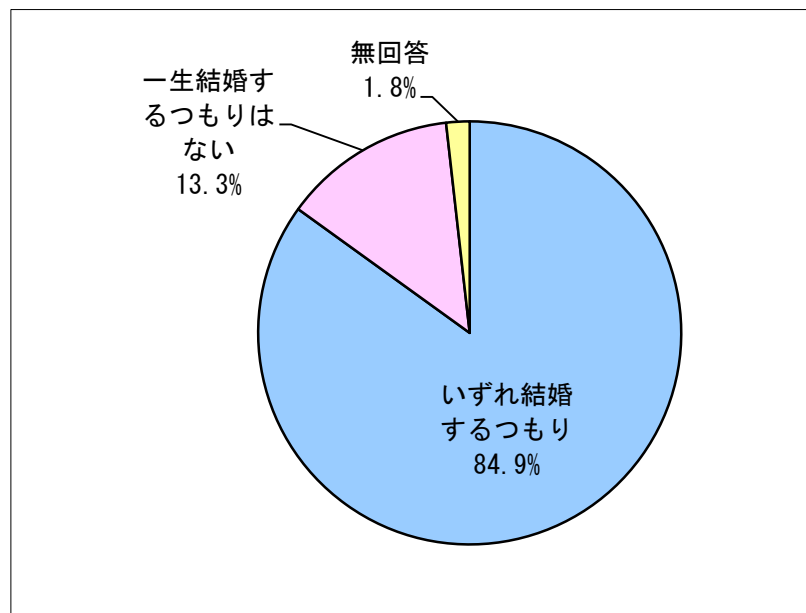


就業形態 (N=146)



(3)結婚の意向 (N=392)

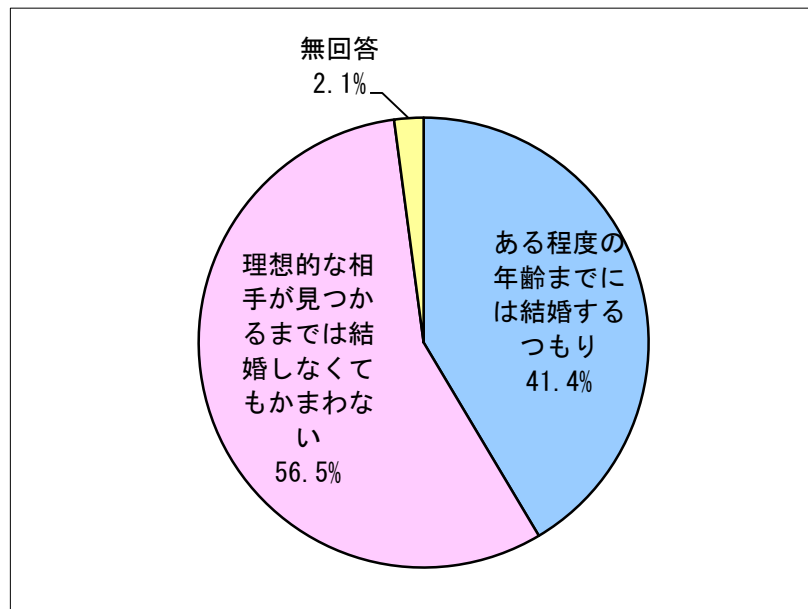
- 結婚の意向は「いずれ結婚するつもり」が 84.9%、「一生結婚するつもりはない」が13.3%となった。



2-1-3 結婚に対する希望について

(1) 結婚へのこだわり (N=333)

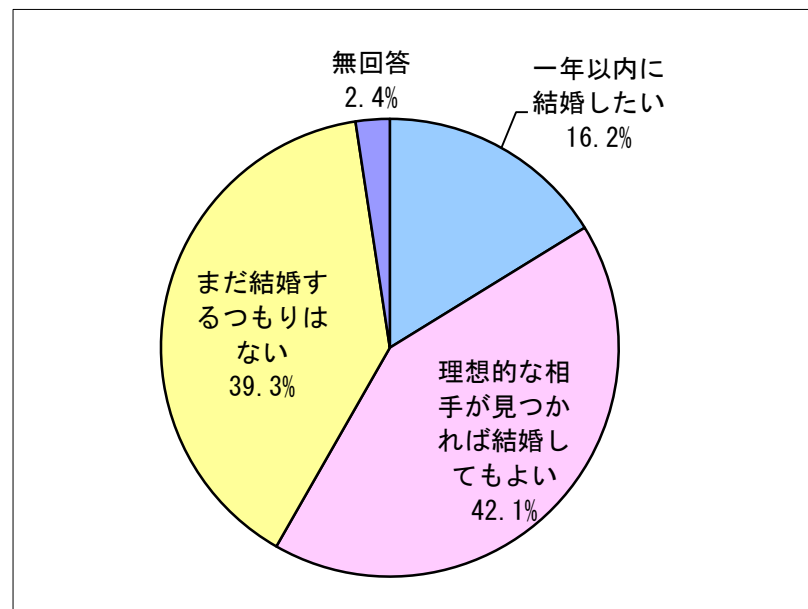
- 結婚のタイミングは「ある程度の年齢までには結婚するつもり」が41.4%、「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」が56.5%となった。



(2) 一年以内の結婚意向 (N=333)

(N=333)

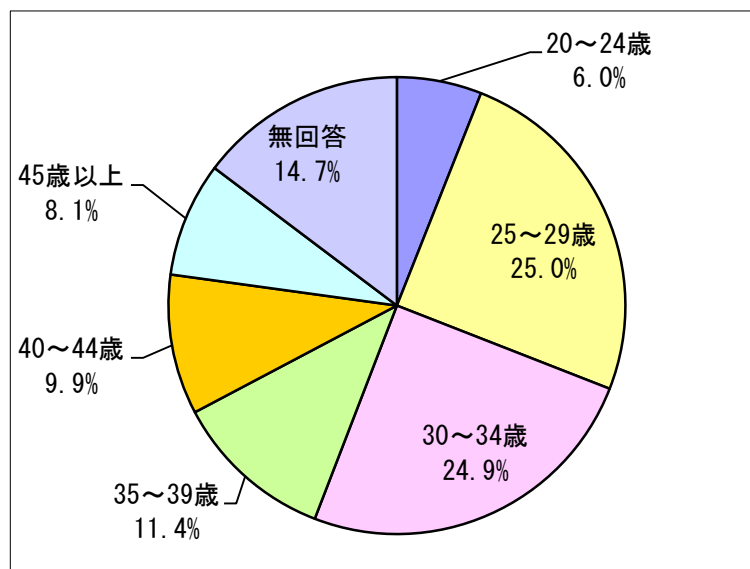
- 一年以内の結婚に対する考えは「理想的な相手が見つければ結婚してもよい」(42.1%)が最も多く、次いで「まだ結婚するつもりはない」(39.3%)、「一年以内に結婚したい」(16.2%)となった。



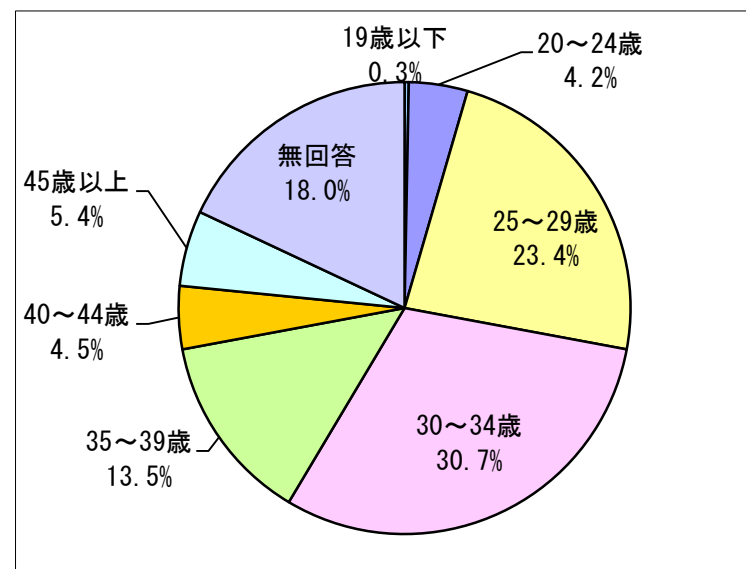
(3) 結婚の年齢

- 自分の結婚したい年齢は「25～29歳」(25.0%)、「30～34歳」(24.9%)が最も多く、次いで「35～39歳」(11.4%)となった。
- 結婚したい相手の年齢は「30～34歳」(30.7%)が最も多く、次いで「25～29歳」(23.4%)、「35～39歳」(13.5%)となった。

【自分】 (N=333)

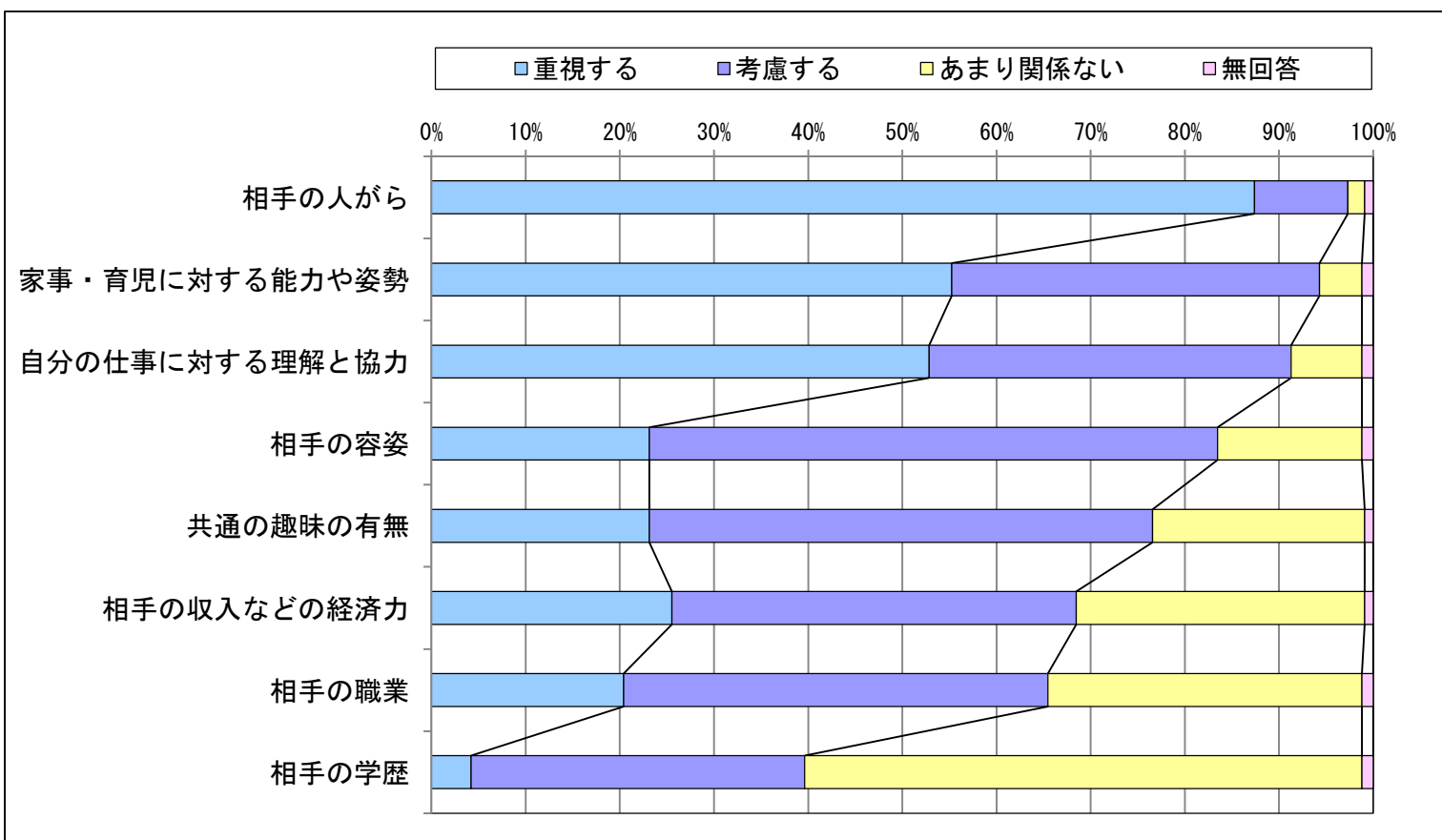


【相手】 (N=333)



(4) 結婚相手に求めること (N=335)

- 結婚相手に求めることで「重視する」と回答しているのは「相手の人から」(86.9%)が最も多く、次いで「家事・育児に対する能力や姿勢」(54.9%)、「自分の仕事に対する理解と協力」(52.5%)となった。



(5) 一年以内の結婚に対する障害

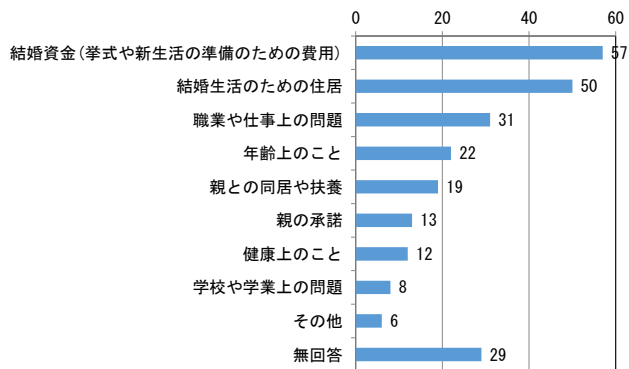
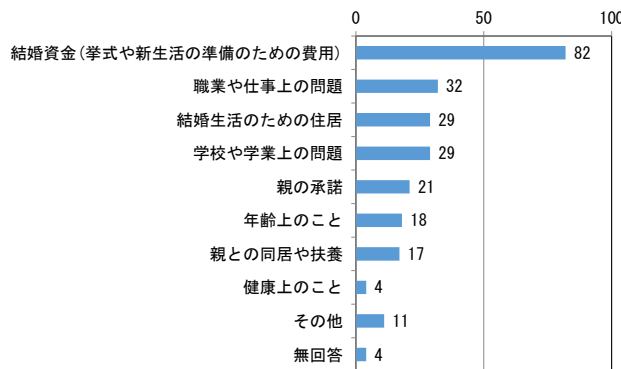
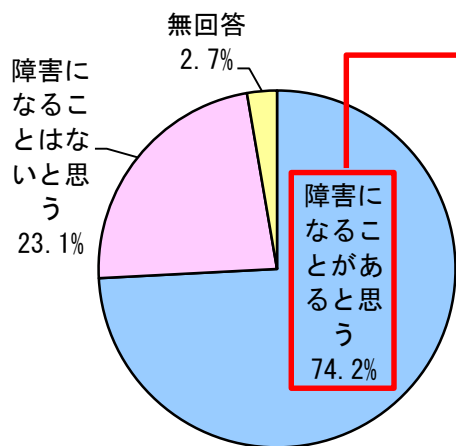
- 一年以内の結婚に対する障害は「障害になることがあると思う」が 74.2%、「障害になることはないと思う」が23.1%となった。
- 具体的な障害(最大)は「結婚資金(挙式や新生活の準備のための費用)」(33.2%)が最も多く、次いで「職業や仕事上の問題」(13.0%)、「学校や学業上の問題」「結婚生活のための住居」(11.7%)となった。
- 具体的な障害(第二)は「結婚資金(挙式や新生活の準備のための費用)」(23.1%)が最も多く、次いで「結婚生活のための住居」(20.2%)、「職業や仕事上の問題」(12.6%)となった。

障害の有無 (N=333)

具体的な障害 (N=247)

【最大の障害】

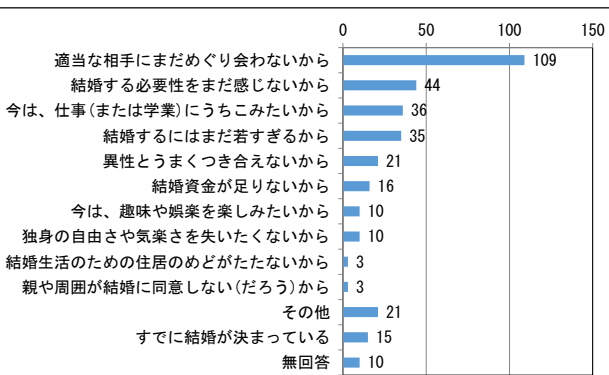
【第二の障害】



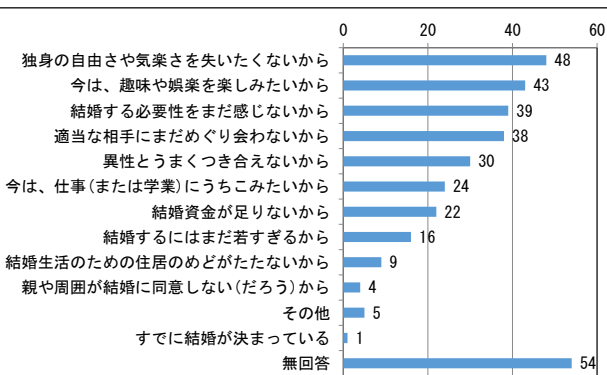
(6) 独身でいる理由

- 独身でいる理由(最大)は「適切な相手にまだめぐり会わないから」(32.7%)が最も多く、次いで「結婚する必要性をまだ感じないから」(13.2%)、「今は、仕事(または学業)にうちこみたいから」(10.8%)となった。
- 独身でいる理由(第二)は「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(14.4%)が最も多く、次いで「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」(12.9%)、「結婚する必要性をまだ感じないから」(11.7%)となった。
- 独身でいる理由(第三)は「独身の自由さや気楽さを失いたくないから」(15.0%)が最も多く、次いで「適切な相手にまだめぐり会わないから」「結婚資金が足りないから」(11.1%)、「今は、趣味や娯楽を楽しみたいから」(10.8%)となった。

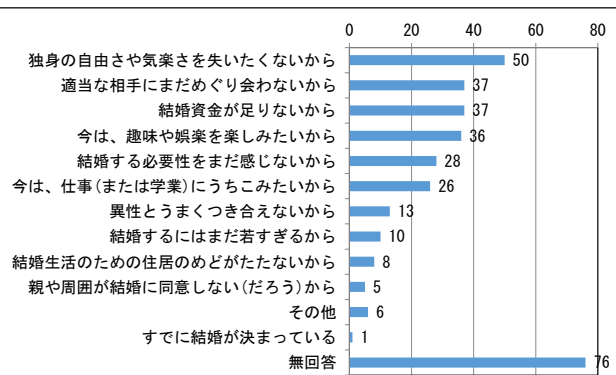
【最大の理由】 (N=333)



【第二の理由】 (N=333)



【第三の理由】 (N=333)

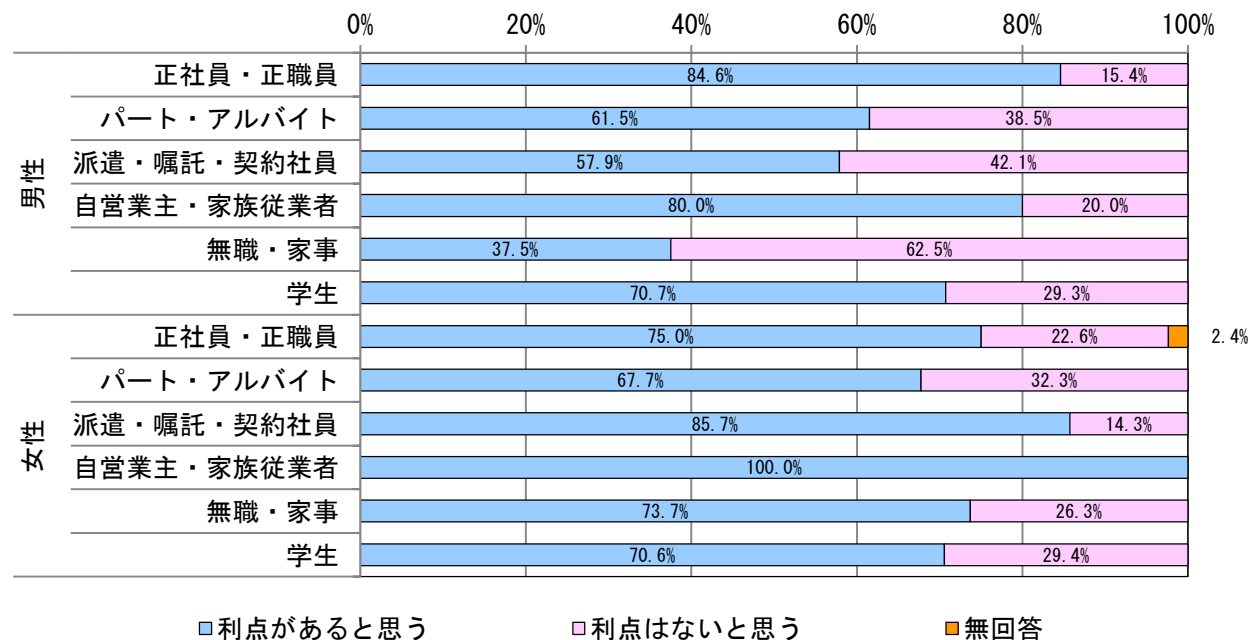


2-1-4 クロス集計

(1)「結婚の利点(利点の有無)」×「性別」×「就業形態」

(N=391)

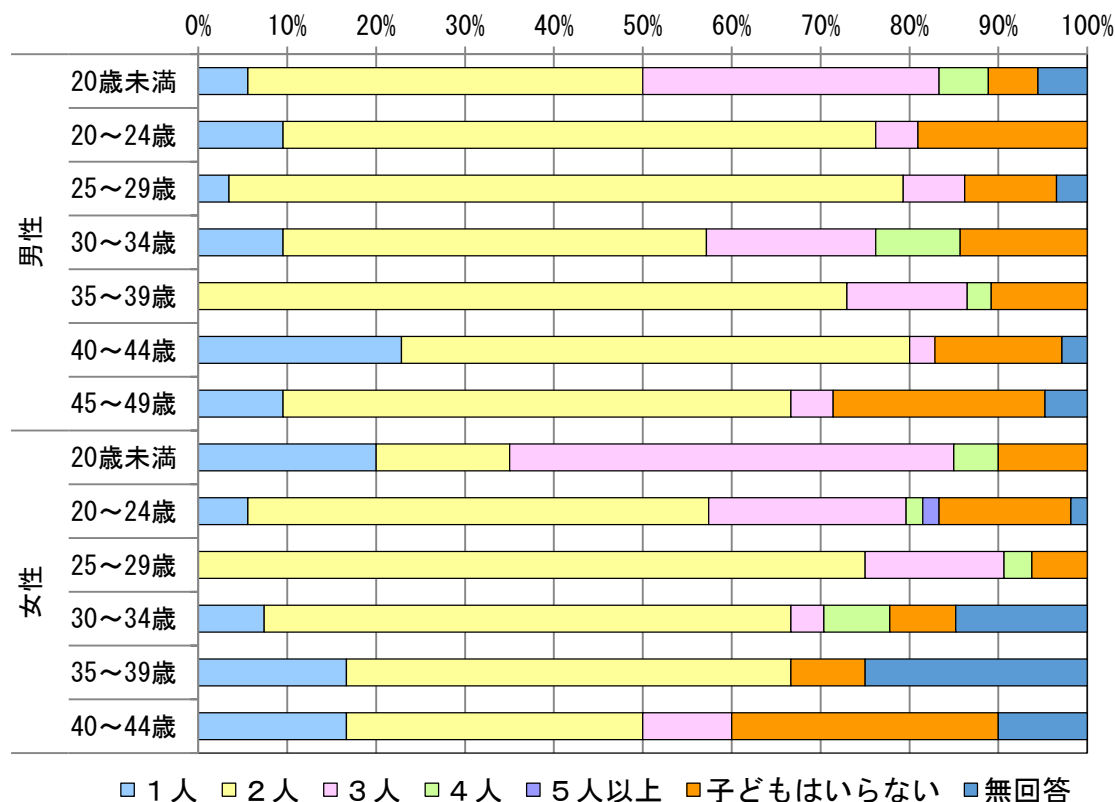
- 結婚の利点の有無は男性では「正社員・正職員」や「自営業主・家族従業者」が結婚に利点を感じる割合が高く、「パート・アルバイト」、「派遣・嘱託・契約社員」、「無職・家事」では割合が低い。また、女性では男性ほど大きな差は見られない。



(2)「子どもの希望(人数)」×「性別」×「年齢」 (N=390)

- 男性の平均希望子ども数が1.80、女性の平均希望子ども数が1.83となっている。全国値※(男性2.04、女性2.12)と比べると低い結果となっている。

年齢	(人)	
	男性	女性
20歳未満	2.29	2.20
20～24歳	1.57	1.96
25～29歳	1.82	2.09
30～34歳	2.00	1.96
35～39歳	1.97	1.56
40～44歳	1.50	1.26
45～49歳	1.45	1.80
総数	1.80	1.83

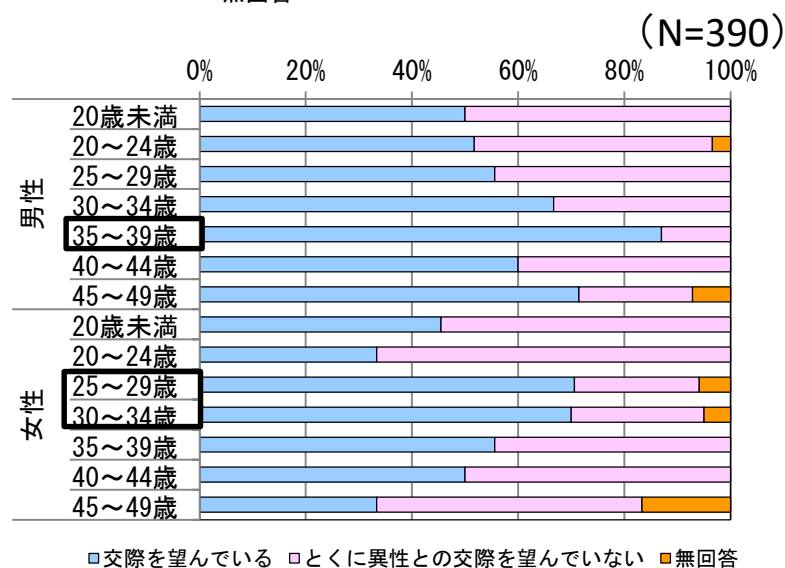
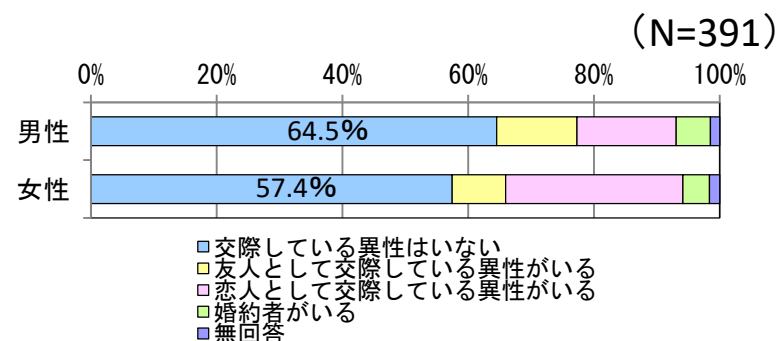


※第14回出生動向基本調査(国立社会保障・人口問題研究所)の調査結果

(3)「異性との交際(交際状況)」×「性別」×「交際希望」

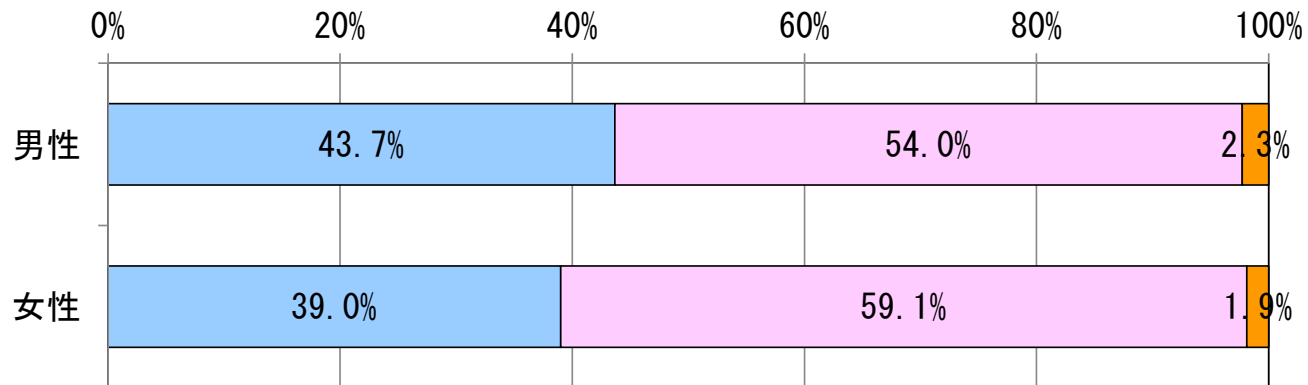
- 「交際している異性はいない」が男性64.5%、女性57.4%となっている。
- 交際相手をもたずかつ交際を望んでいない未婚者は男性22.7%、女性25.5%を占めている。
- 男性は30代後半で交際を望む割合が最も高くなるのに対し、女性は20代後半・30代前半でその割合が高くなる。

	男性	女性
交際している異性はいない	64.5%	57.4%
交際を望んでいる	40.9%	30.3%
とくに異性との交際を望んでいない	22.7%	25.5%
友人として交際している異性がいる	12.8%	8.5%
結婚したいと思っている	1.5%	0.5%
とくに結婚は考えていない	10.8%	7.4%
恋人として交際している異性がいる	15.8%	28.2%
結婚したいと思っている	9.4%	19.7%
とくに結婚は考えていない	6.4%	8.5%
婚約者がいる	5.4%	4.3%
無回答	1.5%	1.6%
総数	100.0%	100.0%



(4)「結婚へのこだわり」×「性別」 (N=333)

- 男女ともに「理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」が「ある程度の年齢までには結婚するつもり」を上回っている。これは、全国値と比べると逆の傾向となっている。

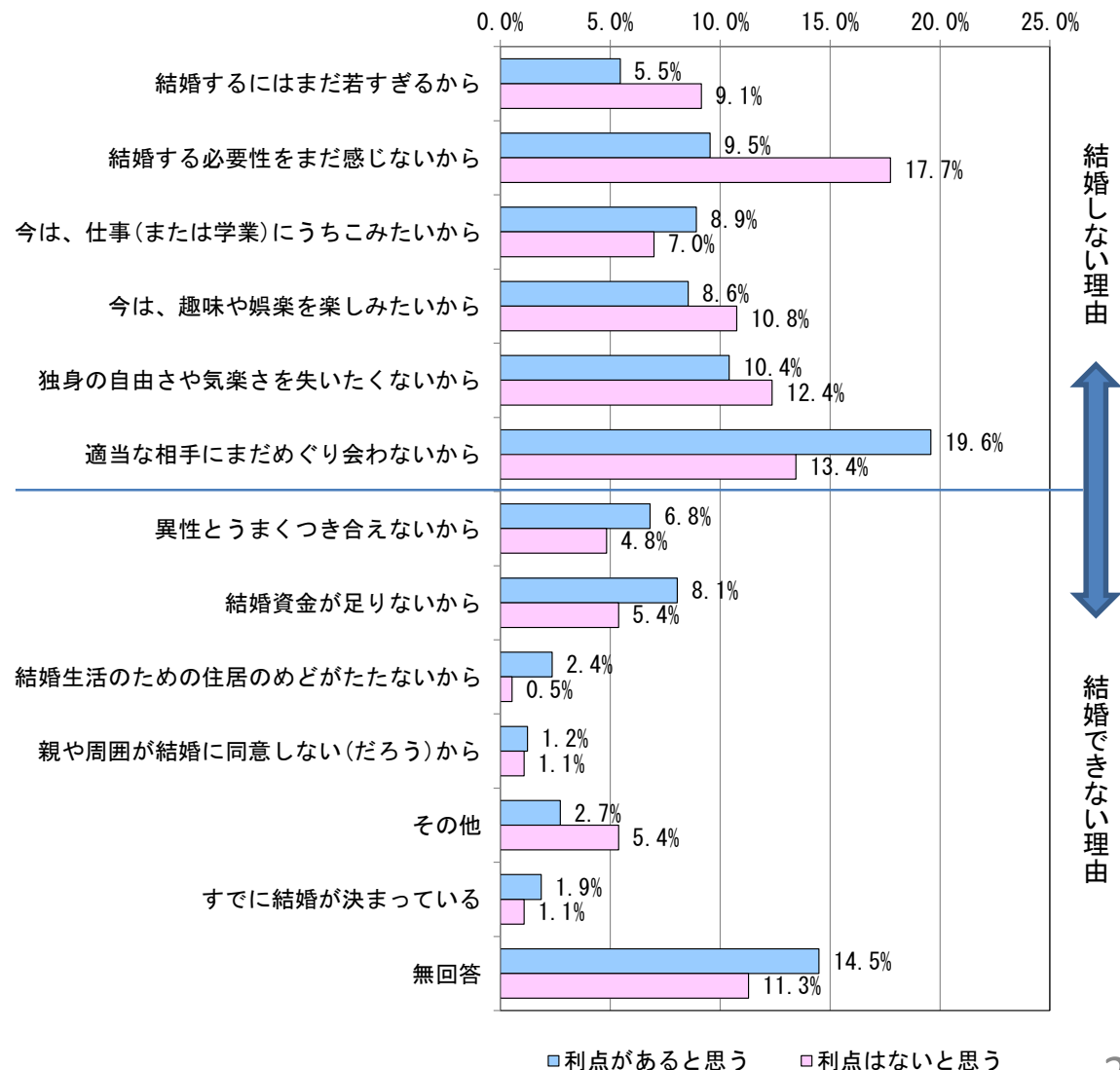


- ある程度の年齢までには結婚するつもり
- 理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない
- 無回答

(5)「結婚の利点(利点の有無)」×「独身でいる理由」

(N=333)

- 独身でいる理由について、結婚に「利点があると思う」と回答している人では、「適当な相手にまだめぐり会わないから」が最も多く、結婚に「利点はないと思う」と回答している人では「結婚する必要性をまだ感じないから」が最も多い。また、結婚しない理由を回答している割合は、結婚に「利点はないと思う」と回答している人が比較的多く、結婚できない理由を回答している割合は、結婚に「利点があると思う」と回答している人が多い。



2-1-5 独身者アンケート結果のまとめ

結婚観

- 独身者の約7割強が結婚に対して利点を感じている。
- 結婚に利点を感じる理由として、子どもや家庭を持てることや精神的な安らぎが得られることが評価されている。
- 独身者の9割弱がいずれ結婚するつもりである。
- 大和市においても、全国的な傾向と同様に、独身者の結婚意欲が確認できる。

未婚の要因（結婚の阻害要因）

- 独身者は、結婚に利点を感じているが、結婚で自由な生活スタイルが変わることや経済面での不安を抱えている。
- また、相手にめぐり会わないことや結婚の必要性を感じないなどの要因により、未婚の状況にある。
- 特に大和市の独身者は、全国的な傾向と比べ、結婚年齢よりも結婚相手へのこだわりがみられる。
- パート・アルバイトや派遣・嘱託・契約社員などの非正規雇用者は、比較的、結婚に利点を感じていない。

異性との交際

- 「交際している異性はいない」独身者が6割を占める。
- 特に男性の方が交際相手のいない割合が大きい。
- 交際相手を持たずかつ交際を望んでいない未婚者が2割を占めている。
- 交際相手と知り合ったきっかけは、職場や仕事関係、学校が比較的多い。

希望の結婚像 (1/2)

(女性の生き方の理想)

- 女性の生き方の理想として、結婚して子どもを持ち、いったん退職して出産・子育てを終え復職できるライフスタイルが評価されている。

希望の結婚像 (2/2)

(結婚・家庭に関する意識)

- 「結婚しても自分の目標を持つべき」、「婚前の性交渉はかまわない」、「男らしさや女らしさが必要」という考えが特に支持されている。

(子どもの数の希望)

- 希望の子どもの数は「2人」が最多で、6割弱を占める。
- 希望の子どもの数は平均で男性1.80、女性1.83となる。全国平均と比べ低い数となった。
- 「2人」に次いで「子どもはいらない」が1割強、「1人」が1割弱を占めることから、出生意欲の低い層が平均値の低下に影響を与えていると考えられる。

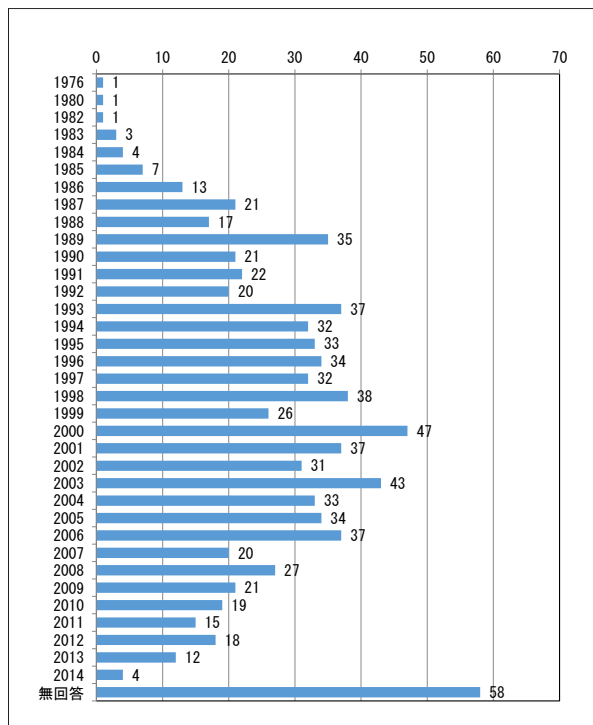
2-2 夫婦世帯アンケート

2-2-1 結婚までの過程について

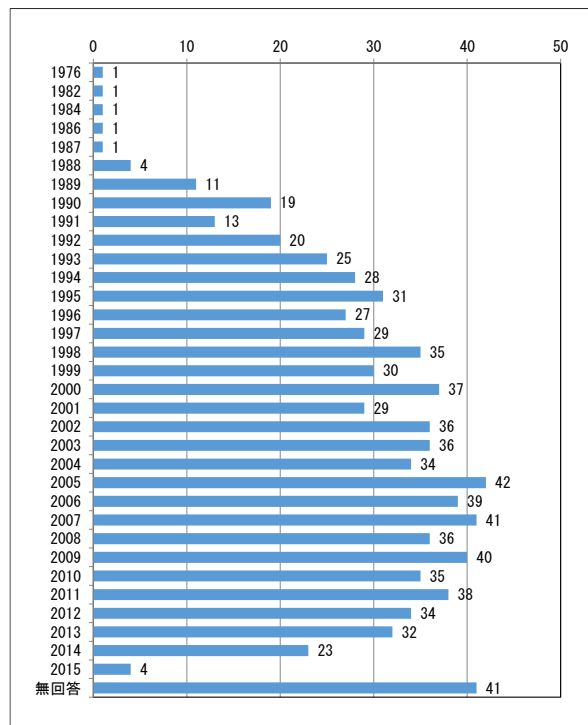
(1) 夫婦について

- 夫婦が知り合った年は1976年から2014年まで分散している。また、婚約または結婚に合意した年も1976年から2015年まで様々である。
- 同棲期間の有無は「ない」(68.8%)が「あった」(27.3%)より41.6ポイント多い。同棲期間の年数は「1年未満」(37.3%)と最も多く、次いで「1年」(28.3%)、「2年」(16.3%)となっている。

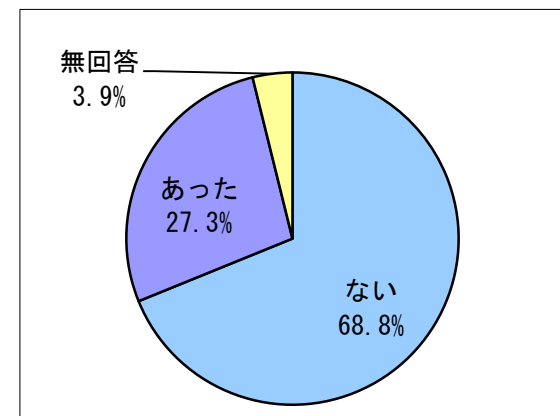
初めて知り合った年
(N=854)



婚約、結婚の合意の年
(N=854)

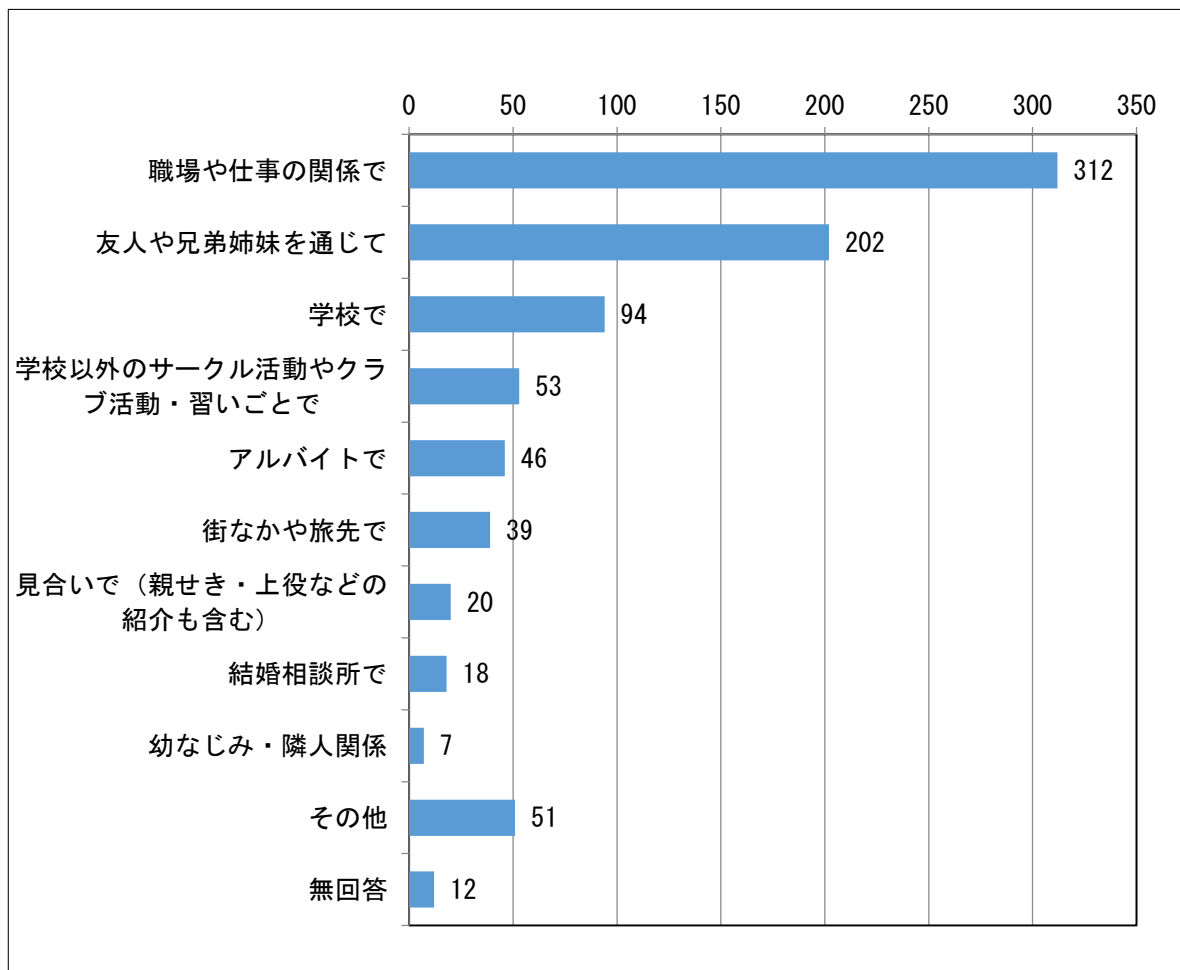


(3) 同棲期間の有無
(N=854)



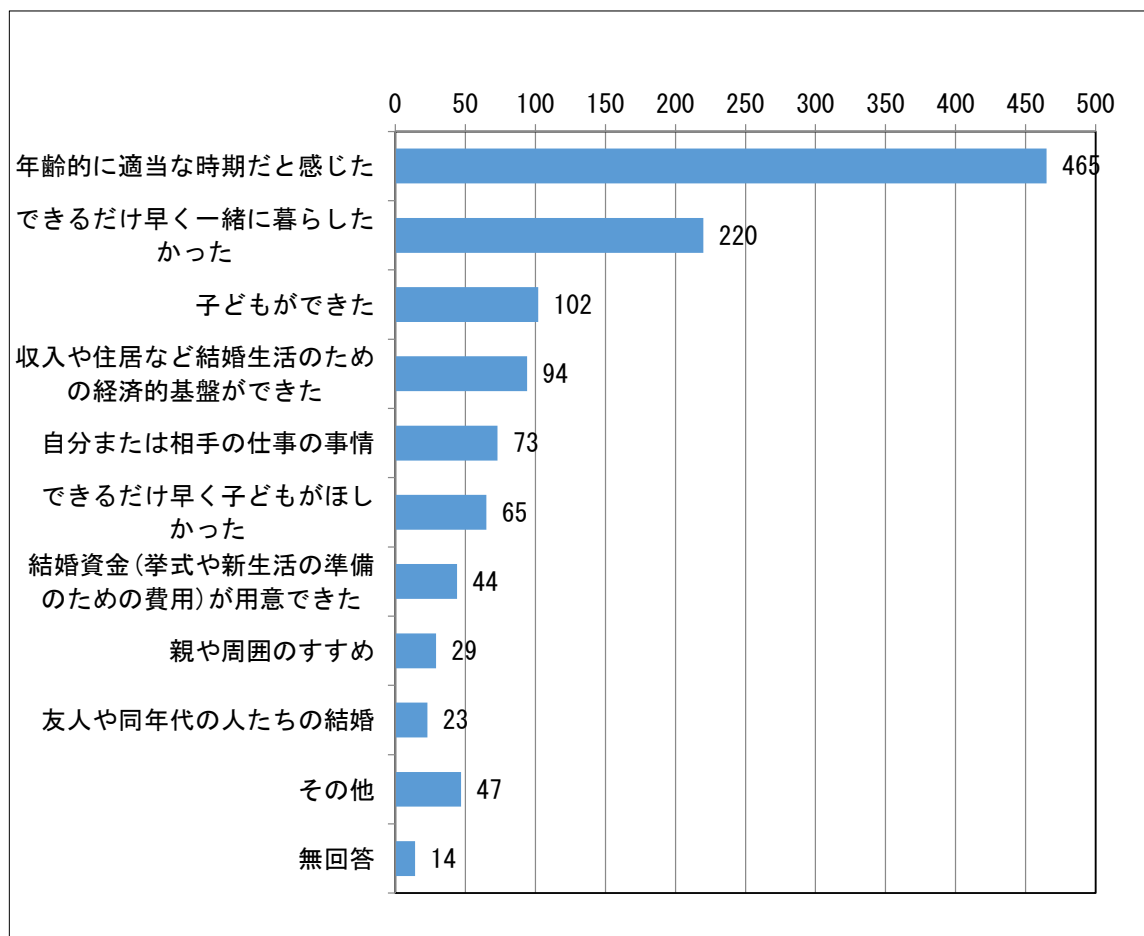
(2) 知り合ったきっかけ (N=854)

- 知り合ったきっかけは「職場や仕事の関係で」(36.5%)が最も多く、次いで「友人や兄弟姉妹を通じて」(23.7%)、「学校で」(11.0%)となっており、これらで約7割を占める。



(3) 結婚を決めたきっかけ (N=854)

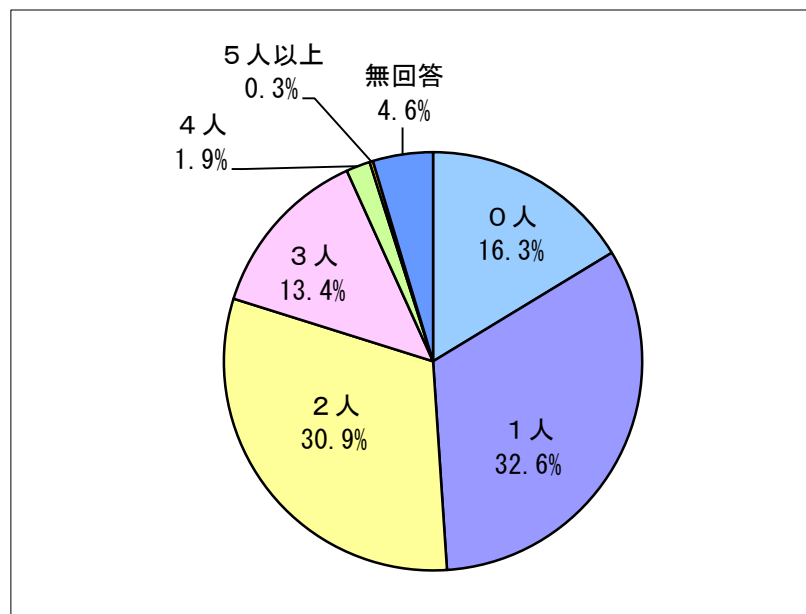
- 結婚を決めた直接のきっかけは「年齢的に適当な時期だと感じた」(54.4%)と最も多く、全体の過半数を占める。次いで「できるだけ早く一緒に暮らしたかった」(25.8%)、「子どもができた」(11.9%)となっている。



(1) 生まれた子どもの数

- 子どもの数は「1人」(32.6%)と最も多く、次いで、「2人」(30.9%)、「0人」(16.3%)、「3人」(13.4%)となっている。
- 男の子の数は「1人」(38.6%)が最も多く、次いで「0人」(22.6%)、「2人」(15.2%)となっている。一方、女の子の数は「1人」(38.5%)が最も多く、次いで「0人」(21.8%)、「2人」(14.1%)となっており、男女概ね同様の傾向となっている。

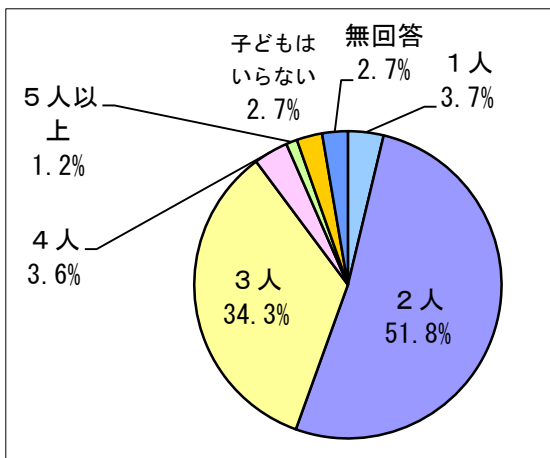
【全部】 (N=854)



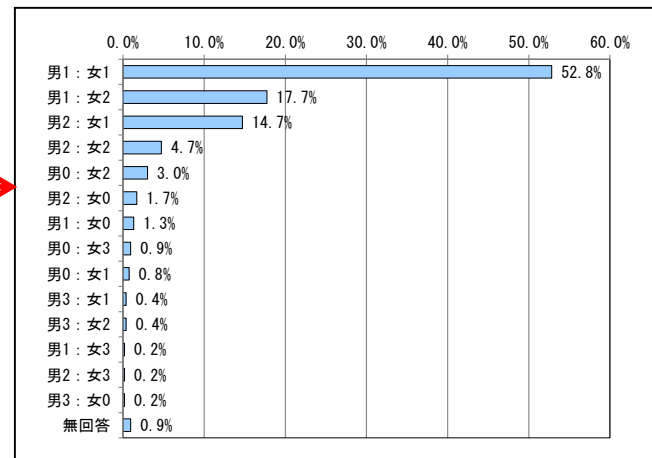
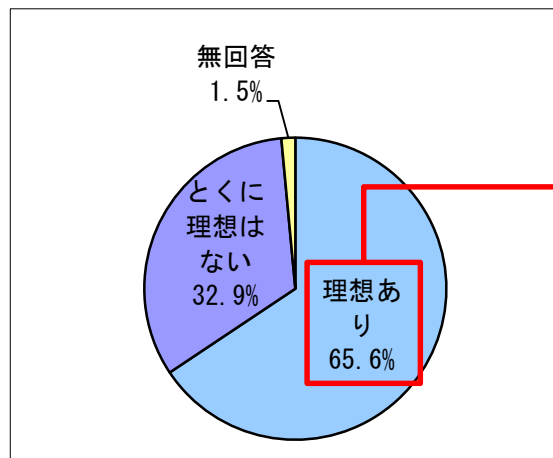
(2)理想の子どもの数

- 理想の子どもの数は「2人」(51.8%)が最も多く、次いで「3人」(34.3%)となっており、両者で9割弱を占める。「子どもはいない」はわずか2.7%にとどまっている。
- 子どもの組合せの理想は「理想あり」(65.6%)が「とくに理想はない」(32.9%)を32.7ポイント上回っており、男の子の数は「1人」(71.5%)が最も多く、次いで「2人」(21.1%)となっており、女の子の数は「1人」(68.1%)と最も多く、次いで「2人」(25.6%)と同様の傾向だが、「2人」の割合は女の子が男の子を4.5ポイント上回っている。

理想的な子どもの数
(N=854)



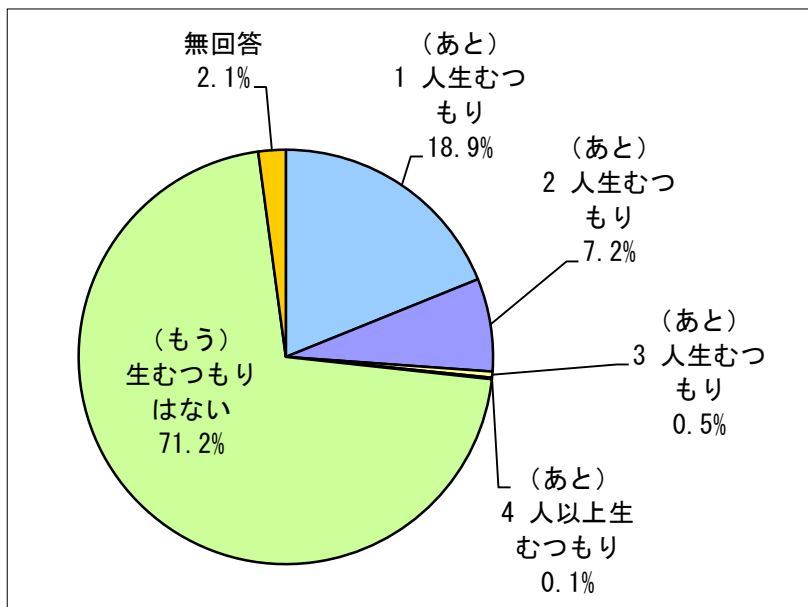
理想的な子どもの男女の組合せ (N=808)



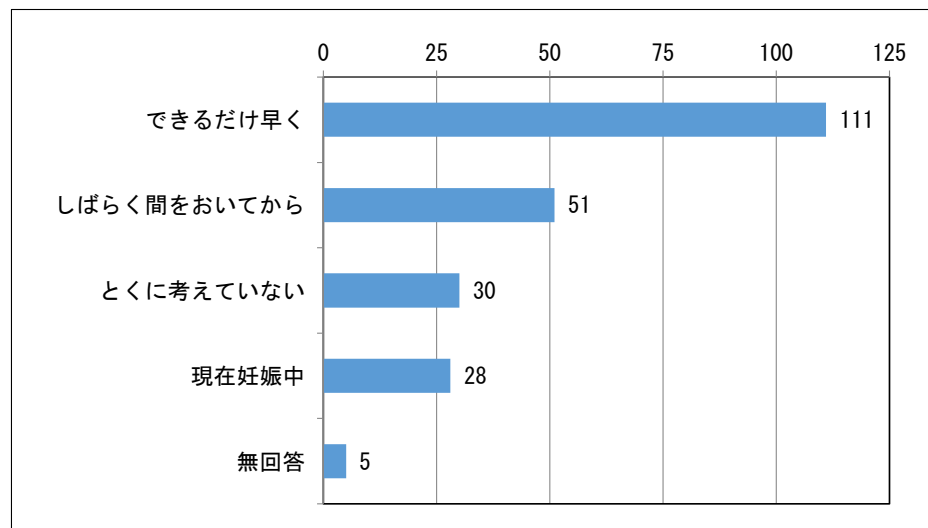
(3) 今後の子どもの予定

- 今後の子どもの予定は「(もう)生むつもりはない」(71.2%)が大半を占め、次いで「(あと)1人生むつもり」(18.9%)となっている。
- 子どもを希望する時期は「できるだけ早く」(49.3%)と最も多く、次いで「しばらく間をおいてから」(22.7%)となっている。

希望する子どもの数 (N=842)

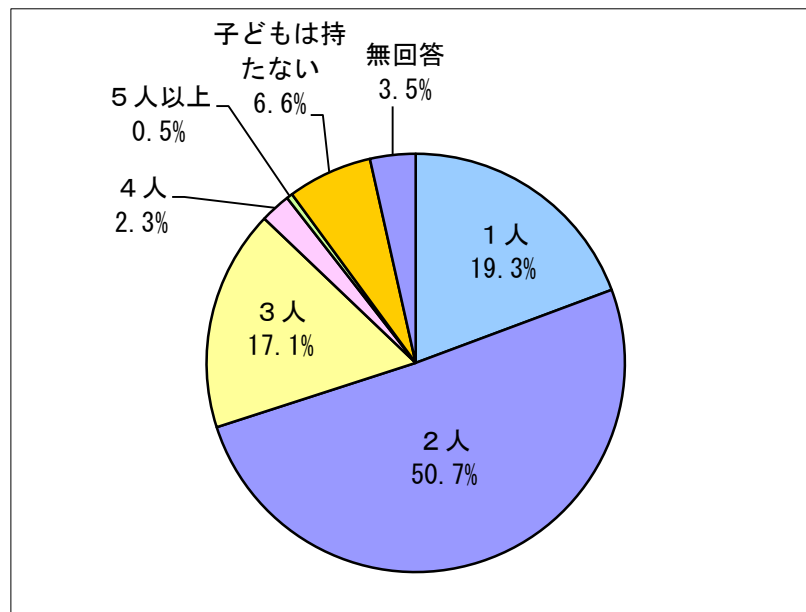


希望する時期 (N=225)



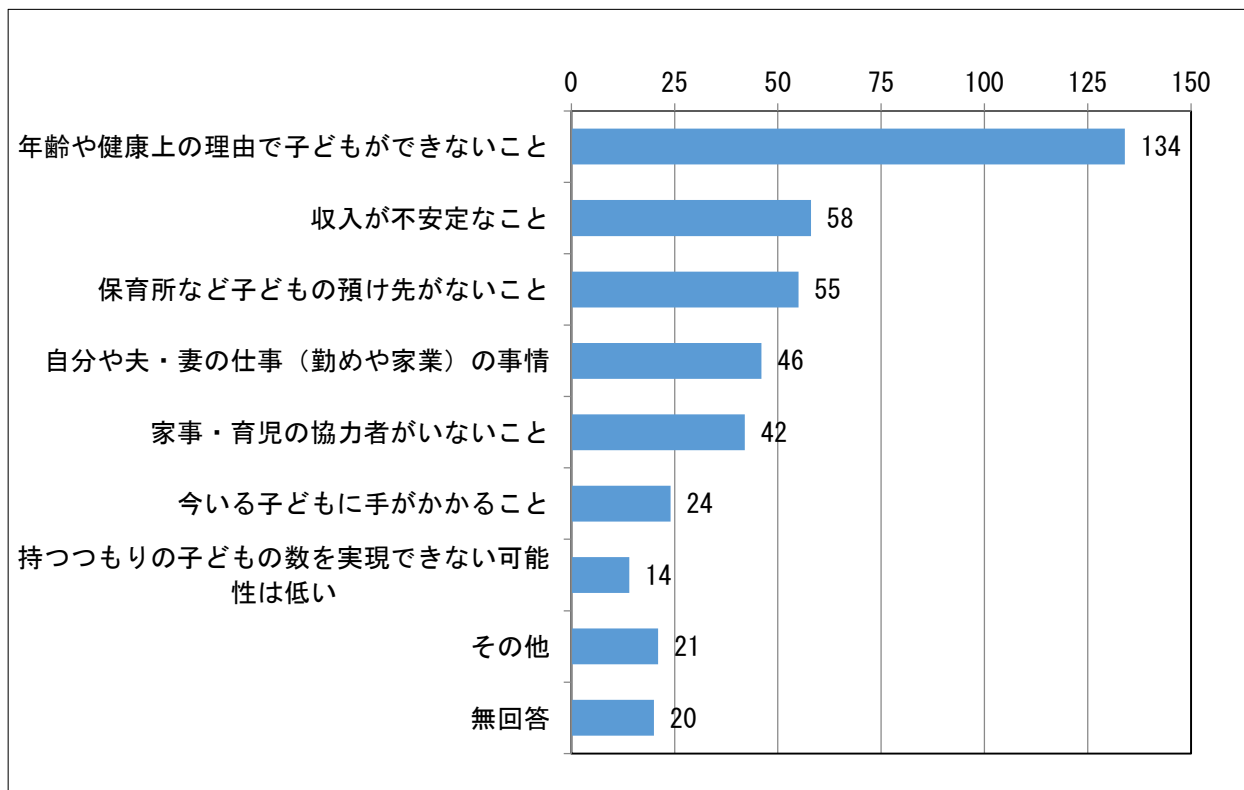
(4) 最終的な子どもの予定数 (N=854)

- 最終的に全部で何人の子どもを持つかについては、「2人」(50.7%)と最も多く、次いで「1人」(19.3%)、「3人」(17.1%)となっている。



(5) 希望する子ども数を持ってない原因 (N=225)

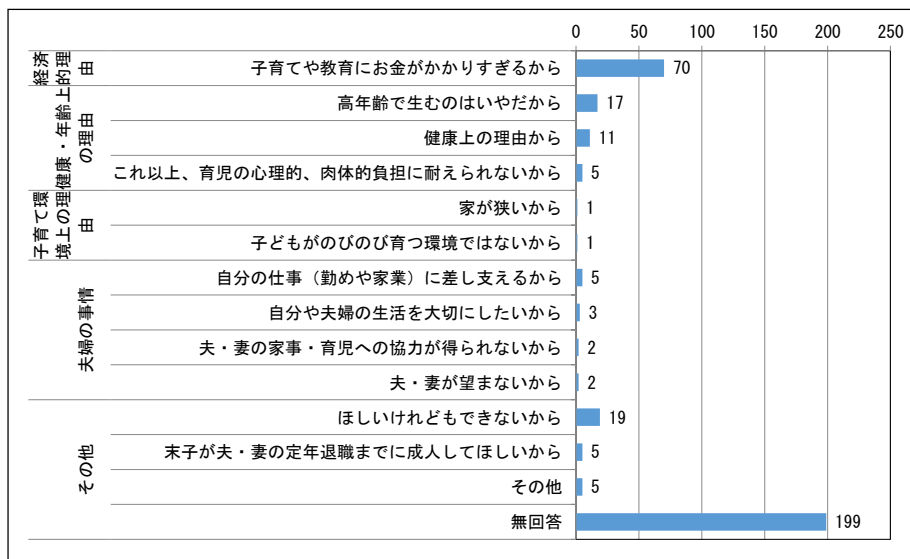
- 今後持つつもりの子どもの結果的に持ってないことがあるとした場合の原因は「年齢や健康上の理由で子どもができないこと」(134)が最も多く、次いで「収入が不安定なこと」(58)、「保育所など子どもの預け先がないこと」(55)となっている。



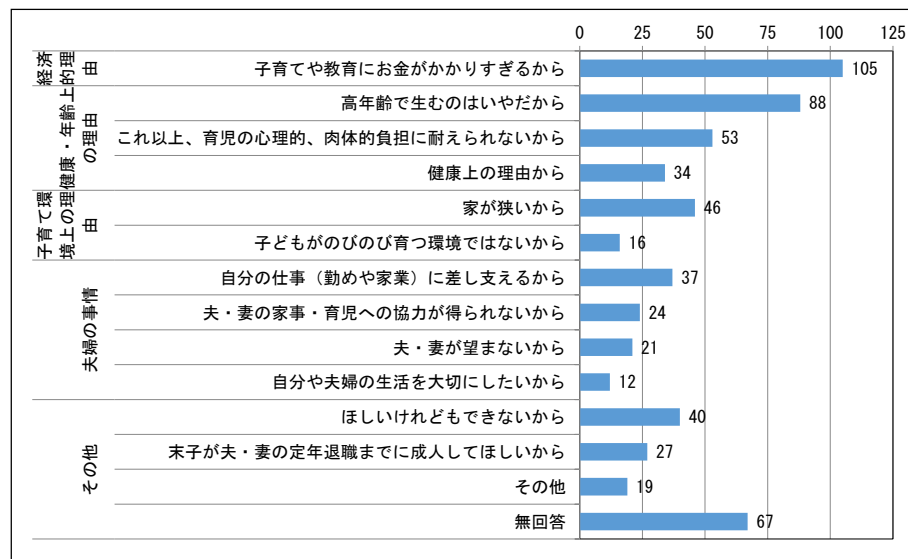
(6) 子どもの数が理想より少ない理由

- 今後持つつもりの子どもの数が理想とする子どもの数より少ない最も重要な理由は「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(70)が最も多く、次いで「ほしいけれどできないから」(19)、「高年齢で生むのはいやだから」(17)となっている。また、最も重要な理由以外では「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」(105)が最も多く、次いで「高年齢で生むのはいやだから」(88)、「これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから」(53)となっている。

【最も重要な理由】 (N=854)



【最も重要な理由以外】 (N=854)

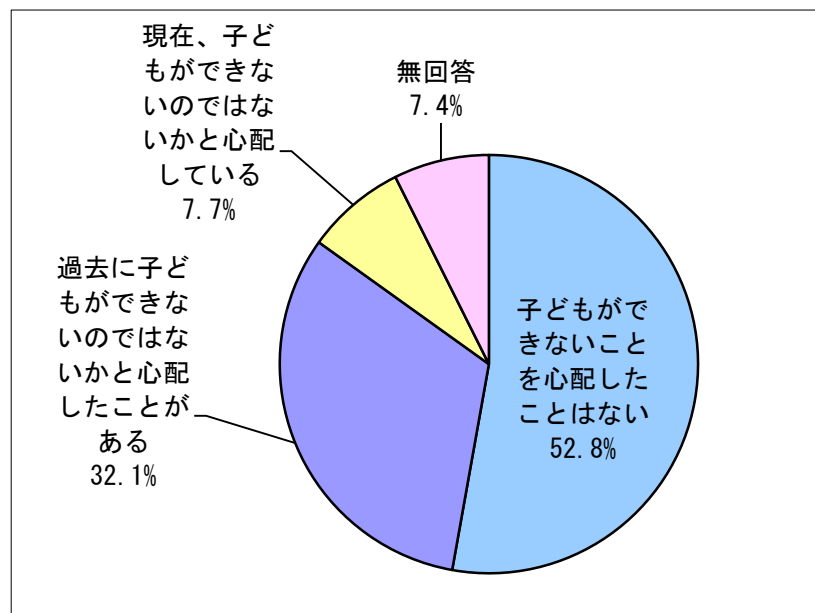


2-2-3 不妊について

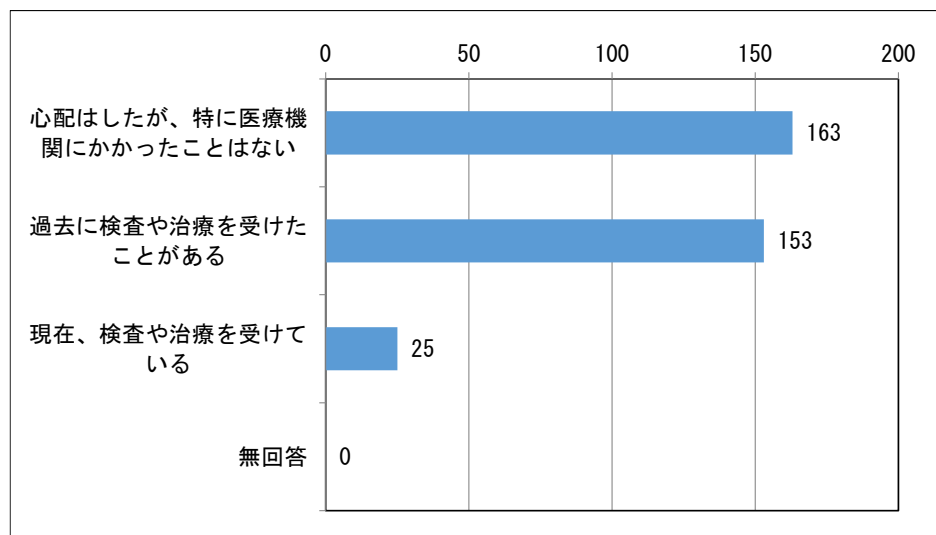
(1) 不妊の不安や悩みについて

- 不妊への不安や悩みの有無については「子どもができないことを心配したことがない」(52.8%)と最も多く、次いで「過去に子どもができないのではと心配したことがある」(32.1%)となっている。
- 不妊治療の経験の有無については「心配はしたが、特に医療機関にかかったことはない」(47.8%)と「過去に検査や治療を受けたことがある」(44.9%)がおおむね同率である。

悩みの有無 (N=854)

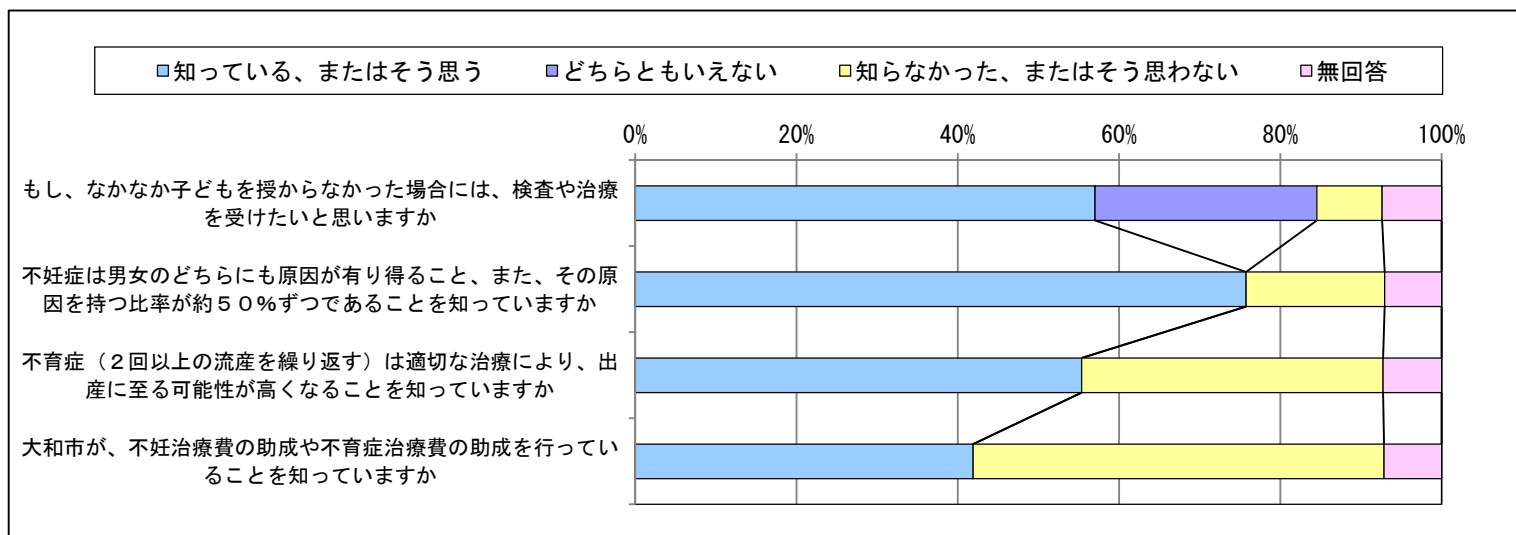


不妊治療の経験 (N=341)



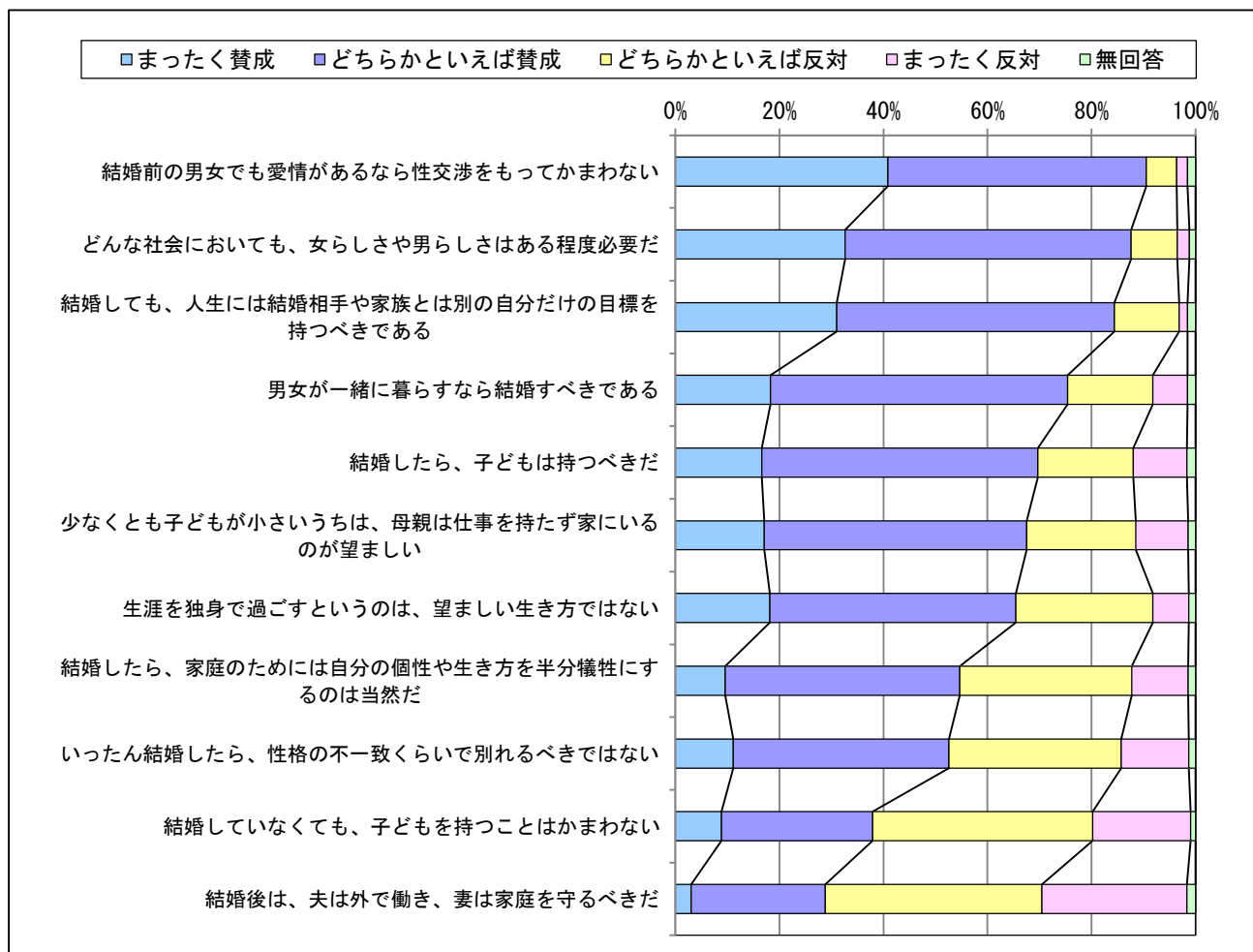
(2) 不妊や不育症の認識等 (N=854)

- 不妊症は男女どちらにも原因が有り得ること、また、その原因を持つ比率が50%ずつであることを知っているかについては、「知っている」(75.8%)が大半を占め、「知らなかった」(17.2%)は比較的少ない。
- 不育症は適切な治療により出産に至る可能性が高くなることを知っているかについては、「知っている」(55.4%)と最も多く、次いで「知らなかった」(37.4%)となっている。
- 子どもを授からなかった場合の検査や治療の受診意向は「受けたいと思う」(57.0%)と最も多く、次いで「どちらともいえない」(27.5%)となっている。
- 大和市が不妊治療費や不育症治療費の助成を行っていることの認知度は「知らなかった」(50.9%)と最も多く、次いで「知っている」(41.9%)となっている。



2-2-4 結婚等の価値観について

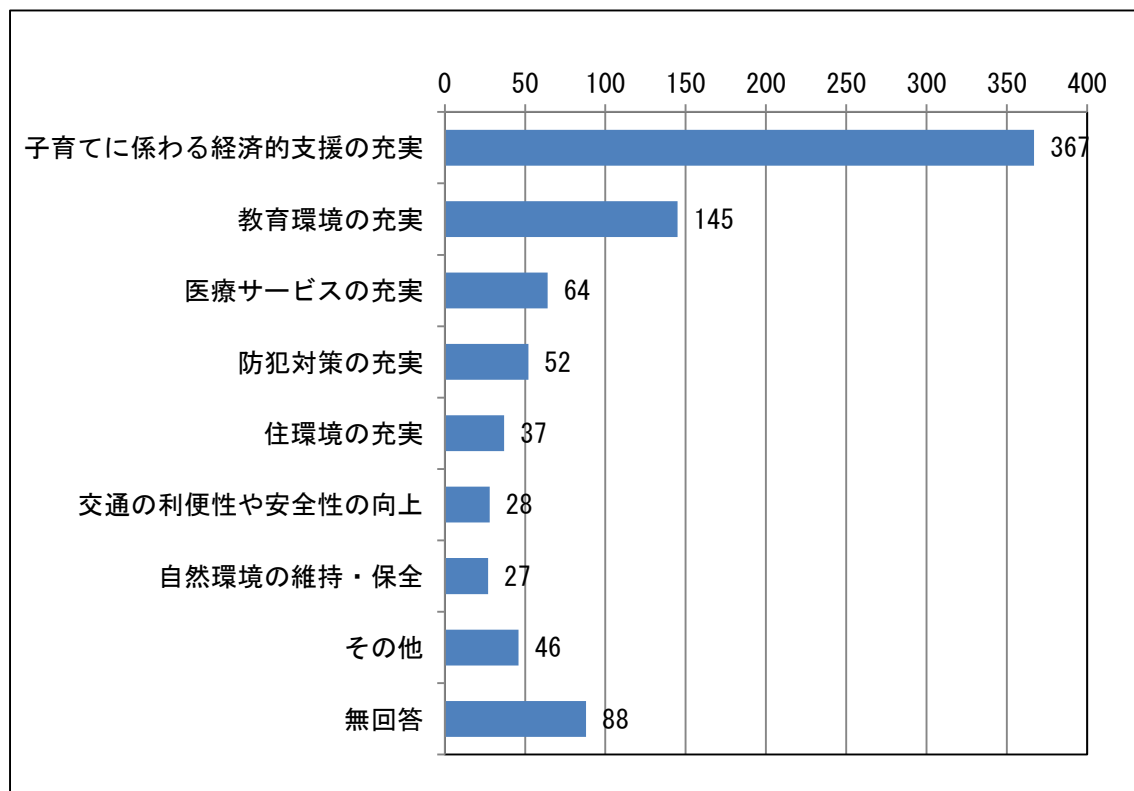
- 結婚等の考えで「まったく賛成」「どちらかといえば賛成」と回答しているのは「結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉をもってかまわない」(90.5%)が最も多く、次いで「どんな社会においても、女らしさや男らしさはある程度必要だ」(87.6%)、「結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである」(84.4%)となった。



2-2-5 子育てに関する施策について

- 子育てしやすい環境の充実・向上に望む施策については、「子育てに係わる経済的支援の充実」(43.0%)が最も多く、次いで「教育環境の充実」(17.0%)、「医療サービスの充実」(7.5%)となっている。

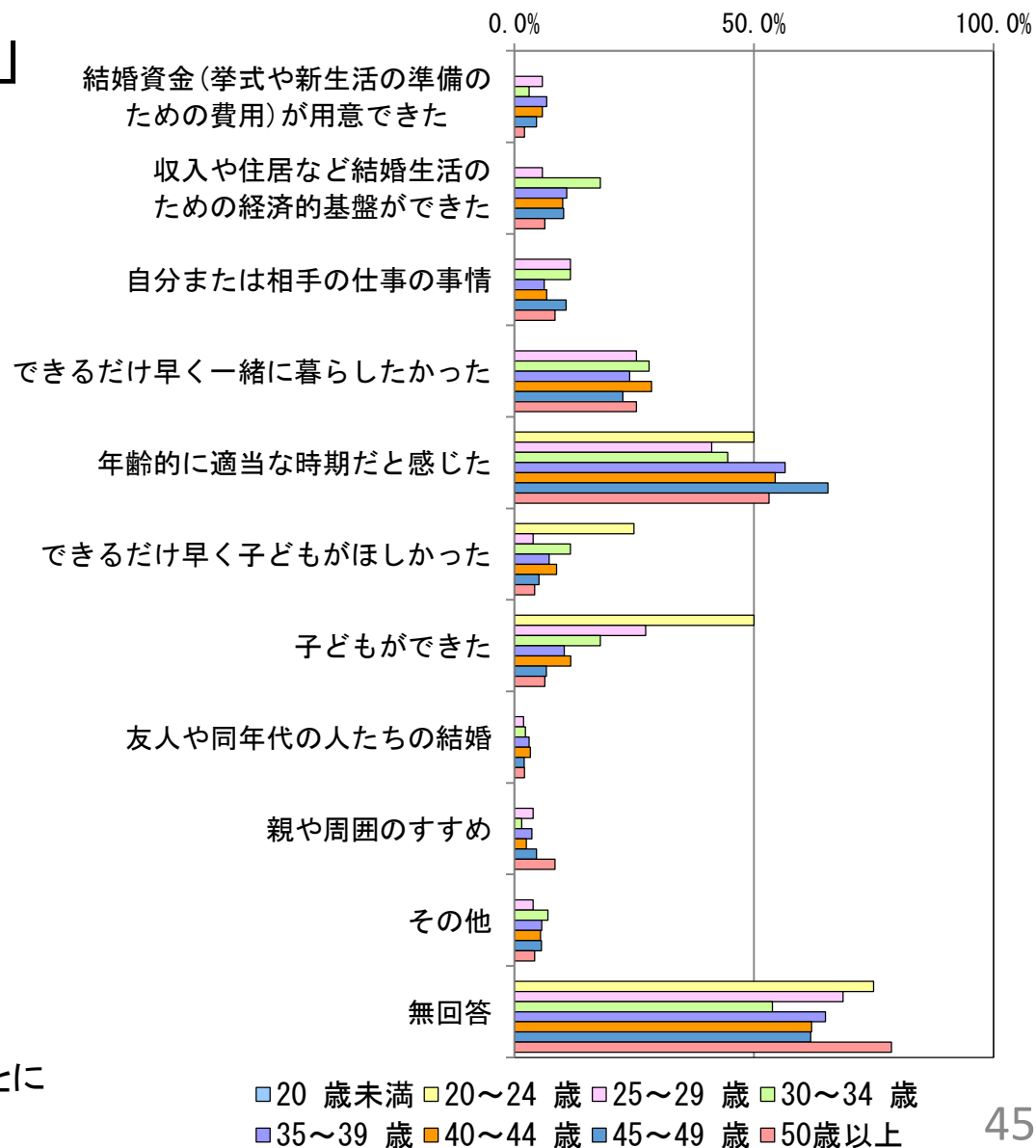
(N=854)



2-2-6 クロス集計

(1)「結婚を決めたきっかけ」 ×「年齢」 (N=852)

- 20～24歳の夫婦では、「子どもができた」が最も多く半数を占めている。また、全ての年齢層で「年齢的に適当な時期だと感じた」が半数前後を占めている。

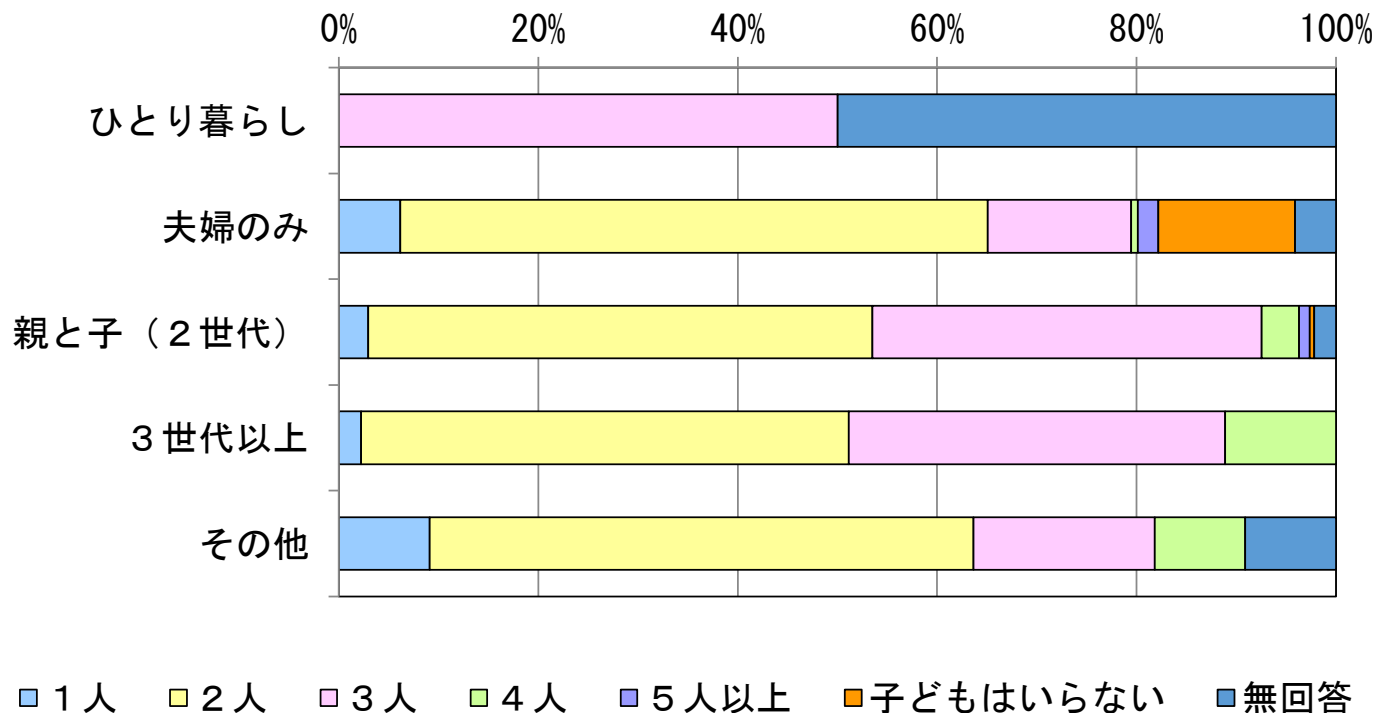


※20～24歳の回答数が少ない(4人、0.5%)ことに留意が必要である。

(2)「理想的な子どもの数」×「家族構成」

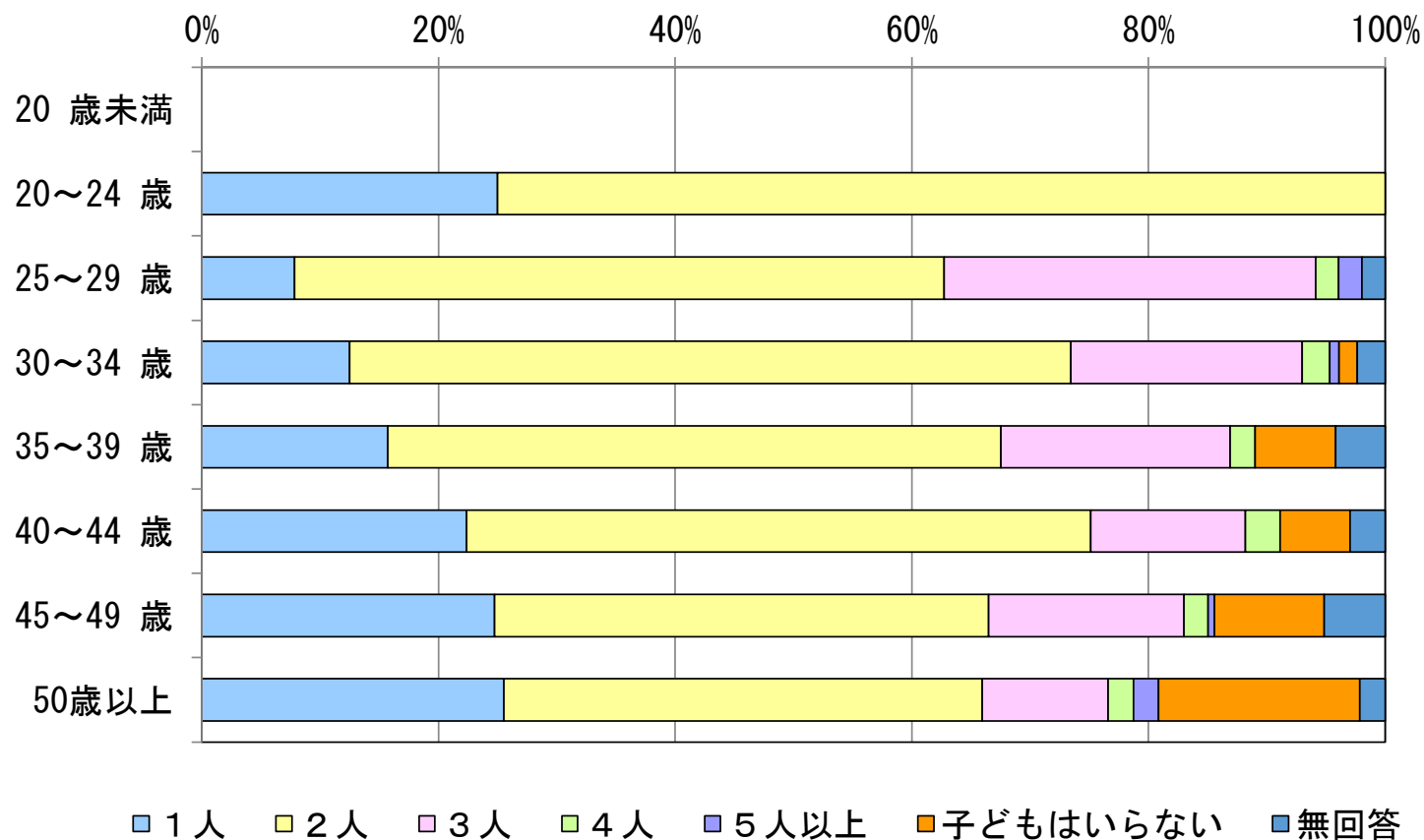
(N=849)

- 「ひとり暮らし」を除くすべての家族構成で「2人」の割合が最も高くなっている。また、「親と子（2世代）」、「3世代以上」は「3人」の割合が高くなっている。



(3)「最終的な子どもの予定数」×「年齢」 (N=852)

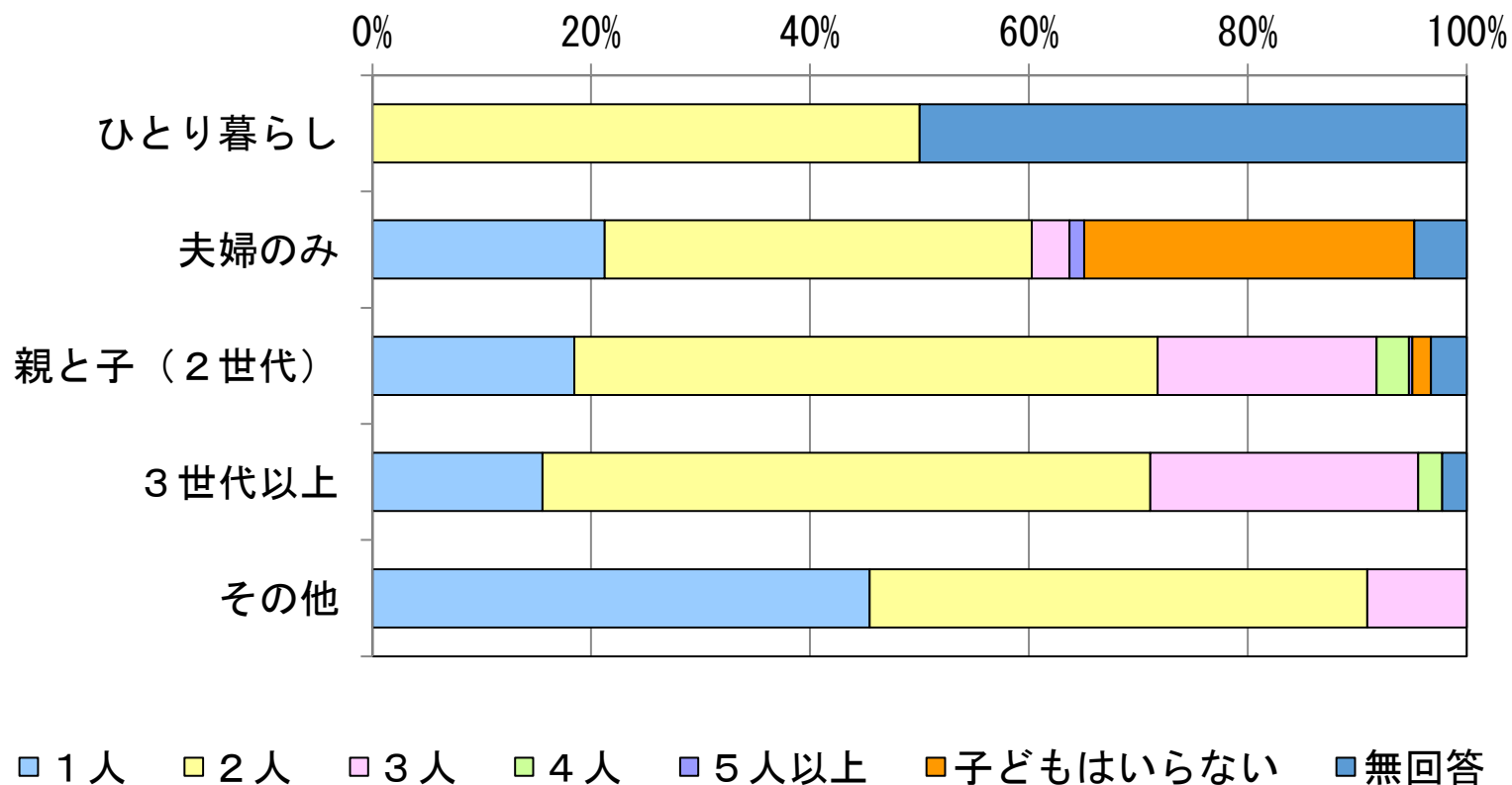
- 年齢層が上につれ「1人」の割合が高く、若くなるにつれ20～24歳を除いて「3人」の割合が高くなっている。



※20～24歳の回答数が少ない(4人、0.5%)ことに留意が必要である。

(4)「最終的な子どもの予定数」×「家族構成」 (N=849)

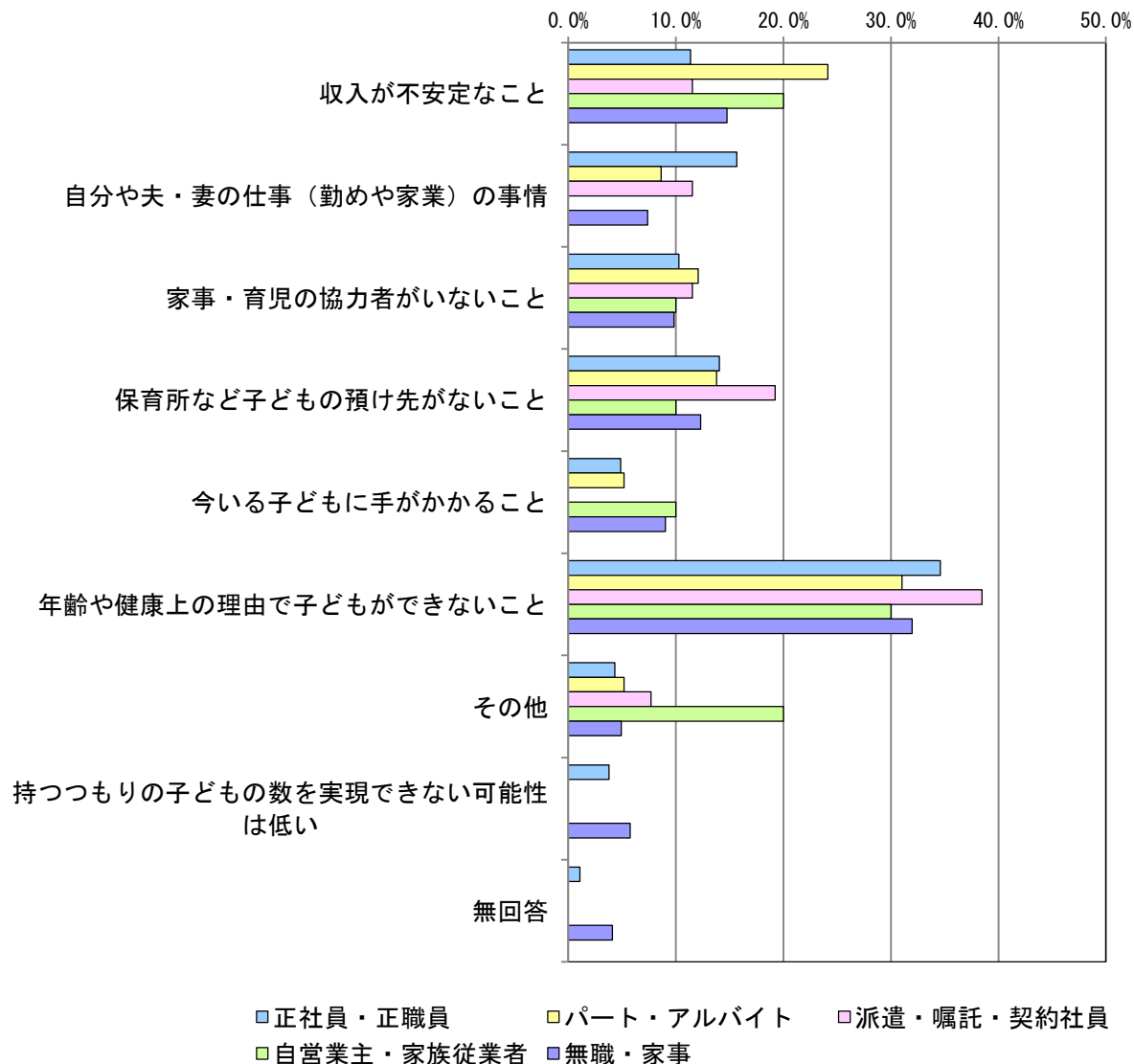
- 「親と子(2世代)」、「3世代以上」で2人の割合が最も高くなっており、また、同様に「3人」の割合もそれらの家族構成で高くなっている。



(5)「希望する子ども数を持たない原因」×「就業形態」

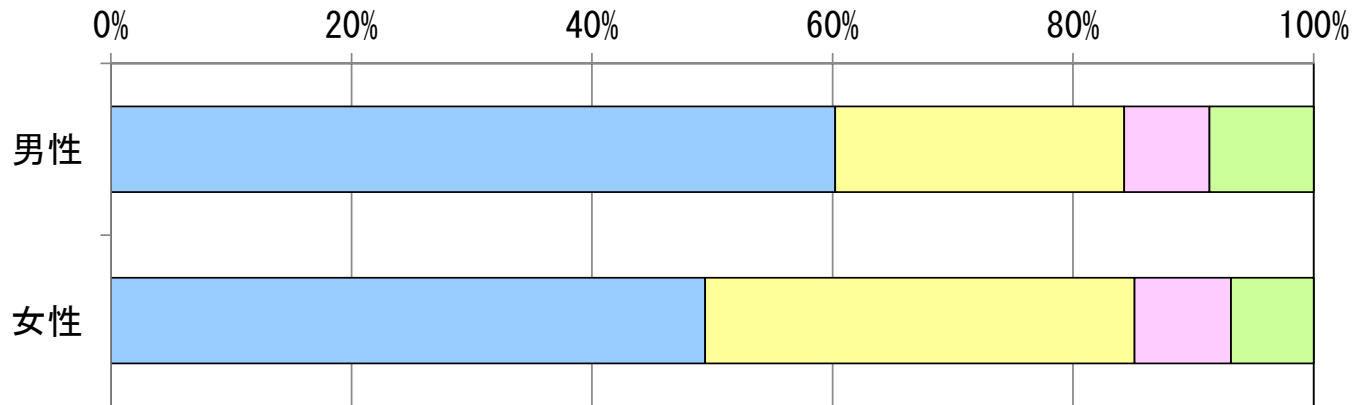
(N=225)

- 全ての就業形態で、「年齢や健康上の理由で子供ができないこと」の割合が最も高く、「収入が不安定なこと」、「保育所など子供の預け先がないこと」も比較的高い。「収入が不安定なこと」では、パート・アルバイトが最も高く、「保育所など子供の預け先がないこと」では派遣・嘱託・契約社員が最も高い。



(6)「不妊について(悩みの有無)」×「性別」 (N=851)

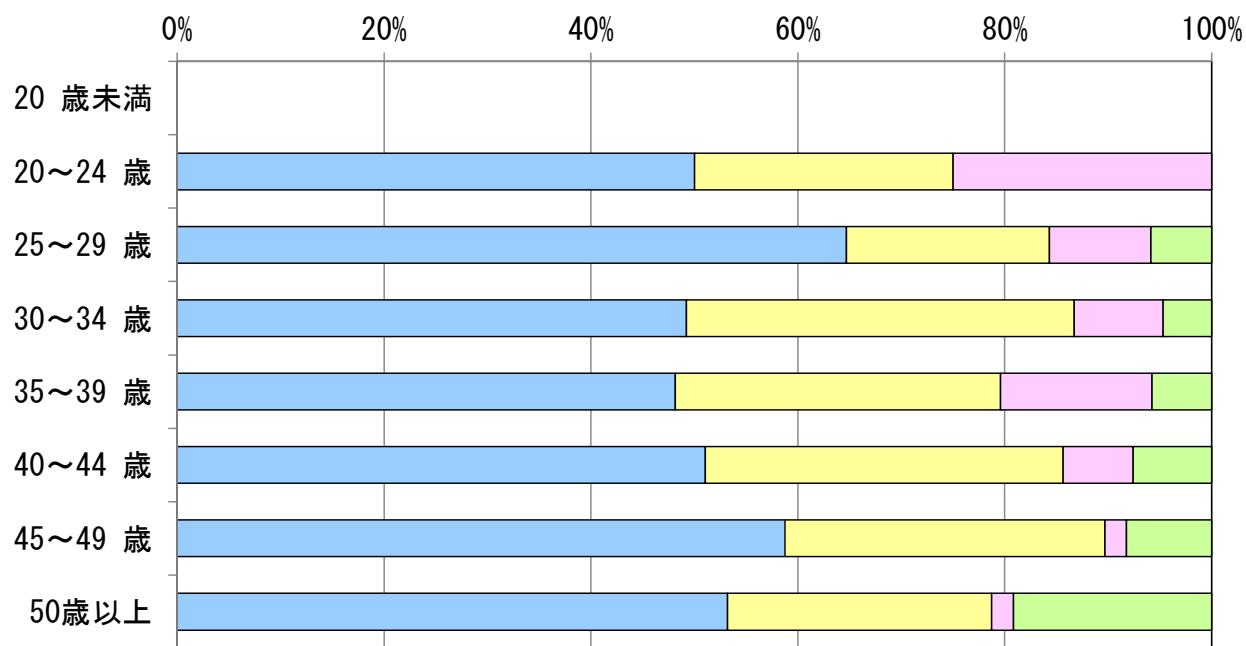
- 「過去に子供ができないのではないかと心配したことがある」、「現在、子供ができないのではないかと心配している」の割合は、女性が高くなっている。



- 子どもができないことを心配したことはない
- 過去に子どもができないのではないかと心配したことがある
- 現在、子どもができないのではないかと心配している
- 無回答

(7)「不妊について(悩みの有無)」×「年齢」 (N=852)

- 「過去に子供ができないのではないかと心配したことがある」、「現在、子供ができないのではないかと心配している」の割合は、20～24歳を除くと、30代での割合が高い。



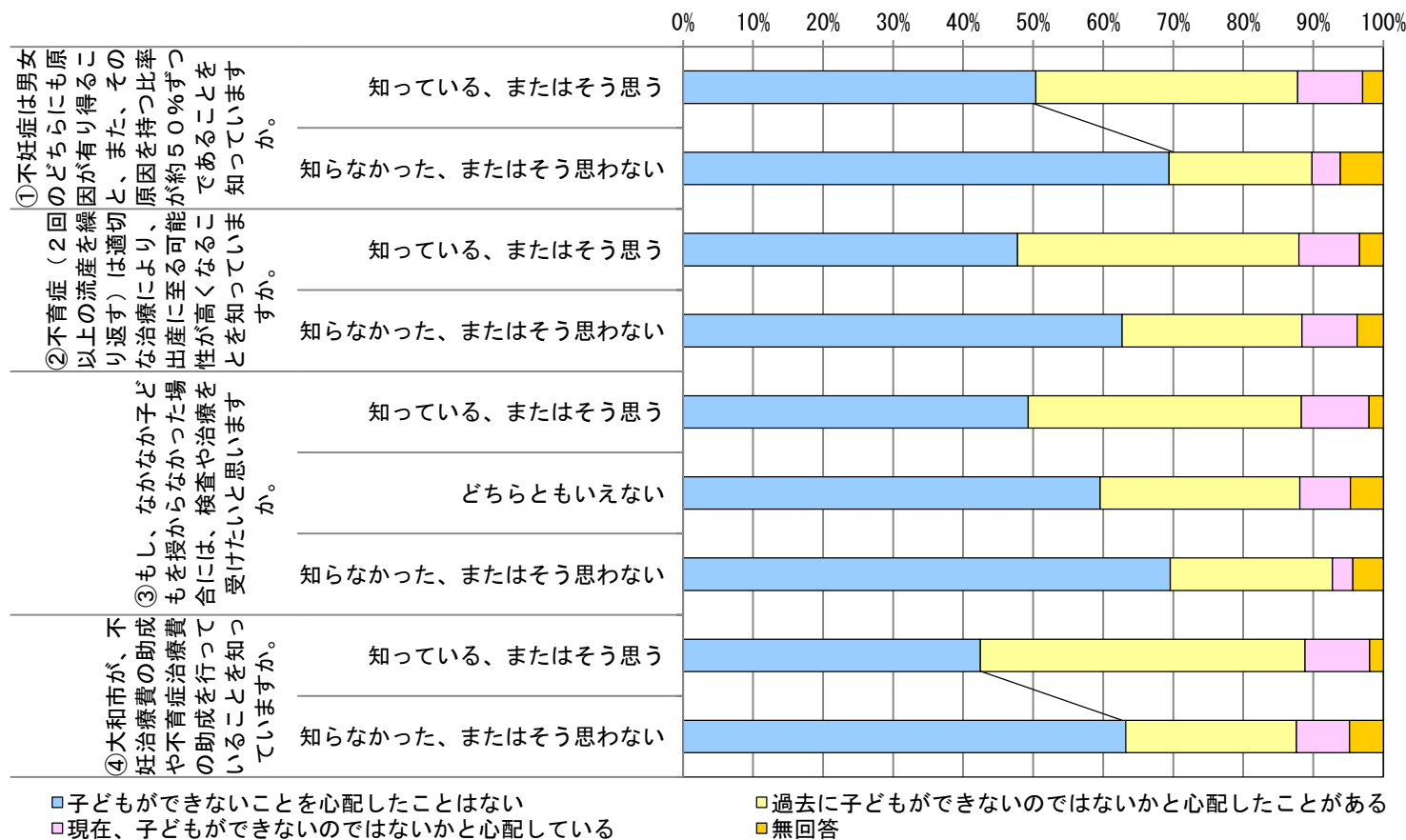
- 子どもができないことを心配したことはない
- 過去に子どもができないのではないかと心配したことがある
- 現在、子どもができないのではないかと心配している
- 無回答

※20～24歳の回答数が少ない(4人、0.5%)ことに留意が必要である。

(8)「不妊について(悩みの有無)」×「不妊や不育症の認識等」

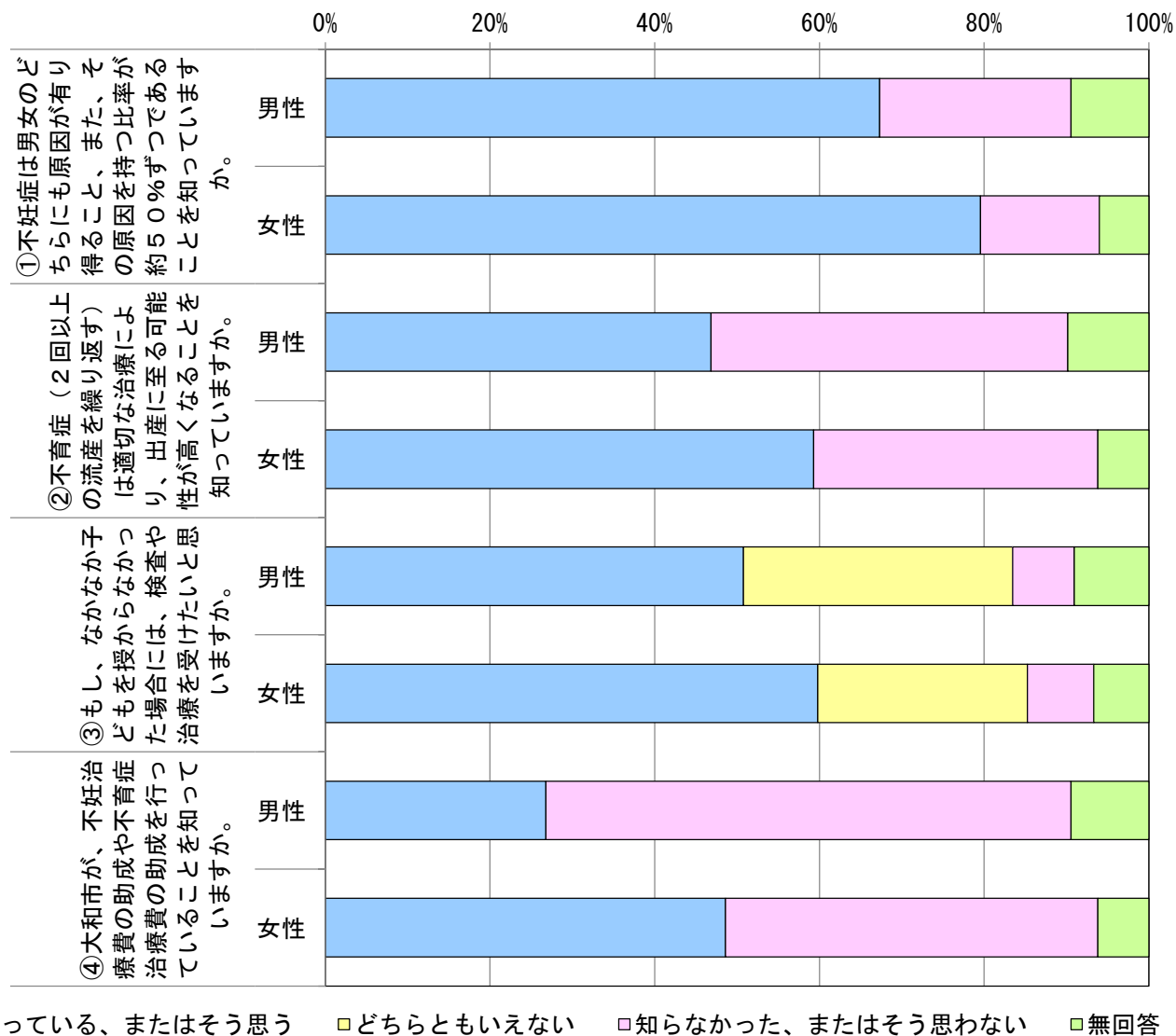
(N=854)

- 「子どもができないことを心配したことがない」方は、そうでない方(「過去に子どもができないのではないかと心配したことがある」・「現在心配している」)に比べ、不妊や不育症に関する認知度が比較的に低い。
- 特に、不妊症が男女に原因があること、大和市の不妊・不育治療費助成の存在については、約20ポイント程度の差がある。



(9)「不妊や不育症の認識等」×「性別」 (N=851)

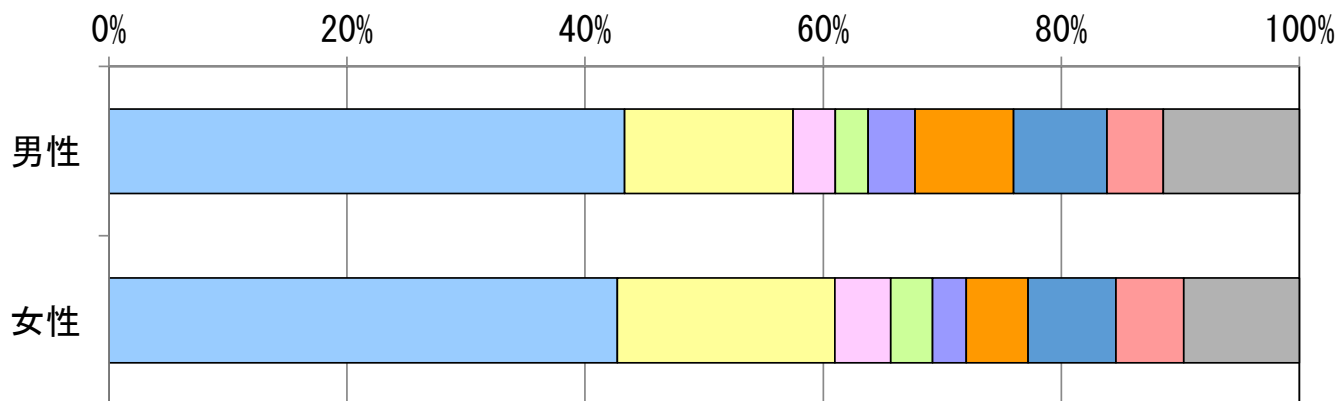
- 大和市の助成制度について、「知らなかった」との回答は、男性が63.8%、女性が45.2%と男性の割合が高い。
- その他の不妊症の内容などについても、男性の方が「知らない」割合が高い。



■知っている、またはそう思う ■どちらともいえない □知らなかった、またはそう思わない ■無回答

(10)「子育てについて充実・向上等を望む施策」×「性別」 (N=851)

- 男女で大きな差は見られないが、「教育環境の充実」の割合は女性の方が、「防犯対策の充実」の割合は男性の方が高い。

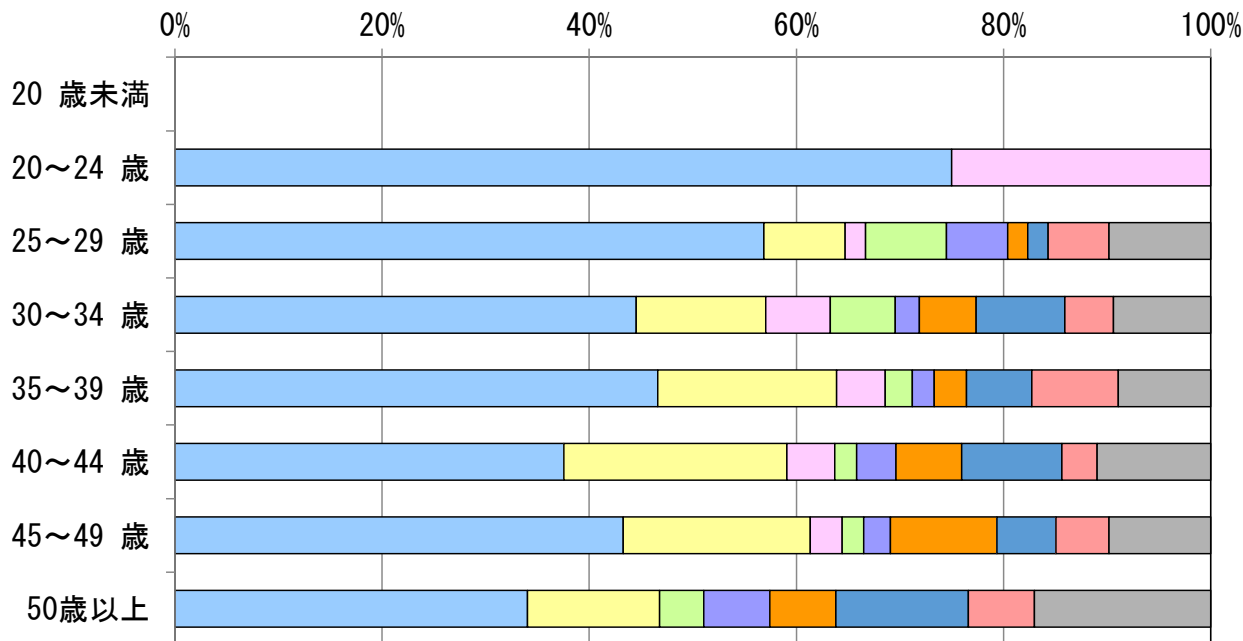


- 子育てに係わる経済的支援の充実
- 住環境の充実
- 自然環境の維持・保全
- 医療サービスの充実
- 無回答
- 教育環境の充実
- 交通の利便性や安全性の向上
- 防犯対策の充実
- その他

(11)「子育てについて充実・向上等を望む施策」×「年齢」

(N=852)

● 若い世代ほど「子育てに係わる経済的支援の充実」が最も高い割合となっている。また、年代が上がるほど、「教育環境の充実」が高くなっている。



- 子育てに係わる経済的支援の充実
- 教育環境の充実
- 住環境の充実
- 自然環境の維持・保全
- 医療サービスの充実
- 交通の利便性や安全性の向上
- 防犯対策の充実
- その他
- 無回答

※20～24歳の回答者が少ない(4人、0.5%)ことに留意が必要である。

2-2-8 夫婦世帯アンケート結果のまとめ

結婚過程

- 職場や友人・兄弟を通じてパートナーと知り合い、年齢的に適当と感じて結婚に至っている夫婦が多い。
- 年代別にみると、結婚を決めた主なきっかけは、25歳を境に「子どもができた」から「年齢的に適当」に変わる。

子どもの数についての考え方

- 夫婦が理想とする子どもの数は「2人」が約半数を占め、次いで「3人」が3割強を占める。
- 理想の子どもの数に対し、最終的に何人の子どもを持つかについては、「2人」が約半数だが、「1人」が2割弱を占め、理想と現実に乖離がみられる。特に年齢が上がるにつれ、「1人」の割合が高くなり、理想との乖離が広がる。
- これに対し、3世代同居では、「2人」、「3人」の割合が高くなり、世代同居の効果が確認できる。
- 理想の子ども数を実現できない要因は「年齢や健康上の理由」が最多で、次いで「収入が不安定」となる。また、子どもの数が理想より少ない理由は「お金がかかる」が多い。
- 理想の出生の実現には、身体的理由・経済的理由が障壁となっている。

不妊について

- 不妊を心配したことがある夫婦は約3割であり、男性より女性、20代より30代・40代の方が心配する割合が高い。
- 大和市が不妊・不育治療の助成を行っていることを知っている夫婦は、約4割にとどまった(知らないが約5割)。

子育て支援施策への要望

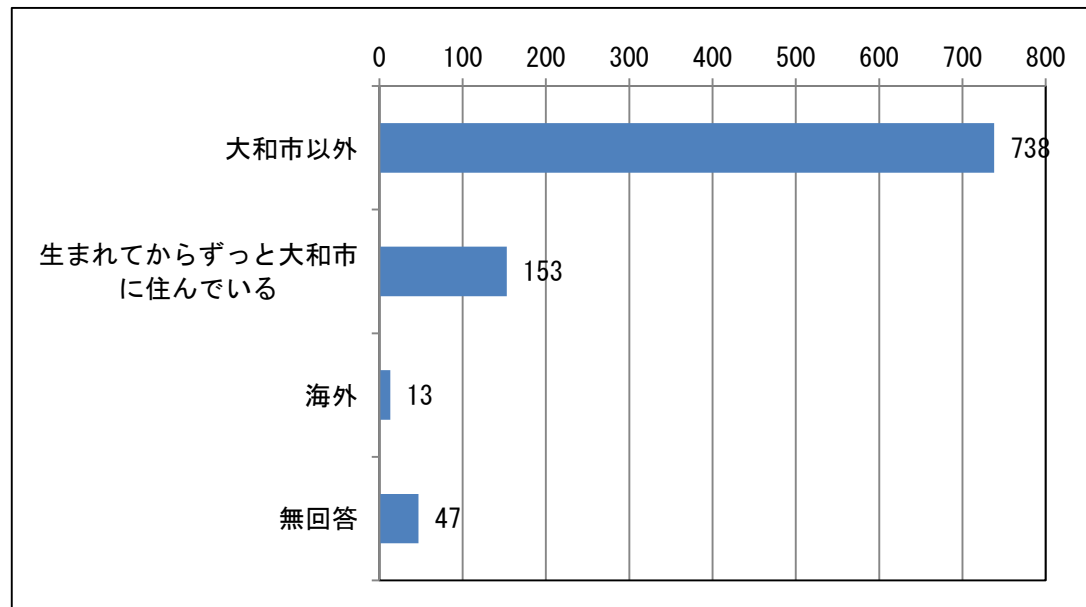
- 子育て支援に関して希望する施策は、「経済的支援」が突出して多い。
- 年代別にみると、若い世代ほど経済的支援を求めるのに対し、年代が上がるにつれ教育環境の充実を求める傾向がある。
- 女性は男性より教育環境の充実を求め、男性は女性より防犯対策の充実を求める傾向がみられる。

2-3 定住意向アンケート

2-3-1 定住意向について

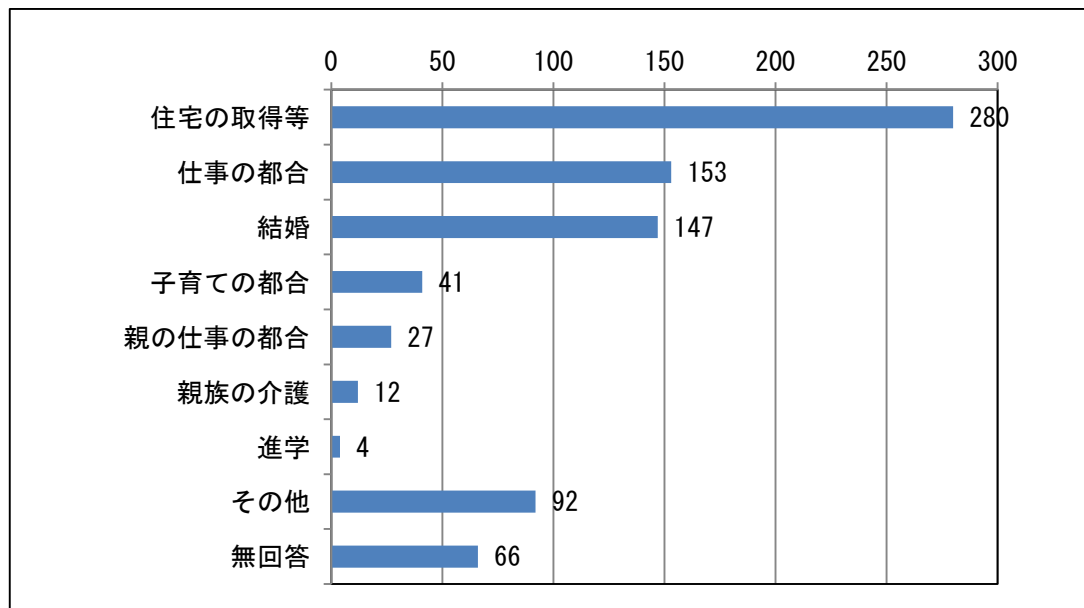
(1) 以前の居住地 (N=951)

- 以前の居住地は「大和市以外」(77.6%)が最も多く、次いで「生まれてからずっと大和市に住んでいる」(16.1%)となっている。



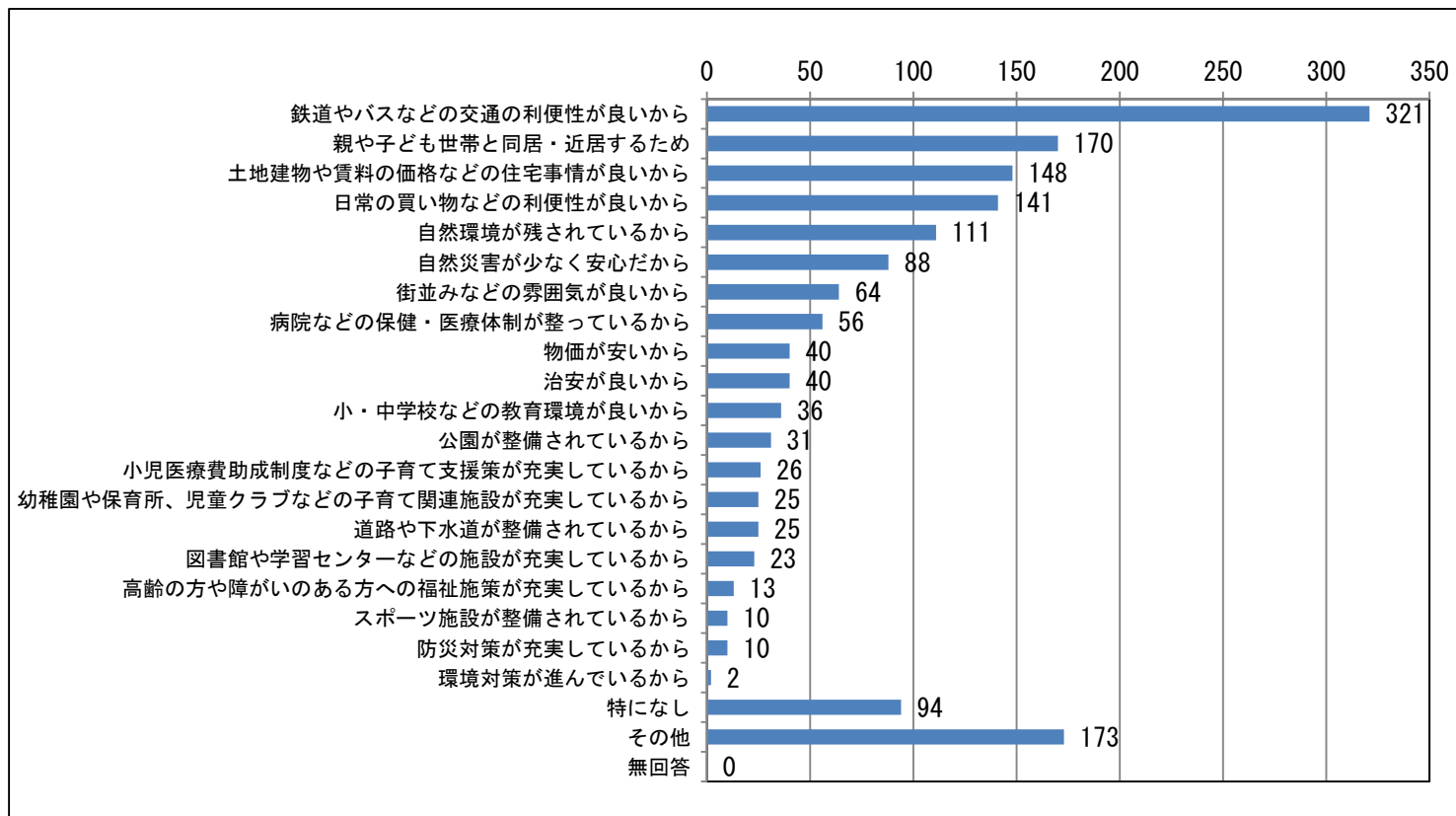
(2) 大和市への転入のきっかけ (N=738)

- 大和市への転入のきっかけは「住宅の取得等」(280)が最も多く、次いで「仕事の都合」(153)、「結婚」(147)となっている。



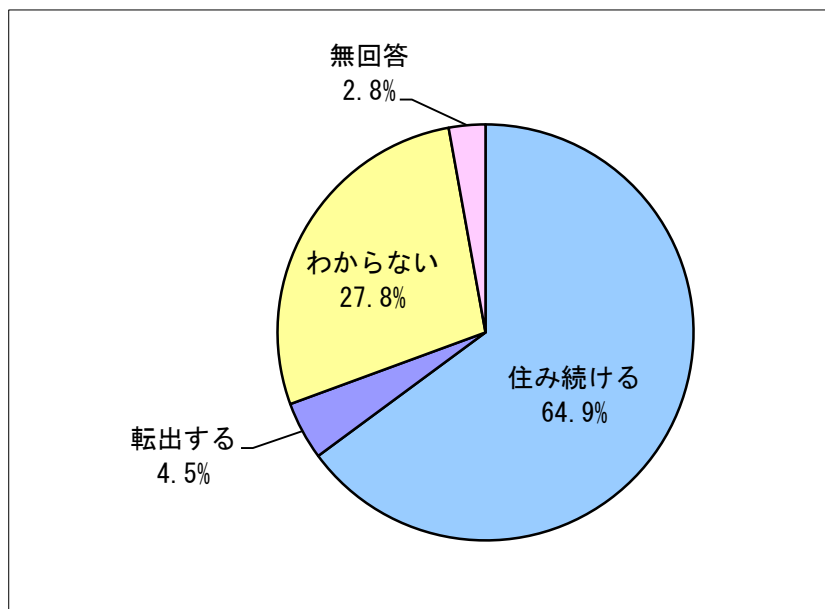
(3) 大和市を選択した理由 (N=738)

- 転入時に大和市を選択した理由は「鉄道やバスなどの交通の利便性が良いから」(321)が最も多く、次いで「親や子どもせたいと同居・近居するため」(170)、「土地建物や賃料の価格などの住宅事情が良いから」(148)、「日常の買い物などの利便性が良いから」(141)となっている。
※「その他」(173)は除く。



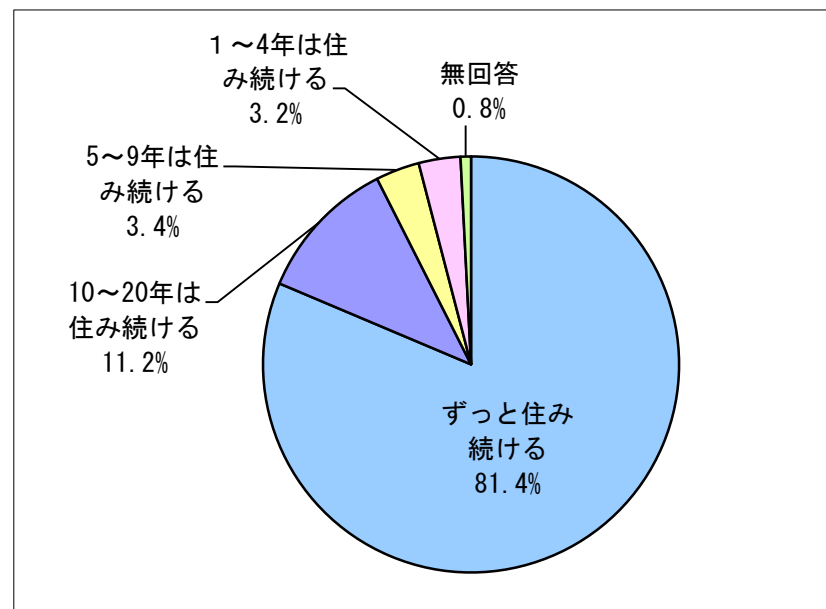
(4) 定住意向 (N=951)

- 今後の定住意向は「住み続ける」(64.9%)が最も多く大半を占める。次いで「わからない」(27.8%)となっている。「転出する」はわずか4.5%となっている。



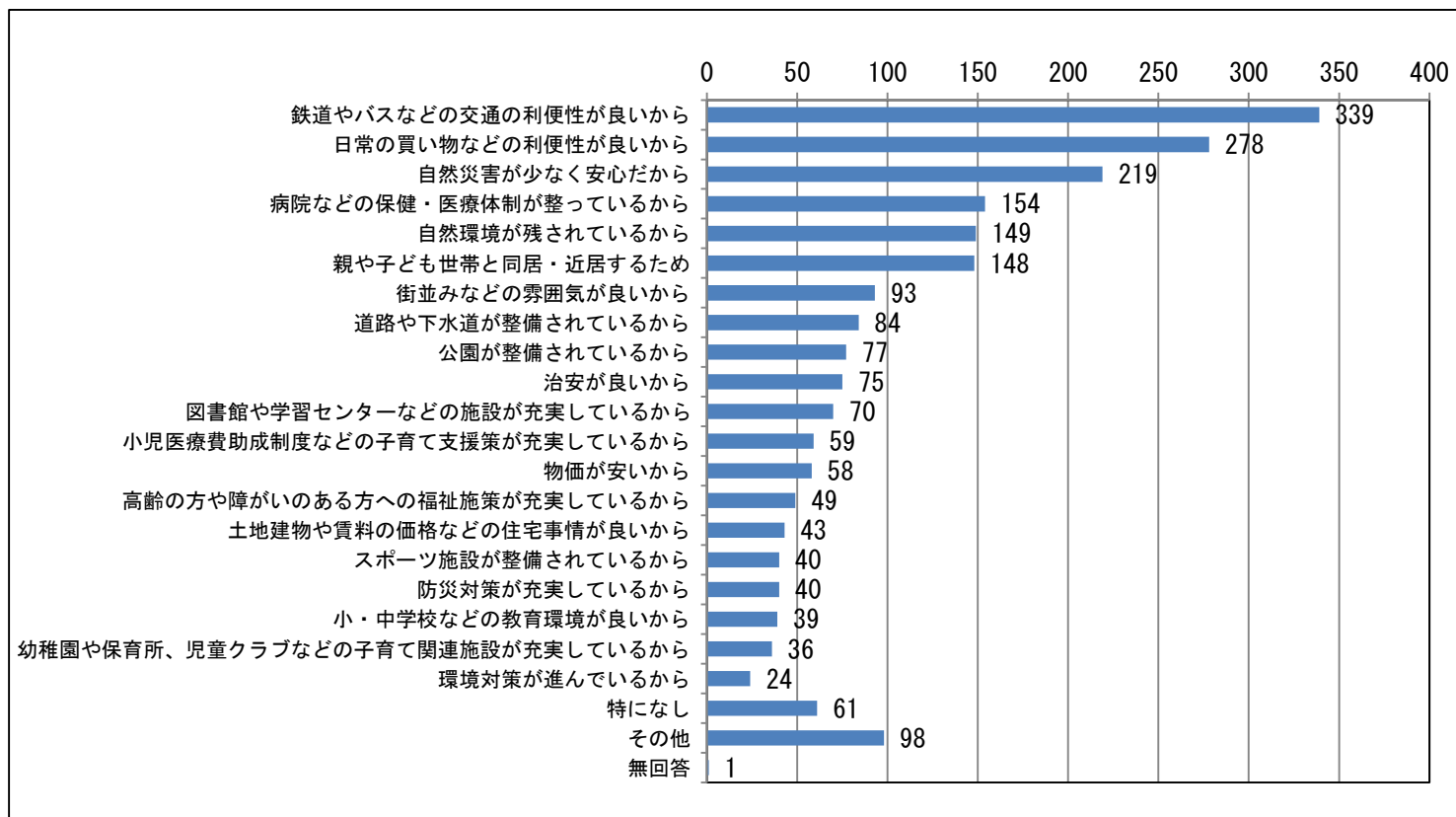
(5) 定住の予定期間 (N=617)

- どのくらい住み続けるかについては、「ずっと住み続ける」(81.4%)が最も多く、次いで「10～20年は住み続ける」(11.2%)となっている。



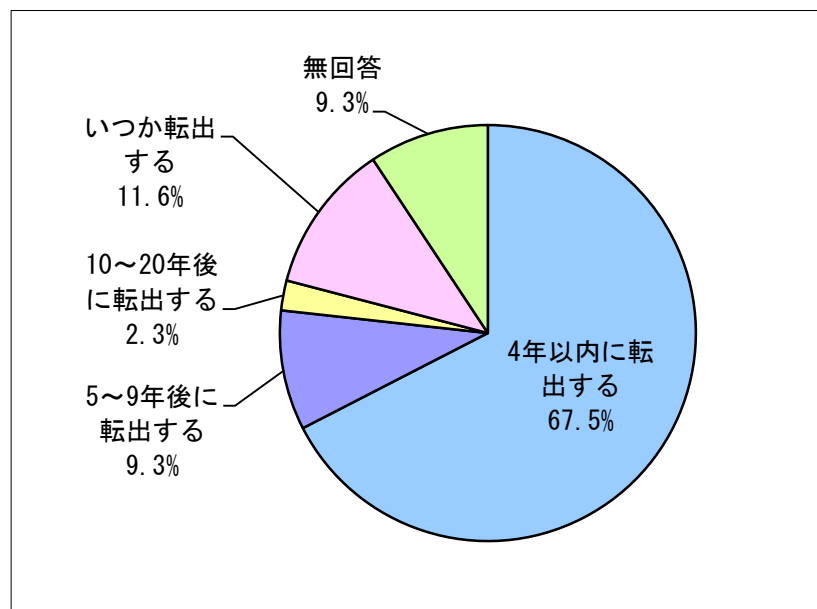
(6) 定住する理由 (N=617)

- 大和市に住み続ける理由は「鉄道やバスなどの交通の利便性が良いから」(339)と最も多く、次いで「日常の買い物などの利便性が良いから」(278)、「自然災害が少なく安心だから」(219)、「病院などの保健・医療体制が整っているから」(154)、「自然環境が残されているから」(149)、「親や子ども世帯と同居・近居するため」(148)となっている。



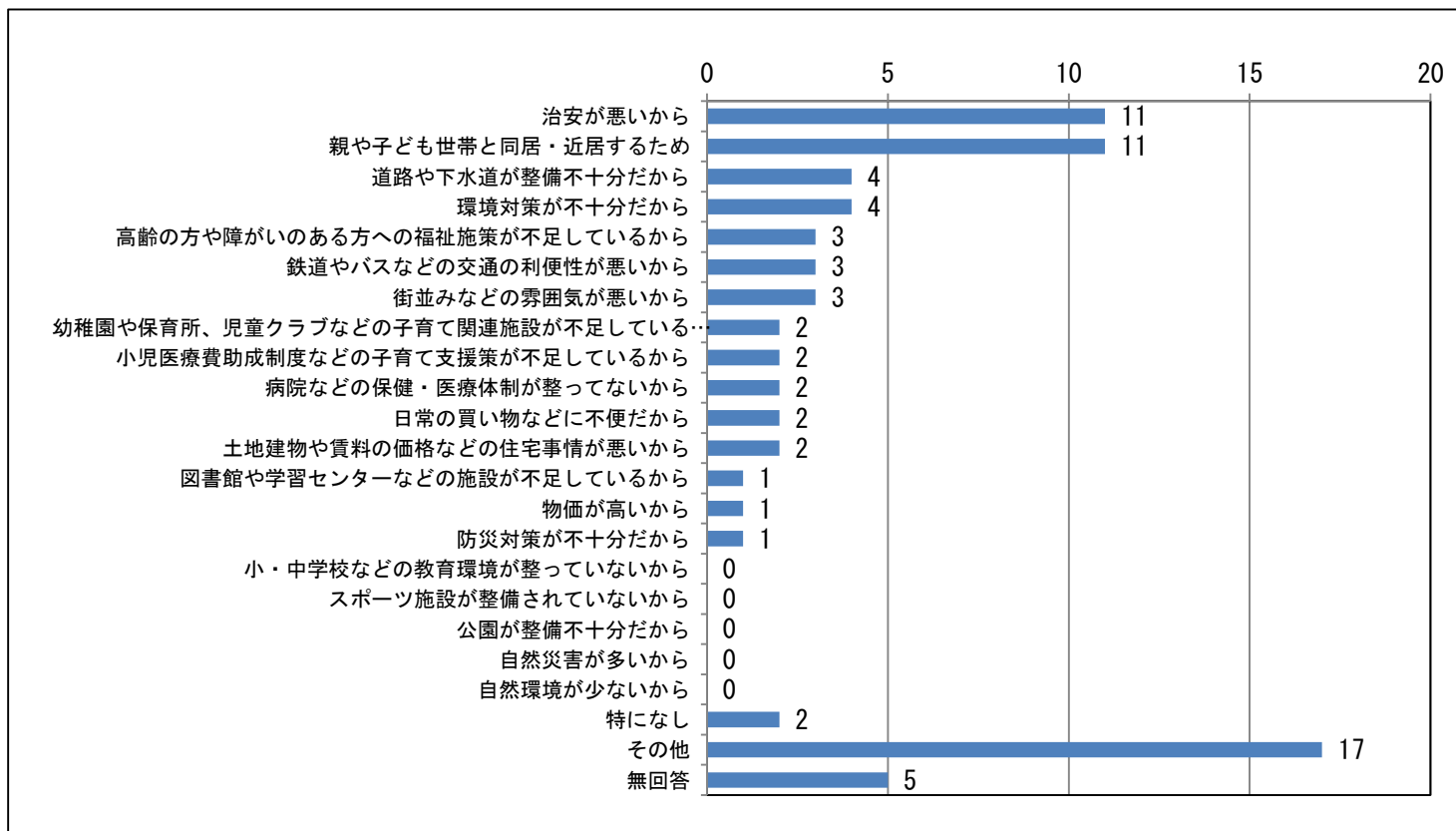
(7) 転出の予定時期 (N=43)

- 転出する時期は「4年以内」(67.5%)が最も多く、次いで「いつか転出する」(11.6%)、「5～9年後」(9.3%)となっている。



(8) 転出する理由 (N=43)

- 大和市を転出する理由は「治安が悪いから」(11)が最も多く、次いで「親や子ども世帯と同居・近居するため」(9)となっている。
※「その他」(22)は除く。

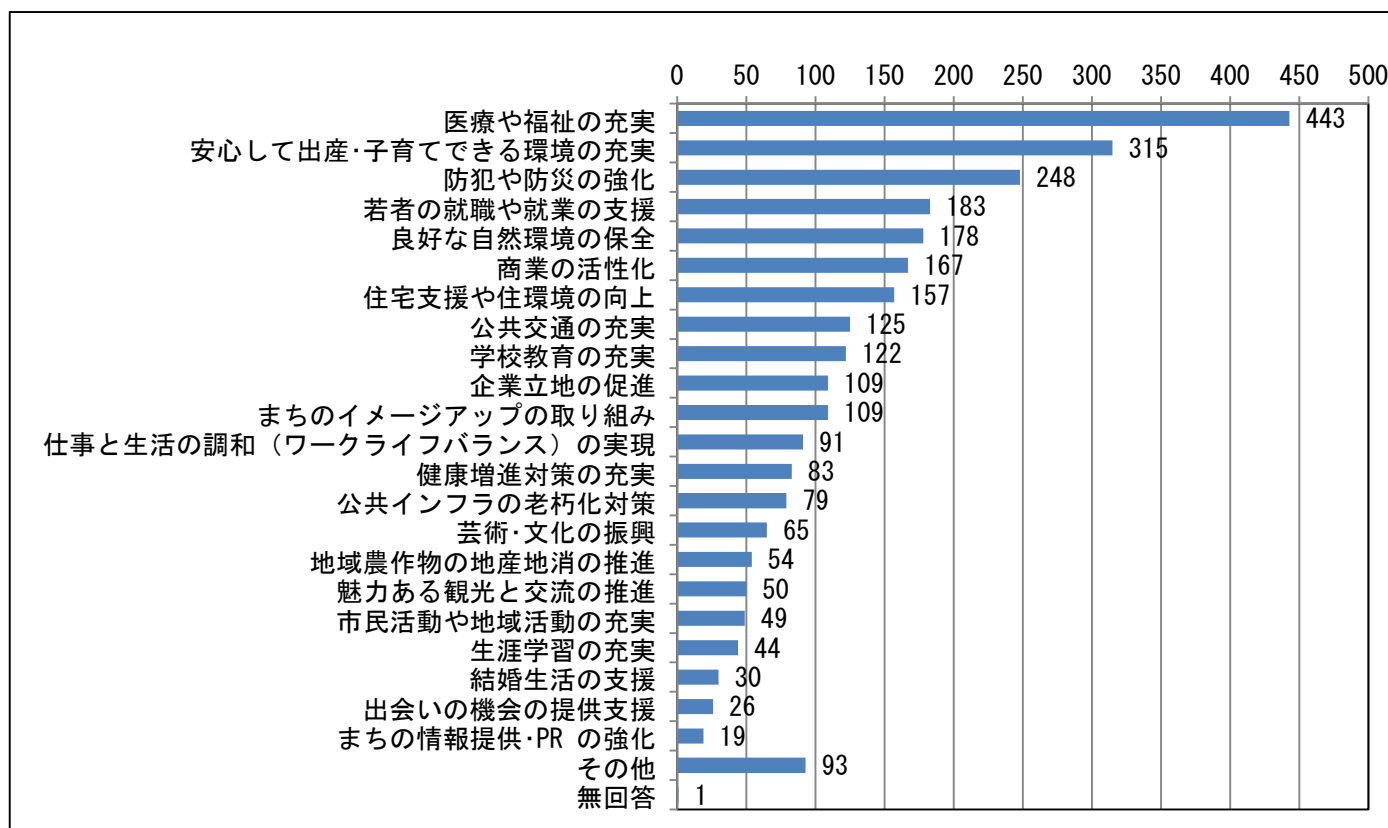


※その他には「仕事の都合」等が5件、「結婚するため」が3件となっている。

2-3-2 定住促進に向けた取り組みについて

- 定住促進に向けて市が力を入れるべき取り組みについては「医療や福祉の充実」(443)が最も多く、次いで「安心して出産・子育てできる環境の充実」(315)、「防犯や防災の強化」(248)、「若者の就職や就業の支援」(183)、「良好な自然環境の保全」(178)となっている。

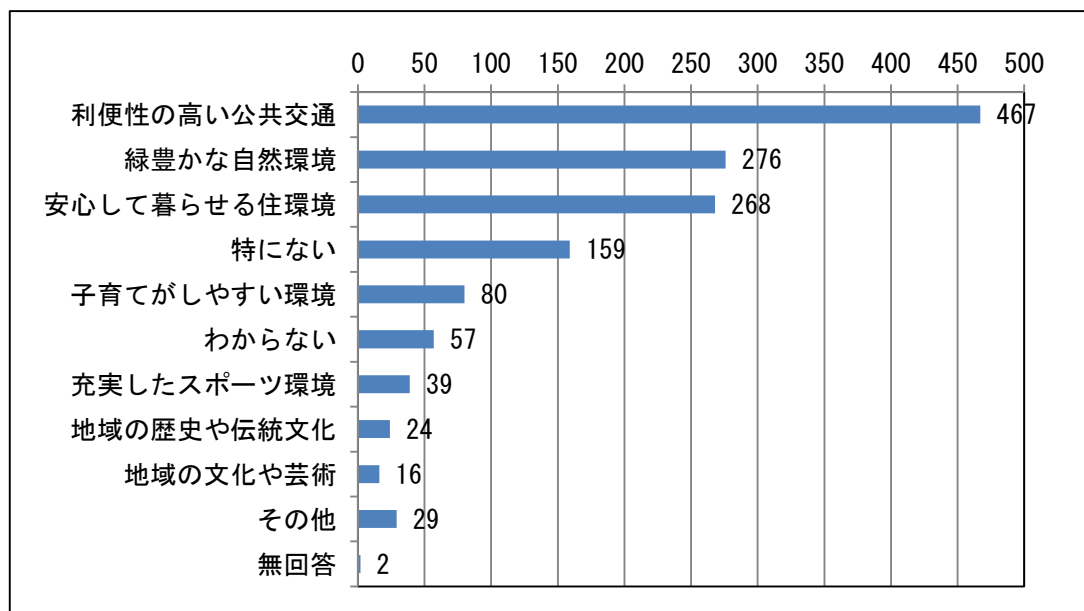
(N=951)



2-3-3 大和市の魅力や愛着について

- 大和市の魅力や愛着を感じることは「利便性の高い公共交通」(467)、「緑豊かな自然環境」(276)、「安心して暮らせる住環境」(268)となっている。一方、「特にない」(159)もこれに続いている。

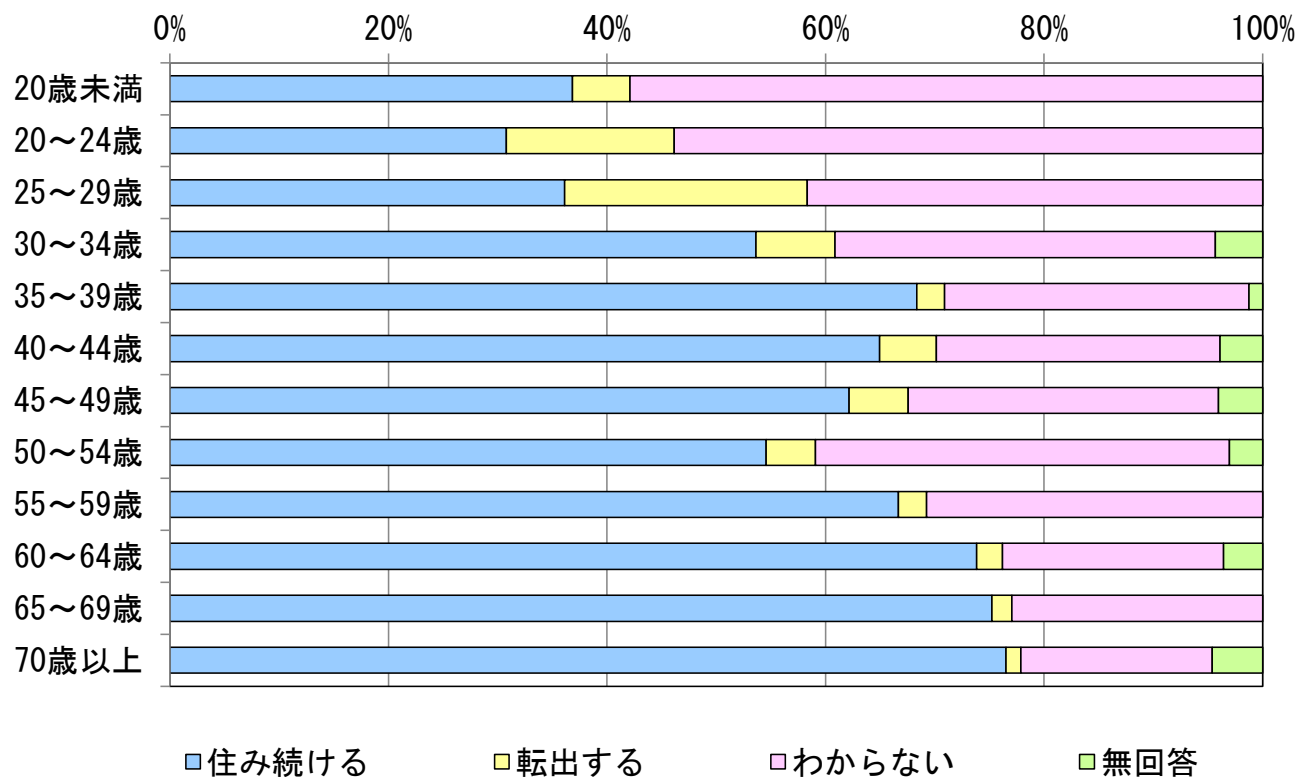
(N=951)



2-3-4 クロス集計

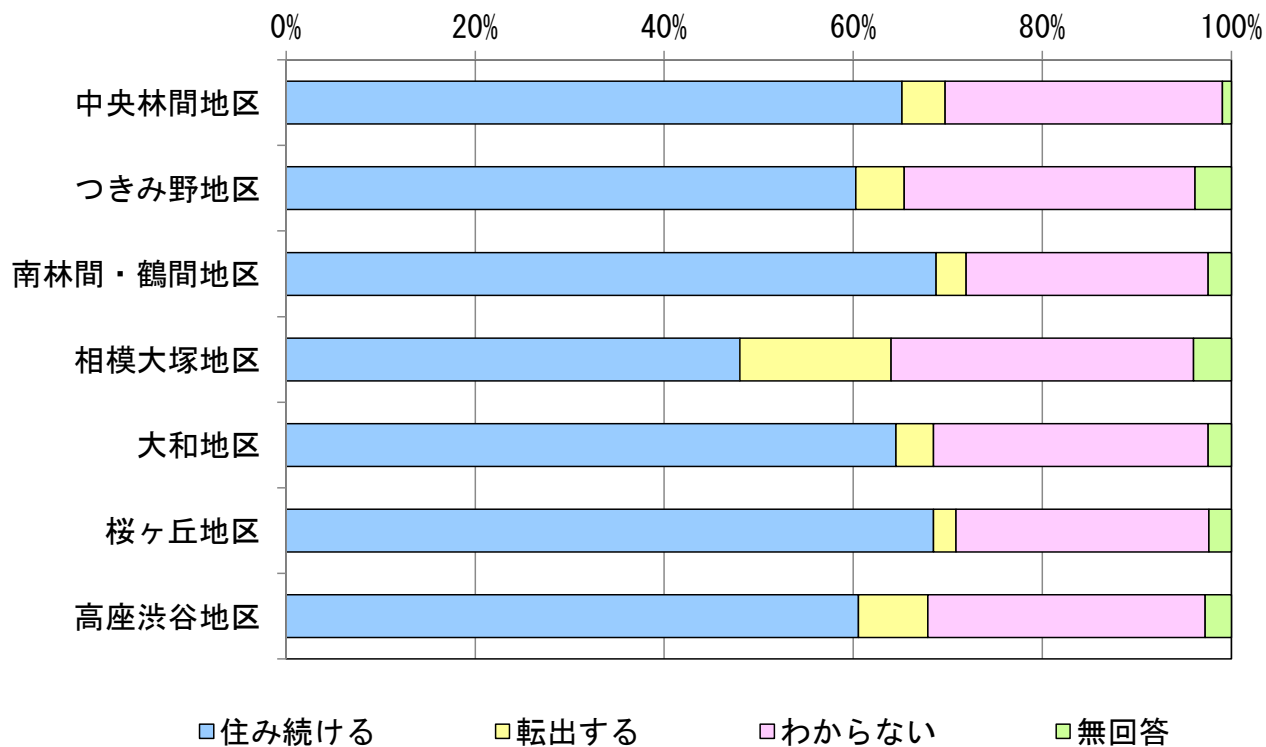
(1)「定住意向」×「年齢」 (N=947)

- 概ね、若い世代ほど「住み続ける」割合が小さくなっている。



(2)「定住意向」×「居住地区」 (N=945)

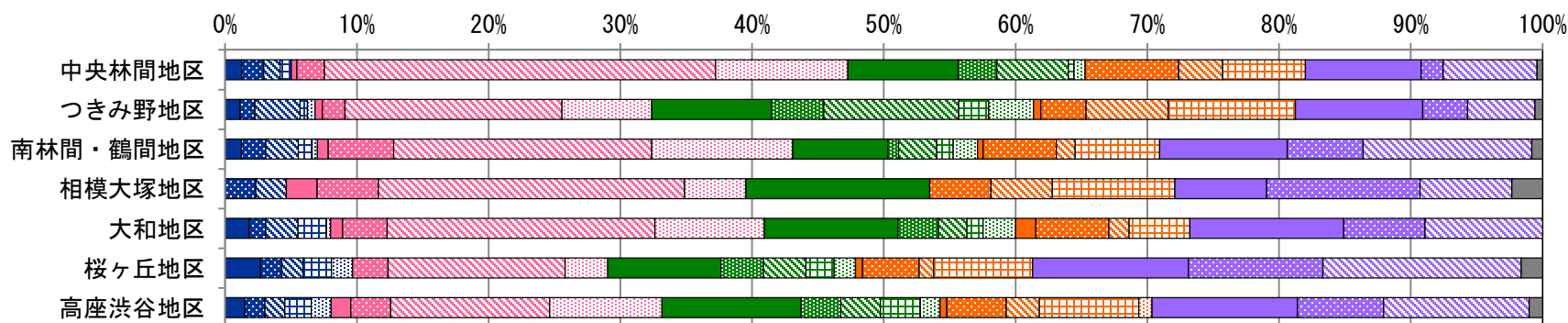
- 相模大塚地区を除く全ての地区で「住み続ける」の割合が6割以上を占めている。



※相模大塚地区の回答者が少ない(25人、2.6%)ことに留意が必要である。

(3)「定住する理由」×「居住地区」 (N=945)

- 南林間・鶴間地区を除く全ての地区で、「鉄道やバスなどの交通の利便性が良いから」の割合が最も高く、それ以外では、「日常の買い物などの利便性が良いから」、「自然災害が少なく安全だから」、「自然環境が残されているから」が比較的高い。「自然環境が残されているから」では相模大塚地区の割合が高い。

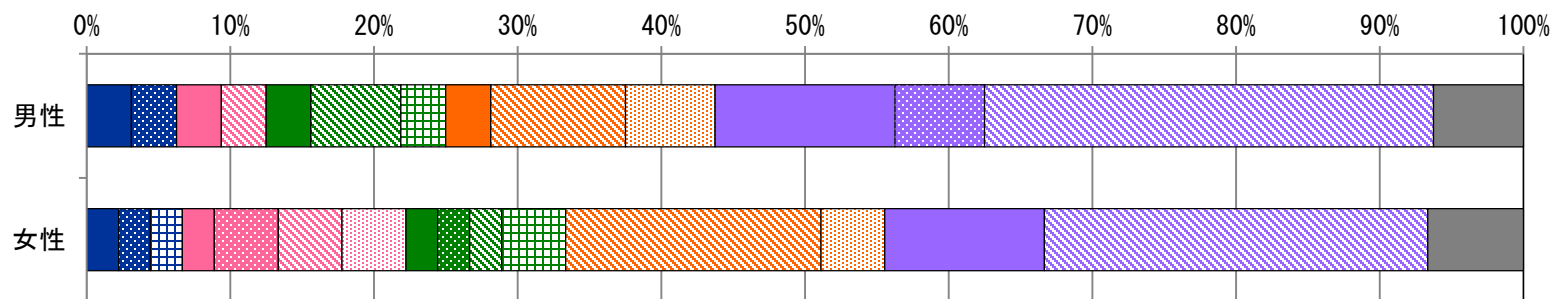


- 子育て 幼稚園や保育所、児童クラブなどの子育て関連施設が充実しているから
- 子育て 小児医療費助成制度などの子育て支援策が充実しているから
- 教育・文化・スポーツ 小・中学校などの教育環境が良いから
- 教育・文化・スポーツ 図書館や学習センターなどの施設が充実しているから
- 教育・文化・スポーツ スポーツ施設が整備されているから
- 健康・福祉 病院などの保健・医療体制が整っているから
- 健康・福祉 高齢の方や障がいのある方への福祉施策が充実しているから
- 利便性 日常の買い物などの利便性が良いから
- 利便性 鉄道やバスなどの交通の利便性が良いから
- 経済性 物価が安いから
- 経済性 土地建物や賃料の価格などの住宅事情が良いから
- まちづくり 道路や下水道が整備されているから
- まちづくり 街並みなどの雰囲気が良いから
- まちづくり 公園が整備されているから
- 安全・安心 防災対策が充実しているから
- 安全・安心 自然災害が少なく安心だから
- 安全・安心 治安が良いから
- 環境 環境対策が進んでいるから
- 環境 自然環境が残されているから
- その他 特になし
- その他 親や子ども世帯と同居・近居するため
- その他 無回答
- その他 その他

※相模大塚地区の回答者が少ない(25人、2.6%)ことに留意が必要である。

(4)「転出する理由」×「性別」 (N=943)

- 男女ともに「治安が悪いから」、「親や子どもの世帯と同居・近居するため」の割合が高い。また、「治安が悪いから」は、女性の割合が高くなっている。



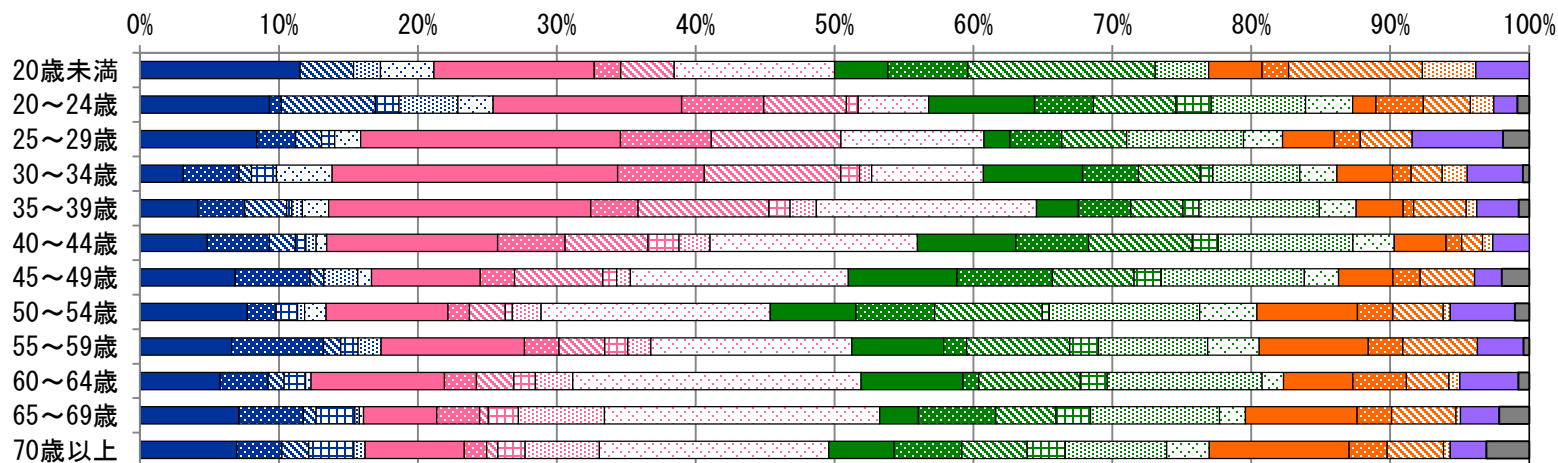
- 子育て 幼稚園や保育所、児童クラブなどの子育て関連施設が不足しているから
- 教育・文化・スポーツ 小・中学校などの教育環境が整っていないから
- 教育・文化・スポーツ スポーツ施設が整備されていないから
- 健康・福祉 病院などの保健・医療体制が整っていないから
- 利便性 日常の買い物などに不便だから
- 経済性 物価が高いから
- まちづくり 道路や下水道が整備不十分だから
- 安全・安心 防災対策が不十分だから
- 安全・安心 治安が悪いから
- 環境 環境対策が不十分だから
- その他 特になし
- その他 無回答
- 子育て 小児医療費助成制度などの子育て支援策が不足しているから
- 教育・文化・スポーツ 図書館や学習センターなどの施設が不足しているから
- 健康・福祉 高齢の方や障がいのある方への福祉施策が不足しているから
- 利便性 鉄道やバスなどの交通の利便性が悪いから
- 経済性 土地建物や賃料の価格などの住宅事情が悪いから
- まちづくり 街並みなどの雰囲気が悪いから
- まちづくり 公園が整備不十分だから
- 安全・安心 自然災害が多いから
- 環境 自然環境が少ないから
- その他 親や子ども世帯と同居・近居するため
- その他 その他

※問13にて「転出する」との回答が少ない(43人、45%)こと、問17にて「その他」の回答が多い(22人、51.2%)ことに留意する必要がある。

(5)「定住促進に向けて市が力を入れて取り組むべきこと」

×「年齢」 (N=947)

● 「医療や福祉の充実」、「安心して出産・子育てできる環境の充実」、「防犯や防災の強化」の割合が高く、「医療や福祉の充実」は60～64歳の割合が高く、「安心して出産・子育てできる環境の充実」は30～34歳の割合が高く、「防犯や防災の強化」は60～64歳の割合が高くなっている。

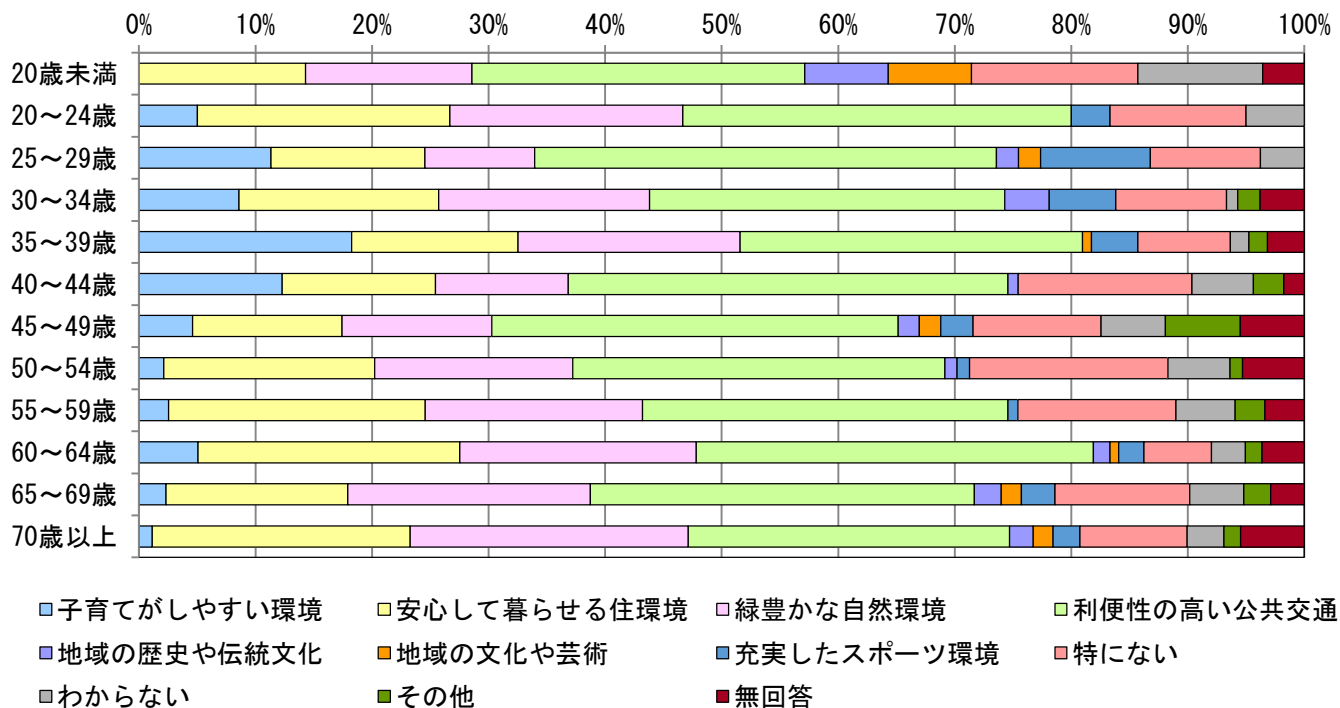


- 雇用 若者の就職や就業の支援
- ▨ 交流 魅力ある観光と交流の推進
- ▨ 結婚 出会いの機会の提供支援
- 子育て 安心して出産・子育てできる環境の充実
- ▨ 教育 学校教育の充実
- ▨ 健康・福祉 健康増進対策の充実
- 暮らし 住宅支援や住環境の向上
- ▨ 経済 商業の活性化
- ▨ 安全・安心 防犯や防災の強化
- 環境 良好な自然環境の保全
- ▨ 広報 まちのイメージアップの取り組み
- その他 その他

- 雇用 企業立地の促進
- ▨ 交流 市民活動や地域活動の充実
- ▨ 結婚 結婚生活の支援
- 子育て 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の実現
- ▨ 教育 生涯学習の充実
- ▨ 健康・福祉 医療や福祉の充実
- 暮らし 公共交通の充実
- ▨ 経済 地域農作物の地産地消の推進
- ▨ 安全・安心 公共インフラの老朽化対策
- 文化 芸術・文化の振興
- ▨ 広報 まちの情報提供・PR の強化
- その他 無回答

(6)「大和市の魅力や愛着を感じること」×「年齢」 (N=947)

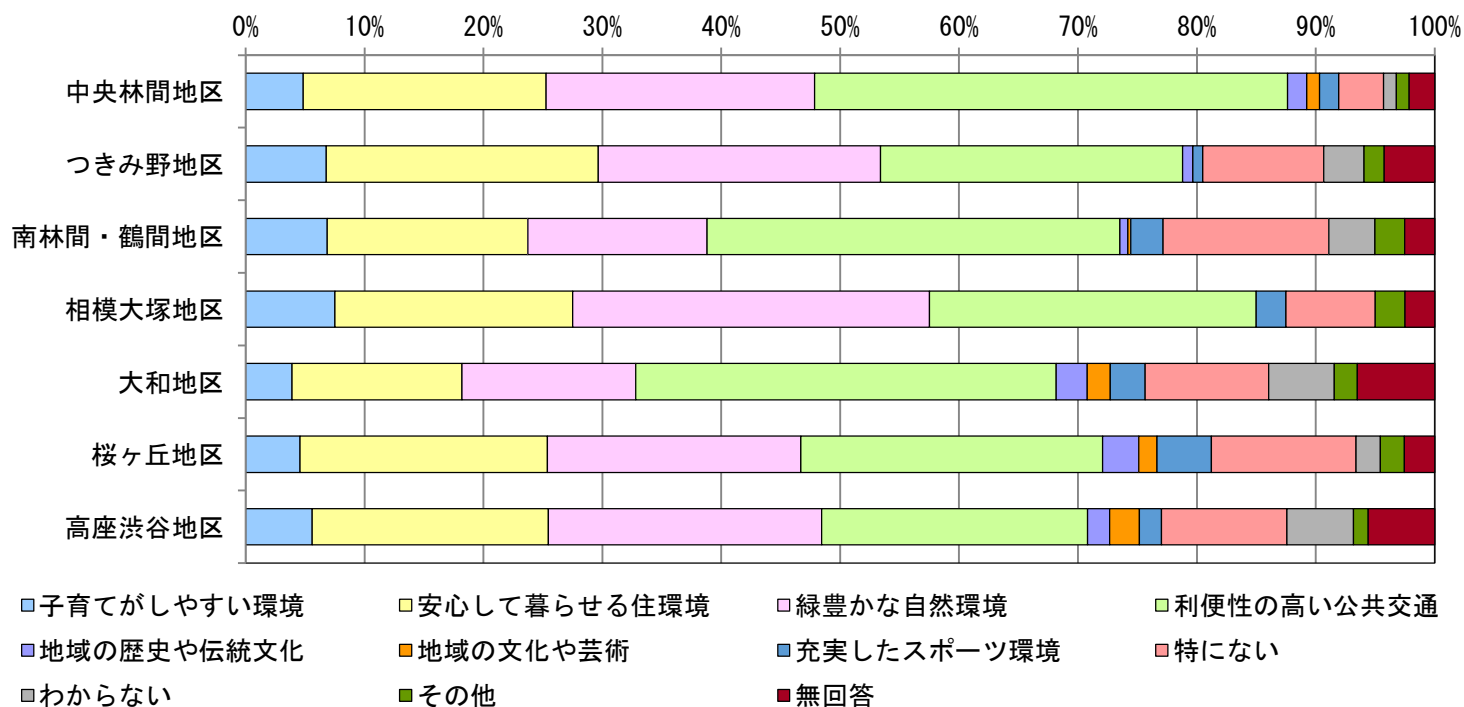
- 全ての年齢層で、「利便性の高い公共交通」の割合が最も高い。それ以外では、「緑豊かな自然環境」、「安心して暮らせる住環境」の割合が高くなっている。「利便性の高い公共交通」は25～29歳の割合が高く、「緑豊かな自然環境」は70歳以上の割合が高くなっている。子育て環境については、年代で評価が分かれている。



(7)「大和市の魅力や愛着を感じること」×「居住地区」

(N=945)

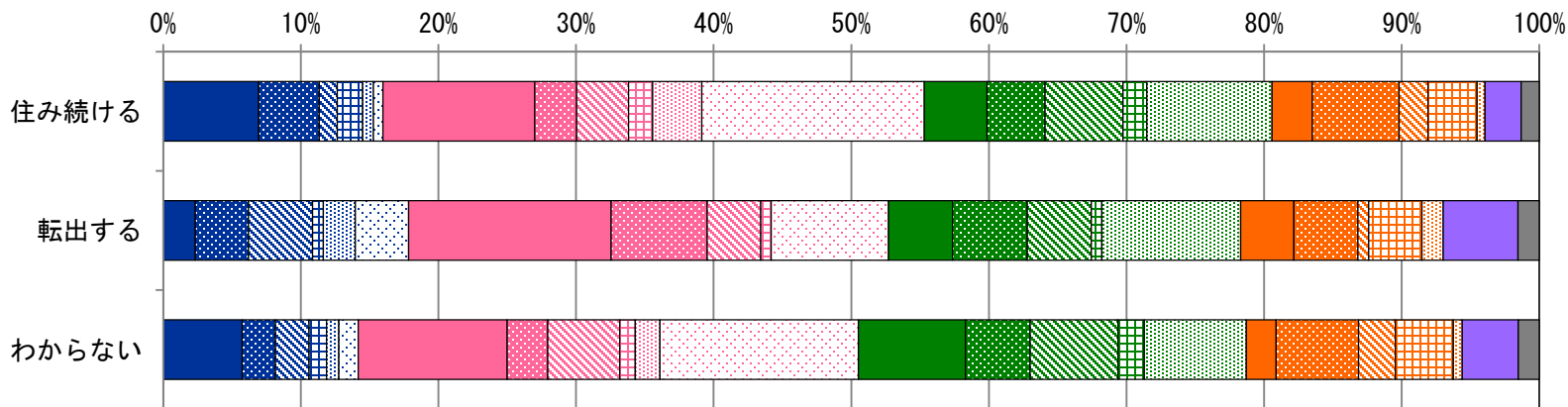
- 「利便性の高い公共交通」「緑豊かな自然環境」、「安心して暮らせる住環境」の割合が高く、「利便性の高い公共交通」は中央林間地区の割合が高く、「緑豊かな自然環境」は相模大塚地区の割合が高い。



※相模大塚地区の回答者が少ない(25人、2.6%)ことに留意が必要である。

(8)「定住促進に向けて市が力を入れて取り組むべきこと」 ×「定住意向」(N=924)

● 「住み続ける」と回答している人は「医療や福祉の充実」が最も多く、「転出する」と回答している人は「安心して出産、子育てできる環境の充実」が最も多い。



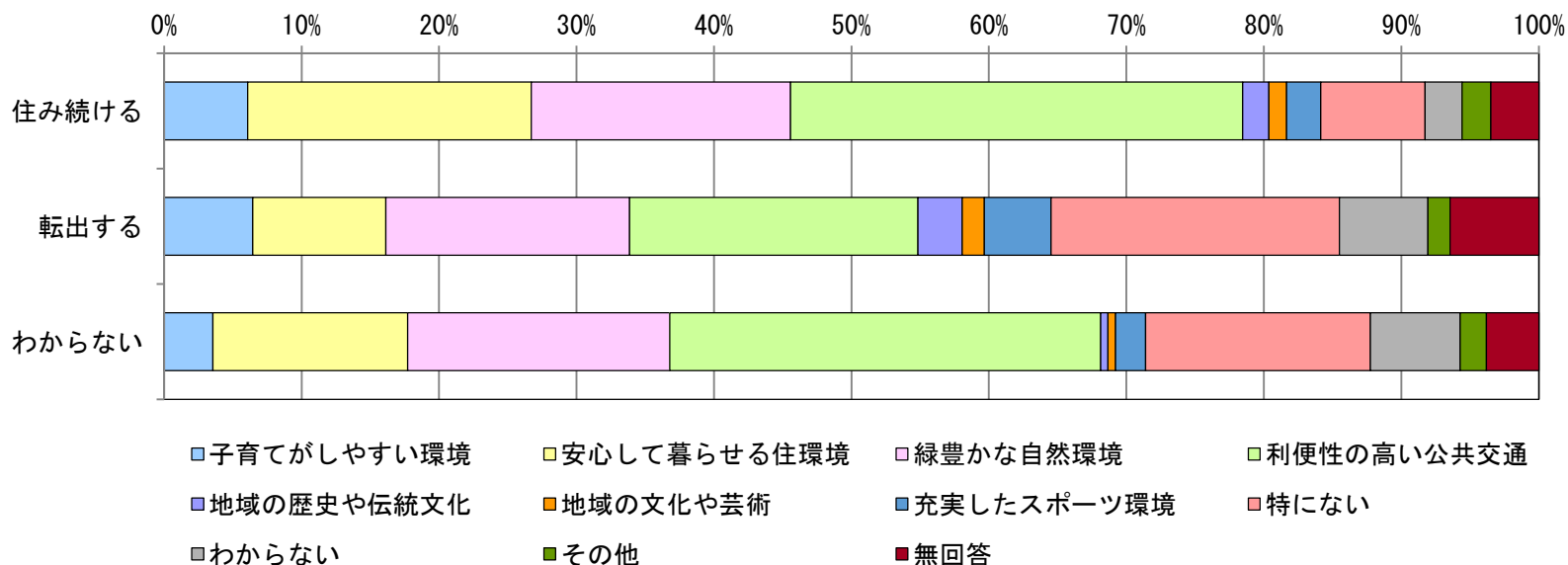
- 若者の就職や就業の支援
- 魅力ある観光と交流の推進
- 出会いの機会の提供支援
- 安心して出産・子育てできる環境の充実
- 学校教育の充実
- 健康増進対策の充実
- 住宅支援や住環境の向上
- 商業の活性化
- 防犯や防災の強化
- 良好な自然環境の保全
- まちのイメージアップの取り組み
- その他

- 企業立地の促進
- 市民活動や地域活動の充実
- 結婚生活の支援
- 仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の実現
- 生涯学習の充実
- 医療や福祉の充実
- 公共交通の充実
- 地域農作物の地産地消の推進
- 公共インフラの老朽化対策
- 芸術・文化の振興
- まちの情報提供・PR の強化
- 無回答

(9) 「大和市が魅力や愛着を感じること」×「定住意向」

(N=924)

- 定住・転出意向を問わず、大和市の魅力は「利便性の高い公共交通」が最も多い。また、「住み続ける」と回答した人は、次いで「安心して暮らせる住環境」、「緑豊かな自然環境」となっているが、「転出する」と回答した人は「緑豊かな自然環境」、「安心して暮らせる住環境」とともに、「特にない」が多くなっている。



2-3-5 定住意向アンケート結果のまとめ

大和市への転入状況

- 生まれてからずっと大和市に住んでいる市民は2割弱にとどまる。市外から転入してきた市民が8割弱を占める。
- 大和市への転入のきっかけは「住宅の取得」、「仕事の都合」、「結婚」などのライフステージの節目が関係している。
- 転入先に大和市を選んだ理由は、「交通利便性の良さ」、「親や子ども世帯との同居・近居」、「住宅事情の良さ」などが挙げられている。

定住意向

- 今後も大和市に住み続ける意向を持つ市民は6割強を占める。
- 定住する理由として、「交通利便性の良さ」、「買い物利便性の良さ」、「災害が少ない」などが挙げられている。
- 一方で、定住するかどうか「わからない」が2割強、「転出する」が1割弱と合わせて約3割を占める。
- 20代をはじめとする若い世代ほど、定住意向が低い傾向がある。
- 転出する理由としては、「治安が悪い」、「親や子どもとの同居・近居」などが挙げられている。「治安が悪い」は、特に女性の割合が高い。

定住促進に向け市が力を入れるべき取り組み

- 定住促進に向け市が力を入れるべき取り組みは、「医療や福祉の充実」、「出産・子育て環境の充実」、「防犯や防災の強化」などが上位に挙がる。
- 年代別に特徴的な傾向をみると、20代は「就職・就業支援」や「観光・交流推進」、「出会いの機会提供」、「商業の活性化」の割合が比較的大きくなっている。30代は「出産・子育て環境の充実」の割合が大きい。40代以降になると「医療や福祉の充実」の割合が大きくなる傾向がある。
- 「転出する」意向の市民は、「子育て環境の充実」を特に求めている。また、「住み続ける」意向の市民は、「医療福祉の充実」を特に求めている。

大和市の魅力や愛着を感じることに

- 「利便性の高い公共交通」や「緑豊かな自然環境」、「安心して暮らせる住環境」が本市の魅力や愛着となっている。一方、魅力や愛着を何も感じない層が一定程度存在する。
- 特に「転出する」意向のある市民は、大和市の魅力や愛着を何も感じない傾向がみられる。
- 「子育て環境」については、年代で評価が分かれる結果となった。（30代後半を中心に評価されている）。
- 地区別で見ると、中央林間地区や大和地区などが交通利便性の良さが評価されているのに対し、相模大塚地区は住環境は自然環境の良さが評価されていることが特徴的である。